# 針原西遺跡発掘調査概要

－町道東老田高岡線道路整備事業にかかる埋蔵文化財調査－

2002年3月

富山県小杉町教育委員会

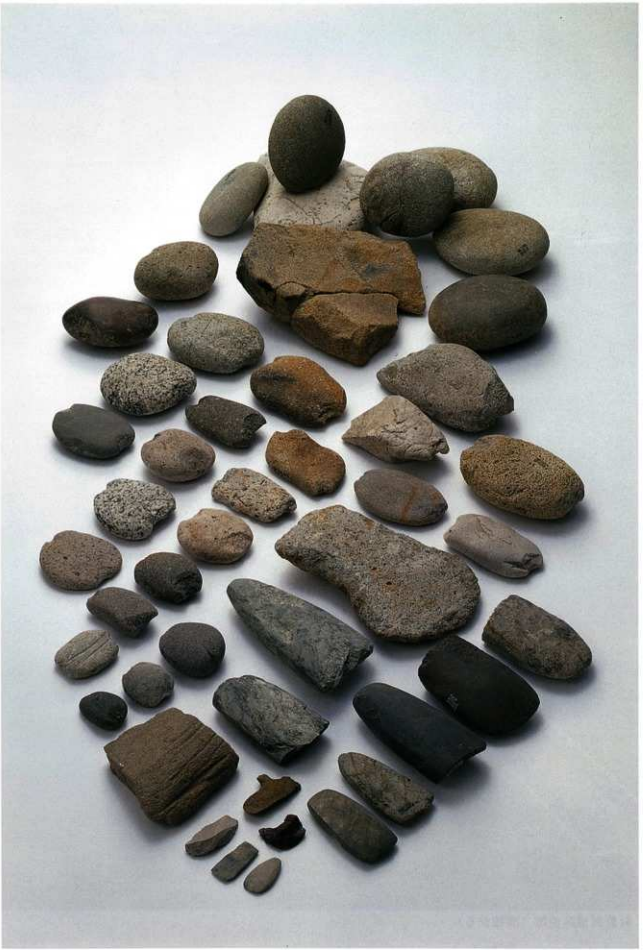
# 針原西遺跡発掘調査概要

－町道東老田高岡線道路整備事業にかかる埋蔵文化財調査－

2002年3月

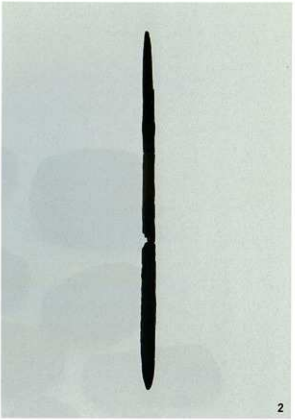
富山県小杉町教育委員会

針原西遺跡俯瞰（南西から）



縄文時代の川跡出土遺物（石製品）

縄文時代の川跡出土遺物（土器片錘・土製円盤）



縄文時代の木製品（東区　川跡出土）　1：短弓状木製品　2：掘棒（1/10）　3：男根状木製品（1/10）

## 例　　言

1．本書は富山県射水郡小杉町黒河地内に所在する針原西遺跡の発掘調査概要である。

2．調査は、町道東老田高岡線道路整備事業に先立ち、小杉町都市建設課の依頼を受け小杉町教育委員会が実施したものである。

3．調査期間及び面積は次のとおりである。

試掘調査　平成12（2000）年２月21日～２月25日（延べ５日間）　発掘面積1,178㎡（対象面積　14,000㎡）

本 調 査　平成12（2000）年７月17日～12月22日（延べ92日間）　発掘面積2,000㎡

遺物整理及び報告書作成

平成13（2001）年１月４日～平成14（2002）年３月31日

4．調査事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、課長補佐　高橋　登が調査事務を担当し、平成13年度は生涯学習課課長　御後庄司が、14年度は課長　萩野恭一が総括した。また調査は主任　原田義範が担当した。

5．調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センターから助言・指導をいただいた。また、発掘から報告書刊行に至るまで次の方々から協力を得た。記して深く謝意を表したい。（敬称略、五十音順）

上野　章・酒井重洋・田中　明・星井正弘・堀井泰樹・山内賢一・黒河地区安全対策協議会

6．本書掲載の遺物写真は、牛嶋　茂氏（奈良文化財研究所）が撮影した写真を使用した。

7．発掘調査及び遺物整理の従事者は次のとおりである。（五十音順）

［現地調査］大杉正夫・酒井すず子・酒井義雄・高橋八智子・土田ユキ子・西野浪子・久野静枝・三上正夫
村井睦子・安田久実代・山口チズ子

［整理作業］金瀬ますみ・吉島正喜・開　一美・堀壁実津子・安田久実代・吉沢泰子

8．調査で得た図面・写真・遺物は小杉町教育委員会で保管し、出土遺物には遺跡名を次の略号で記入している。

針原西遺跡　：HWW－Ⅰ

## 凡　　例

1．本書に掲載の遺構図の方位は真北、水平基準は海抜高である。

2．調査区の座標は次のとおりである。

〔東区〕X14Y10＝X78545.816 Y－4205.319　X14Y40＝X78537.739 Y－4264.773

X６Y15＝X78528.615 Y－4213.074　X６Y40＝X78521.885 Y－4262.619

〔西区〕X５Y30＝X78504.377 Y－4376.631　X６Y10＝X78511.796 Y－4337.274

X15Y５＝X78530.988 Y－4329.814　X14Y25＝X78523.570 Y－4369.171

3．遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。

SD：溝、SK：土坑、SX：不明遺構

4．遺構図の縮尺はSDを１/80、SK・SXは１/40を基本にした。

5．出土遺物実測図の縮尺は土器の１/４を基本とし、縮尺の異なる出土遺物についてはそれぞれのスケールとともにその縮尺を表記した。また遺物図版の縮尺は１/３を基本にし、異なる場合は別に表記した。

6．遺物実測図中の土器などの表現は次のとおりとした。

灰釉　　鉄釉　　石器（断面）　　須恵器・珠洲（断面）

7．土層図中の色調は、小山正忠・竹原秀雄編　1967『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社の表記を用い、土色の測定には土色計（第一合成社製　SRC－１）を使用した。

# 目　　次

Ⅰ　針原西遺跡と周辺の縄文遺跡 …… 1
Ⅱ　調査の経緯 …… 3
Ⅲ　調査の概要 …… 5
Ⅳ　針原西遺跡出土縄文土器群について …… 57
Ⅴ　針原西遺跡における古環境について …… 79

# 挿図目次

第1図　周辺の主な遺跡 …… 2
第2図　包蔵地の範囲と試掘調査位置 …… 4
第3図　試掘トレンチ配置と発掘調査区 …… 4
第4図　試掘調査の出土遺物 …… 5
第5図　遺構配置図（西区） …… 6
第6図　SD01（西区） …… 7
第7図　SD02・03，SX04（西区） …… 9
第8図　SD01・包含層出土遺物（西区） …… 11
第9図　遺構配置図（東区） …… 13
第10図　SD01（東区） …… 15
第11図　SD02（東区） …… 17
第12図　SD03～06・08，SK07，SX08（東区） …… 18
第13図　グリッド断面図（東区） …… 19
第14図　SX07・09・10（東区） …… 21
第15図　SX12・15・16・20～22・24・25・28～35・41～43，SK36，SD48（東区） …… 22
第16図　川跡出土遺物（東区） …… 23
第17図　川跡出土遺物（東区） …… 24
第18図　川跡出土遺物（東区） …… 25
第19図　SD02・04，包含層（1～3層下）出土遺物（東区） …… 26
第20図　川跡3層・3層下出土遺物（東区） …… 27
第21図　川跡4層出土遺物（東区） …… 28
第22図　川跡4層出土遺物（東区） …… 29
第23図　川跡4層・4層下出土遺物（東区） …… 30
第24図　川跡4層・4層以下出土遺物（東区） …… 31

第25図　川跡４層と４層以下出土遺物（東区）……32
第26図　川跡４層と４層以下出土遺物（東区）……33
第27図　川跡４層と４層以下出土遺物（東区）……34
第28図　川跡４層・４層下と５層以下出土遺物（東区）……35
第29図　川跡５層出土遺物（東区）……36
第30図　川跡５層・５層下出土遺物（東区）……37
第31図　川跡５層と６層以下出土遺物（東区）……38
第32図　川跡５層と６層以下出土遺物（東区）……39
第33図　川跡５層と６層以下出土遺物（東区）……40
第34図　川跡６層出土遺物（東区）……41
第35図　川跡６層・６層下出土遺物（東区）……42
第36図　川跡６層と７層出土遺物（東区）……43
第37図　川跡３～７層出土遺物（東区）……44
第38図　川跡３～７層出土遺物（東区）……45
第39図　SX07 出土遺物（東区）……46
第40図　SX09 出土遺物（東区）……47
第41図　SX09 出土遺物（東区）……48
第42図　SX09 出土遺物（東区）……49
第43図　SX09・10 出土遺物（東区）……50
第44図　川跡出土遺物（東区）……51
第45図　川跡出土遺物（東区）……52
第46図　川跡出土遺物（東区）……53
第47図　川跡，SX08・09 出土遺物（東区）……54
第48図　川跡出土遺物（東区）……55
第49図　縄文時代の出土遺物……60

# 表目次

第1表　針原西遺跡の主な周辺遺跡 …… 3
第2表　出土遺物観察表 …… 61～77

# 写真図版目次

巻頭図版1　針原西遺跡俯瞰（南西から）
巻頭図版2　縄文時代の川跡出土遺物（石製品）
巻頭図版3　縄文時代の川跡出土遺物（土器片錘・土製円盤）
巻頭図版4　縄文時代の木製品（東区　川跡出土）
　1：短弓状木製品（1/3）　2：掘棒（1/10）　3：男根状木製品（1/10）

図版1　遺跡遠景
図版2　試掘調査
図版3　西区
図版4　東区：上層
図版5～8　東区：下層
図版9～24　出土遺物

# Ⅰ　針原西遺跡と周辺の縄文遺跡

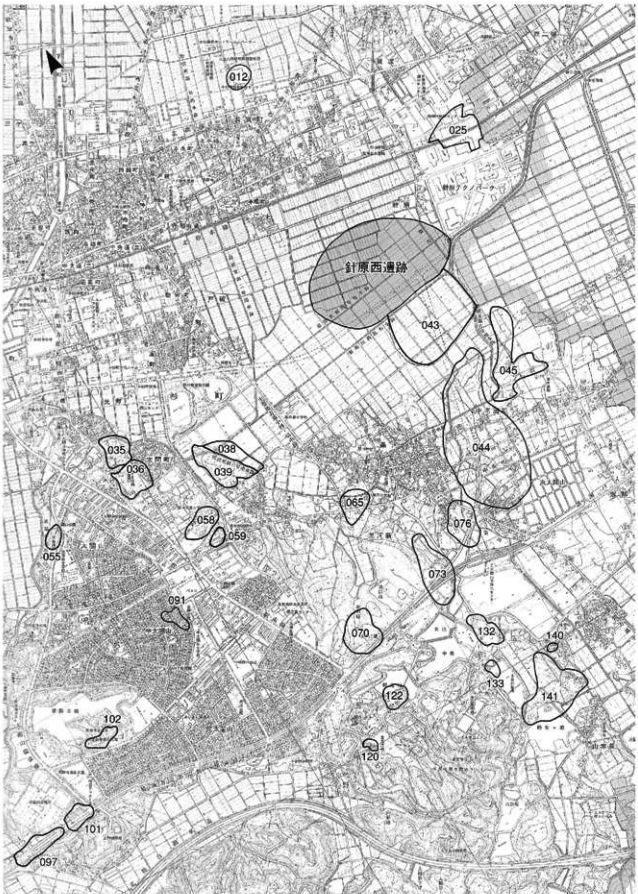
富山県は北に日本海、南に北アルプス・立山連峰に囲まれている。急峻な北アルプスに端を発する黒部川・片貝川・早月川・常願寺川・神通川・庄川・小矢部川の七大河川が扇状地・自然堤防帯・潟埋積平野を形成し、富山平野を成す。

この富山平野に対し、常願寺川と神通川により形成された、もう一つの富山平野が富山県のほぼ中央に位置し、その西に射水平野が位置する。本調査区が所在する富山県射水郡小杉町は、この射水平野と標高約10ｍほどの射水丘陵に位置する。本調査区は、この平野部と丘陵部のちょうど境目辺りに位置する。

今回は本遺跡周辺の遺跡として、1990年に富山考古学会縄文部会がまとめた「射水丘陵の縄文時代遺跡」を基に縄文時代の遺物が確認されている26遺跡をあげた。26遺跡の内訳を見ると、丘陵部に展開する遺跡は中山中遺跡や囲山遺跡、南太閤山Ⅰ遺跡などといった20遺跡が確認されている。これに対し平野部に展開する遺跡は、戸破若宮遺跡、黒河尺目遺跡など、本遺跡を入れて６遺跡が確認されている。丘陵部に展開する遺跡と平野部に展開する遺跡を時期別に比較すると、丘陵部においては、南太閤山１遺跡の早期をはじめとし晩期後半まで、万遍なく遺物が出土している。一方、平野部においては、本遺跡と黒河尺目遺跡で前期前半の遺物が確認されているが、量的には少なく、中期以降が中心となる。

この分布状況の違いについて、まず、遺跡数の違いは開発による調査数が原因の一つとしてあげられる。これは、早い時期に太閤山を中心とした地域の開発事業が進んだためと考えられる。次に、時期の違いについては、約6,000年前の「縄文海進」による海水面の上下が一つの要因として考えられる。縄文海進時において、本遺跡が位置する射水平野部は大半が海面下、もしくは波打ち際となり、また、河川河口部分に所在する本遺跡などは、湿地帯であったと考えられることから、生活環境としては劣悪な条件下となる。

このため、縄文時代早期後半から前期前半にかけての生活拠点は平野部よりも若干高めの丘陵地域に設置され、本遺跡をはじめとした平野部の遺跡は、これらの生活拠点のキャンプ・サイトとしての性格が強いものと考えられる。縄文海進の最大ピークは縄文時代前期中葉から後葉にかけてであり、このときに最も射水平野に海面が入り込んでいたと見られる。その後、中期にかけて徐々に海面は後退していき、中期中葉ほどになると、一時期、現海水面よりも低い水準を示している。このことは、平野部に展開する遺跡の出土状況でも明らかで、本遺跡や黒河尺目遺跡のように、前期前半の遺物は出土してくるのに対し、前期中葉期、型式で鍛ヶ森式から福浦上層式期の土器群がほとんど見られない。その一方で、中期の新保式古段階からまた土器群が見られてくるようになるということからも、遺跡形成の過程が理解できるかと考えられる。




第1図　周辺の主な遺跡（1：20,000）

| 遺跡番号 | 名称 | 所在地 | 種別 | 時代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 012 | 戸破若宮遺跡 | 戸破字若宮 | 散布地 | 縄文・弥・奈・平・中・近 | 平成3年発掘調査 |
| 025 | 針原東遺跡 | 戸破字針原、富山市 | 散布地 | 縄・弥・奈・平・中 | 平成2・3・4年発掘調査 |
| 035 | 中山中遺跡 | 黒河 | 散布地 | 旧石・縄文・弥・古墳・奈 | 昭和56・平元年試掘調査、平2年発掘調査 |
| 036 | 中山南遺跡 | 黒河 | 集落 | 縄文・弥生 | 昭和50年県指定史跡、昭38・43年発掘調査 |
| 038 | 三谷遺跡 | 黒河新 | 散布地 | 旧石・弥・古墳・奈・中世 | 昭和63年発掘調査 |
| 039 | 一ッ山古墳群 | 黒河新 | 墓・古墳 | 弥生・古墳・奈良 | 昭和63年発掘調査 |
| 043 | 黒河・中老田遺跡 | 黒河、富山市 | 散布地 | 縄文・奈良・平安・中世 | 平成13年発掘調査 |
| 044 | 黒河尺目遺跡 | 黒河字尺目 | 集落 | 旧石・縄・奈・平・中・近 | 平成3年発掘調査 |
| 045 | 塚越貝坪遺跡 | 中老田新・塚越字貝坪 | 散布地・製鉄 | 縄文(中)・平・中 | 昭和62・63・平成2年一部試掘調査 |
| 055 | 岡山遺跡 | 太閤山八丁目 | 散布地・墓 | 縄文(前)・弥生(後) | 昭和44年発掘調査 |
| 058 | 太閤山遺跡 | 黒河新字大開 | 散布地 | 縄文(中期) | |
| 059 | 大開遺跡 | 黒河新字大開 | 散布地 | 縄文(中期) | 昭和48年発掘調査 |
| 065 | 黒河竹山遺跡 | 黒河 | 散布地 | 縄文・奈良・平安 | 昭和62・63・平成3年一部試掘調査 |
| 070 | 高山遺跡 | 黒河字高山 | 散布地・製鉄 | 旧石器・平安 | 昭和54年発掘調査 |
| 073 | 東山Ⅱ遺跡 | 黒河字東山 | 散布地・製鉄 | 縄文・古墳・奈良 | 昭54・57年発掘調査、平2・3年試掘調査 |
| 076 | 表野遺跡 | 黒河新字表野 | 集落・製鉄 | 旧石器・縄文・奈良 | 昭和54年発掘調査、平成3年試掘調査 |
| 091 | 十三塚 | 中太閤山 | その他 | 縄文(中期)・近世 | 昭和45年発掘調査 |
| 097 | 南太閤山Ⅰ遺跡 | 南太閤山19丁目 | 集落・墓 | 縄・弥・古墳・奈・平・近 | 昭和57～60年発掘調査 |
| 101 | 南太閤山Ⅱ遺跡 | 南太閤山 | 製鉄 | 縄・弥・古・奈・平 | 昭和55～58年発掘調査 |
| 102 | 薬勝寺池南遺跡 | 中太閤山 | 散布地 | 縄文 | 昭和48年一部発掘調査 |
| 120 | 太閤山ランド内No15遺跡 | 黒河 | 散布地・製鉄 | 縄文・古代 | |
| 122 | 新溜池A遺跡 | 黒河 | 散布地・集落 | 旧石器・縄文(中)・奈良 | 昭56年試掘調査、昭57年発掘調査 |
| 132 | 土代A遺跡 | 黒河(十代字堀田ノ高) | 散布地・製鉄 | 旧石・縄文・奈・平 | 昭和56年試掘調査 |
| 133 | 石太郎A遺跡 | 黒河(土代字石太郎) | 散布地 | 旧石器・縄文 | 昭和56年試掘調査 |
| 140 | 土代遺跡 | 山本新(土代) | 散布地 | 縄文 | 昭和55年発掘調査 |
| 141 | 太閤山ランド内No26遺跡 | 山本新(土代) | 散布地・製鉄 | 旧石・縄文・奈良・平安 | |

**第1表　針原西遺跡の主な周辺遺跡**

# Ⅱ　調査の経緯

### 1調査に至るまで

針原西遺跡周辺の遺跡は、東側に隣接する針原東遺跡や西二俣遺跡、南側に位置する黒河・中老田遺跡が知られていた。当遺跡は、旭元中学生が昭和63年7～8月にかけて水田の畦や畑の踏査を行い、弥生時代の土器や奈良時代の須恵器・土師器などを採集し、遺跡の存在が明らかになったものである。この時の踏査で針原東遺跡や西二俣遺跡の存在も確認されている[中島1988]。

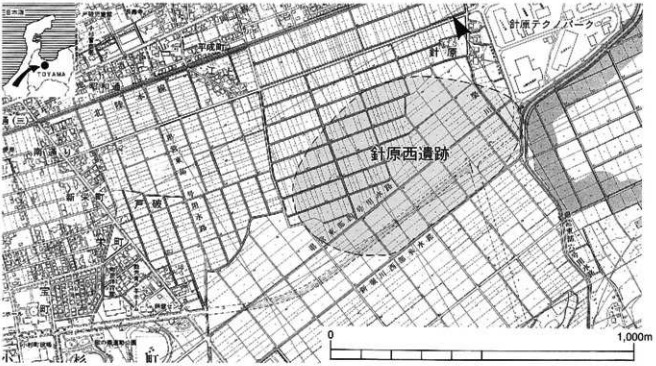
町道針原テクノパーク線道路整備事業は、昭和41年に都市計画決定された町道東老田高岡線道路整備事業（平成9年変更）が進むなか、町道177号線の交通量緩和を目的とし同路線の支線的な役割を担う道路として平成10年4月に計画されている。こうした経過の中、町教委にこの2路線の施工実施計画が示された。平成11年9月に町都市建設課と路線内の遺跡の取扱いについて協議したところ、秋の収穫後に周知の針原西遺跡を含む計画路線内の踏査を実施し、その結果を踏まえ調整を図っていくこととなった。

### 2分布調査（平成11年度）

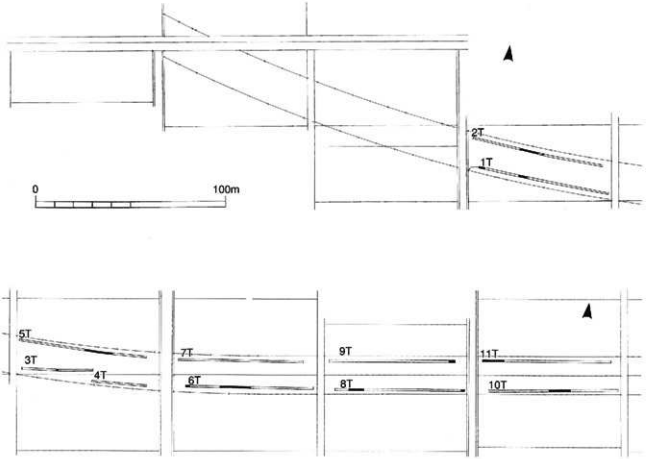
分布調査は10月5日に町教委が主体となり、町道東老田高岡線計画路線内全線を対象として実施し、周知の針原西遺跡を越える範囲で、弥生時代から近世に至る遺物の散布が確認された。この調査結果に基づき、遺物の散布が見られなかった計画路線東西端を除く路線内で試掘調査を実施することとなった。

### 3第1次試掘調査（平成11年度）

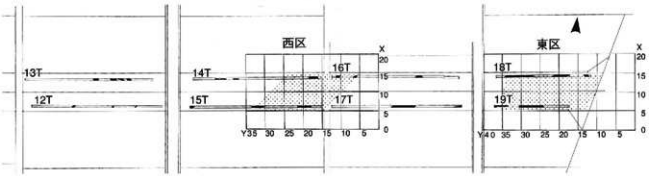
平成12年2月21日から2月25日まで町道東老田高岡線計画路線内の700m区間で、西から東へと道路敷に平行する試掘溝を19本設定し行った。縄文時代から近世に至る遺物と小河川や溝状遺構などが確認でき、遺物・遺構にまとまりの見られた2地区2,000㎡で本調査が必要となった。



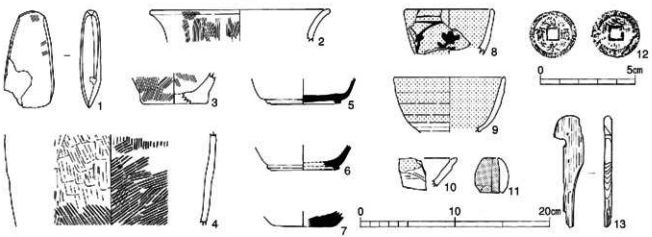

第２図　包蔵地の範囲と試掘調査位置




第３図　試掘トレンチ配置と発掘調査区




第３図　試掘トレンチ配置と発掘調査区




第４図　試掘調査の出土遺物

# Ⅲ　調査の概要

## １層序

調査区の基本層序は概ね１～５層に分層される。上から１層は水田耕作土、２層は黒褐色（2.5Y3/2）、３層は暗灰色（N3/0）で共に粘性やや強の遺物包含層、４層はオリーブ黒色（5Y3/1）で植物遺体を含む粘性強のピート層、５層は暗灰黄色（2.5Y4/2）で粘性やや弱・シルトの地山である。

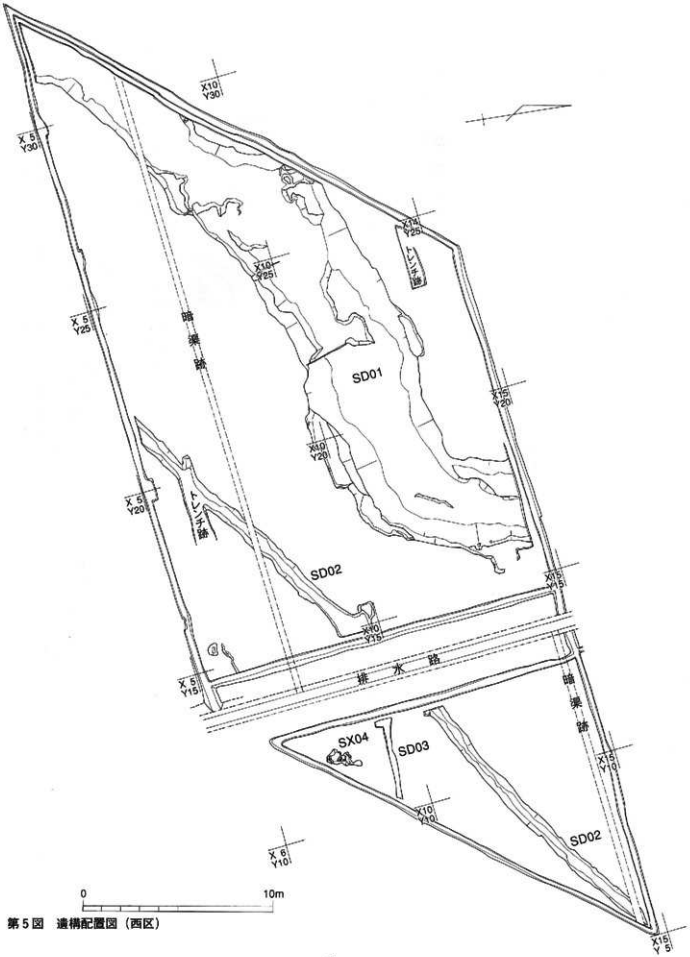
## ２遺構と遺物（西区）

**SD０１**［上層］（第５～８図、図版３）

調査区の西端から東西方向に蛇行しながら流れ、途中で北側へ向きを変え、北端は調査区外へのびる溝である。全長約30ｍを検出し、幅4.6ｍ～6.6ｍ、深さは最深で約60㎝を測る。埋土は粘性の強い黒褐色土が主体的に堆積し、粗砂・炭化物・植物遺体等が混在する。遺物は土師器・須恵器・越中瀬戸・棒状木製品が出土しているが、溝の帰属時期を特定するものではないと考える。

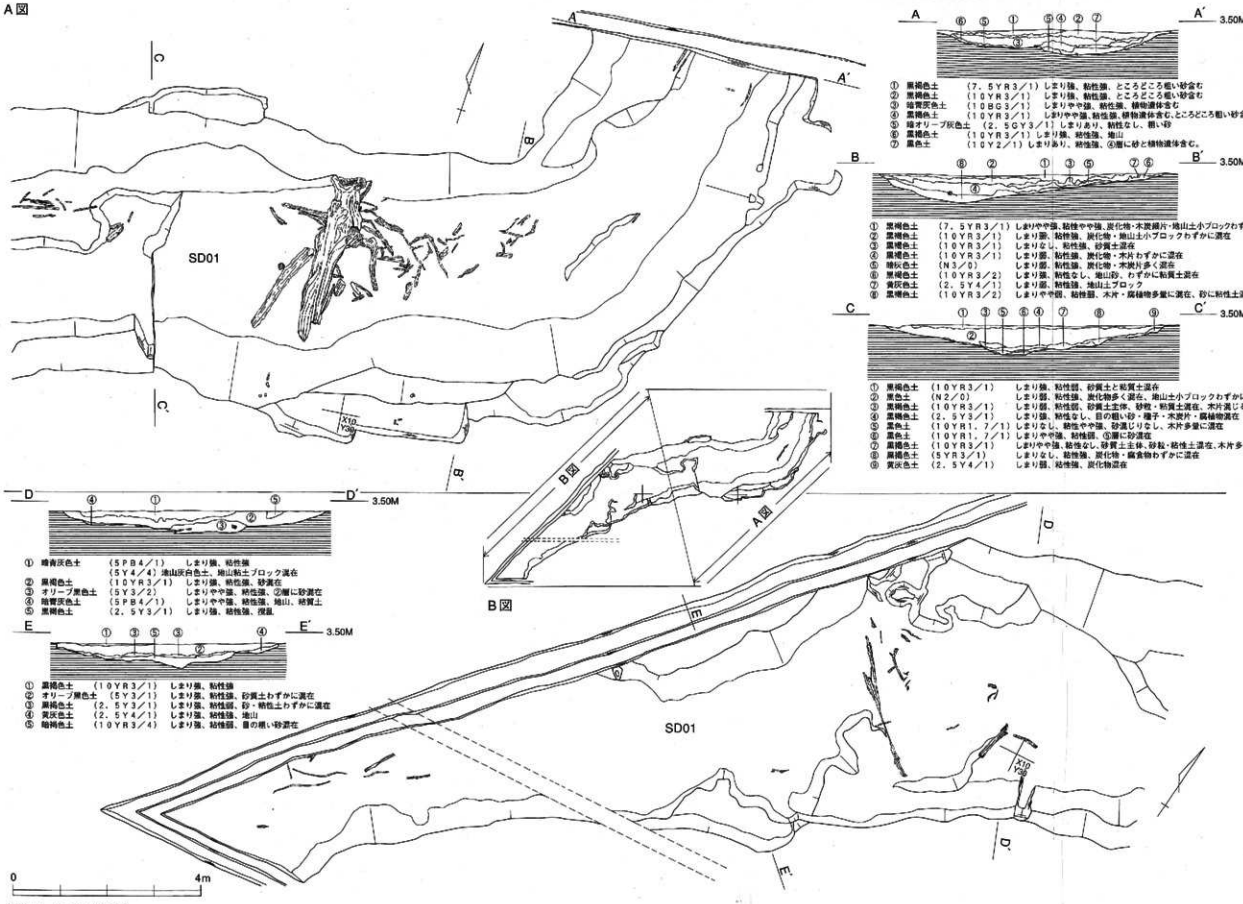
**SD０２**［上層］（第５・７図、図版３）

調査区南端から北東端へ向けて直線的に流れる溝である。両端とも調査区外へのび、途中排水路で分断されるが、全長約31ｍを検出した。幅0.6ｍ～1.0ｍ、深さは約16㎝で、粘性がやや強い黒褐色土が堆積している。遺物の出土は無い。


X10
Y30
X 5
Y30
X10
Y25
X 5
Y25
X10
Y20
X 5
Y20
X10
Y15
X 5
Y15
X15
Y20
X15
Y15
X15
Y10
X15
Y 5
X10
Y10
X 6
Y10
トレンチ跡
トレンチ跡
暗渠路
暗渠路
暗渠路
SD01
SD02
SD02
SD03
SX04
排水路
0
10m

第５図　遺構配置図（西区）

A図




A

① 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまり強、粘性強、ところどころ粗い砂含む
② 黒褐色土 (10YR3/1) しまり強、粘性強、ところどころ粗い砂含む
③ 暗青灰色土 (10BG3/1) しまりやや強、粘性強、植物遺体含む
④ 黒褐色土 (10YR3/1) しまりやや強、粘性強、植物遺体含む、ところどころ粗い砂含む
⑤ 暗オリーブ灰色土 (2.5GY3/1) しまりあり、粘性なし、粗い砂
⑥ 黒褐色土 (10YR3/1) しまり強、粘性強、地山
⑦ 黒色土 (10Y2/1) しまりあり、粘性強、④層に砂と植物遺体含む。

B

① 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりやや強、粘性やや強、炭化物・木炭細片・地山土小ブロックわずかに混在
② 黒褐色土 (10YR3/1) しまり強、粘性強、炭化物・地山土小ブロックわずかに混在
③ 黒褐色土 (10YR3/1) しまりなし、粘性強、砂質土混在
④ 黒褐色土 (10YR3/1) しまり弱、粘性強、炭化物・木片わずかに混在
⑤ 暗灰色土 (N3/0) しまり弱、粘性強、炭化物・木炭片多く混在
⑥ 黒褐色土 (10YR3/2) しまり強、粘性なし、地山砂、わずかに粘質土混在
⑦ 青灰色土 (2.5Y4/1) しまり弱、粘性強、地山土ブロック
⑧ 黒褐色土 (10YR3/2) しまりやや弱、粘性弱、木片・腐植物多量に混在、砂に粘性土混じる

C

① 黒褐色土 (10YR3/1) しまり強、粘性弱、砂質土と粘質土混在
② 黒色土 (N2/0) しまり弱、粘性強、炭化物多く混在、地山土小ブロックわずかに混在
③ 黒褐色土 (10YR3/1) しまり弱、粘性弱、砂質土主体、砂粒・粘質土混在、木片混じる
④ 黒褐色土 (2.5Y3/1) しまり強、粘性なし、目の粗い砂・種子・木炭片・腐植物混在
⑤ 黒色土 (10YR1.7/1) しまりなし、粘性やや強、砂混じりなし、木片多量に混在
⑥ 黒色土 (10YR1.7/1) しまりやや強、粘性弱、③層に砂混在
⑦ 黒褐色土 (10YR3/1) しまりやや強、粘性なし、砂質土主体、砂粒・粘性土混在、木片多量に混在
⑧ 黒褐色土 (5YR3/1) しまりなし、粘性強、炭化物・腐食物わずかに混在
⑨ 黄灰色土 (2.5Y4/1) しまり弱、粘性強、炭化物混在

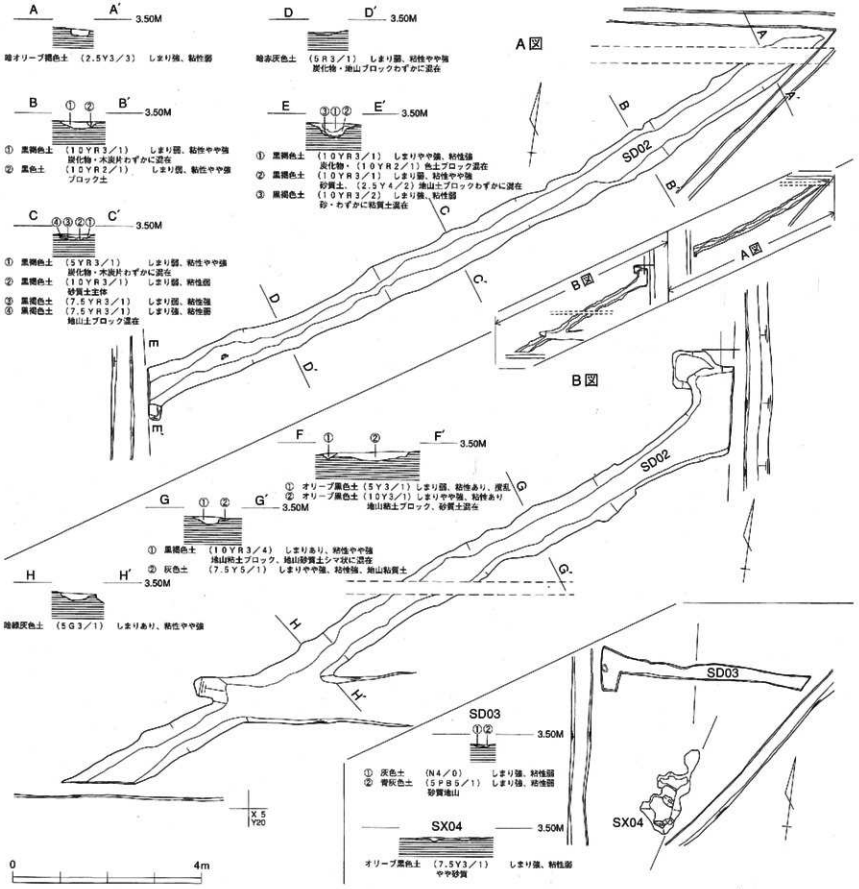
D

① 暗青灰色土 (5PB4/1) しまり強、粘性強
(5Y4/4) 地山灰白色土、地山粘土ブロック混在
② 黒褐色土 (10YR3/1) しまり強、粘性強、砂混在
③ オリーブ黒色土 (5Y3/2) しまりやや強、粘性強、②層に砂混在
④ 暗青灰色土 (5PB4/1) しまりやや強、粘性強、地山、粘質土
⑤ 黒褐色土 (2.5Y3/1) しまり強、粘性強、微量

E

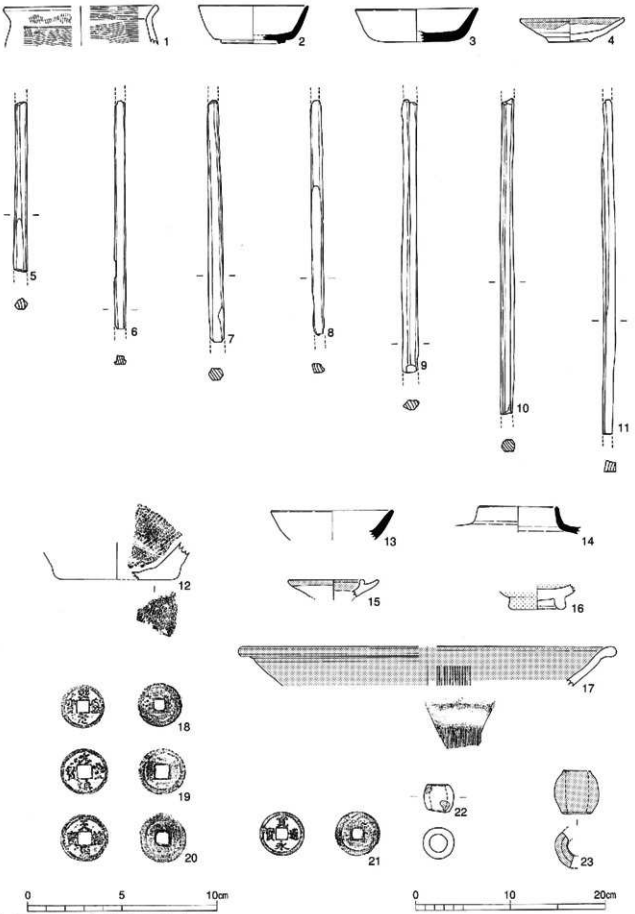
① 黒褐色土 (10YR3/1) しまり強、粘性強
② オリーブ黒色土 (5Y3/1) しまり強、粘性強、砂質土わずかに混在
③ 黒褐色土 (2.5Y3/1) しまり強、粘性弱、砂・粘性土わずかに混在
④ 黄灰色土 (2.5Y4/1) しまり強、粘性強、地山
⑤ 暗褐色土 (10YR3/4) しまり強、粘性弱、目の粗い砂混在

第6図 SD01（西区）




第7図 SD02・03，SX04（西区）

SD01（1～11）




第8図　SD01・包含層出土遺物（西区）

## 2 遺構と遺物 （東区）

**SD01** ［上層］（第9・10図、図版4・24）

調査区の西北端から北東端へ東西方向に蛇行しながら流れ、両端とも調査区外へのびる溝である。全長約53mを検出し、幅3.6m～5.2m、深さは最深で約1.1mを測る。埋土は粘性のやや強い黒褐色土が主体的に堆積し、砂・炭化物・植物遺体（自然流木・種子）等が混在する。遺物は縄文土器が出土しているが、下層遺構からの流れ込みであり、溝の帰属時期を決定するものではないと考える。この溝の位置・規模・土層断面・埋土状況等から推察すると、西区上層のSD01の続きであると考えられる。

**SD02** ［上層］（第9・11・19図、図版4）

調査区の西南端から東へ向けて直線的に流れる溝である。全長約44mを検出、西端は調査区外へのびる。幅0.5m～1.9m、断面は逆台形状を呈し、埋土は粘性の強い黒褐色土が堆積している。出土遺物は近世陶器・田下駄・石錘である。帰属時期の特定には至らないが、形状・埋土状況から西区上層のSD02と同時期と考える。

**川跡** ［下層］（第9・13・16～18・20～38・44～48図、図版5～23）

調査区の西北端から東端へ東西方向に流れ、両端とも調査区外へのびる縄文時代の川跡である。全長約46mを検出し、幅16m、深さは最深で約1.8mを測る。埋土は粘性の強い黒褐色土や暗青灰色土が堆積し、多量の縄文土器と共に砂・炭化物・植物遺体・貝殻等が混在する。遺物は縄文土器・土製品・石製品・木製品が出土。第31図403は斜め方向の平行条痕文、その間に刻みを施す早期末から前期初頭の佐波・極楽寺式。第33図428は底部に刺突文を施す前期中葉の朝日C式。第20図114は貼付隆帯及び半隆起線文、斜縄文を施す中期前葉の新保式。第21図148は多条半隆起線文による渦巻き文を施す中期中葉の古府式。第24図237は4単位の山形口縁や胴部に菜脈状文を施す中期後葉の串田新式。第40図619は口縁部から頸部にかけて平行沈線文及び蛇行沈線文を施す中期後葉の岩崎野式。第30図376は後期末葉の八日市新保式。帰属時期で考えると早期末から後期末葉までの時代幅にあたる。第30図387は板状土偶の脚部か。第21図135は頁岩のナイフ形石器。第45図698は長さ125cm、直径約15cmを測る男根形木製品で、突端部に加工痕を残す祭祀具と考えられる。樹種はクスギ。祭祀用の男根は石棒が多く、木製品は全国的にも珍しく富山県内初出土である。第48図716（オニグルミ）の貫穴に717（トネリコ属）がはめ込まれた状態で出土、つまり樹種の異なる木を組み合わせていたことから、建築部材と考える。

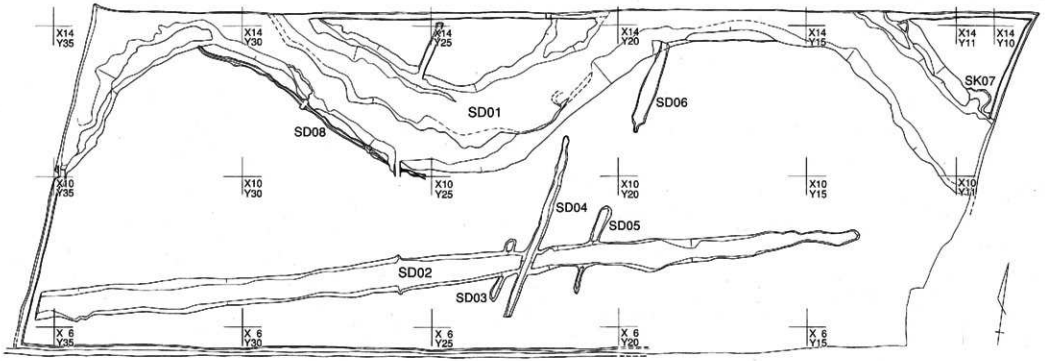
**SX07** ［下層］（第9・14・39図、図版6～23）

調査区中央部、縄文時代の川跡の中に位置し、流れの方向に並行して一段深く、長軸約9m、短軸約3.6m規模の長楕円形土坑になっている。埋土は粘性の強い暗青灰色土が堆積し、縄文土器を包含する。第39図583～587は胴部周辺まで縄文を施し、底辺に網代圧痕が残る後期の底部である。

**SX09** ［下層］（第9・14・40～43図、図版6～23）

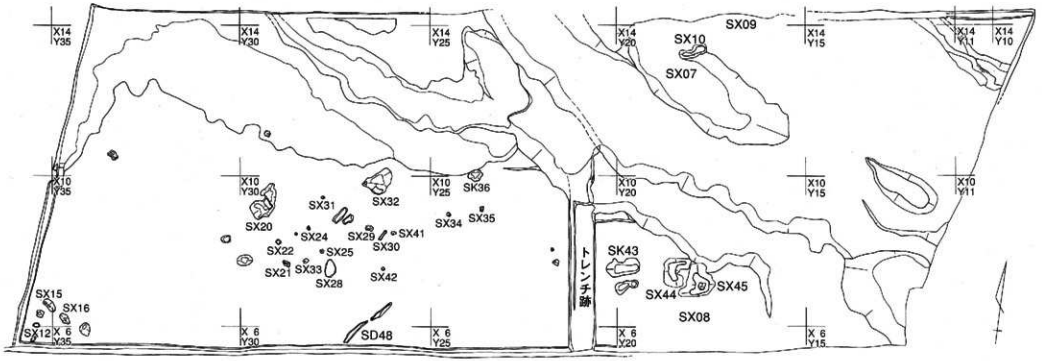
縄文時代の川跡の中、SX07東側の調査区北壁際に、砂と多量の植物遺体及びヤマトシジミの貝殻が暗青灰色土に混在して堆積する。ヤマトシジミは河口付近の汽水域に棲むことから、この川跡周辺は海水の影響を受け、汽水域になる時もあったと考えられる。遺物は縄文土器・磨製石斧・石錘・土器片錘が出土している。第40図605・第42図659はC字形爪形文を施す北白川下層式で、第40図620は頸部の半隆起線文の間隙に三角刺突文、胴部に縦位の多条半隆起線文及び蛇行沈線文を施す気屋式、帰属時期で考えると前期後半から後期前半までの時代幅にあたる。

上層遺構配置図

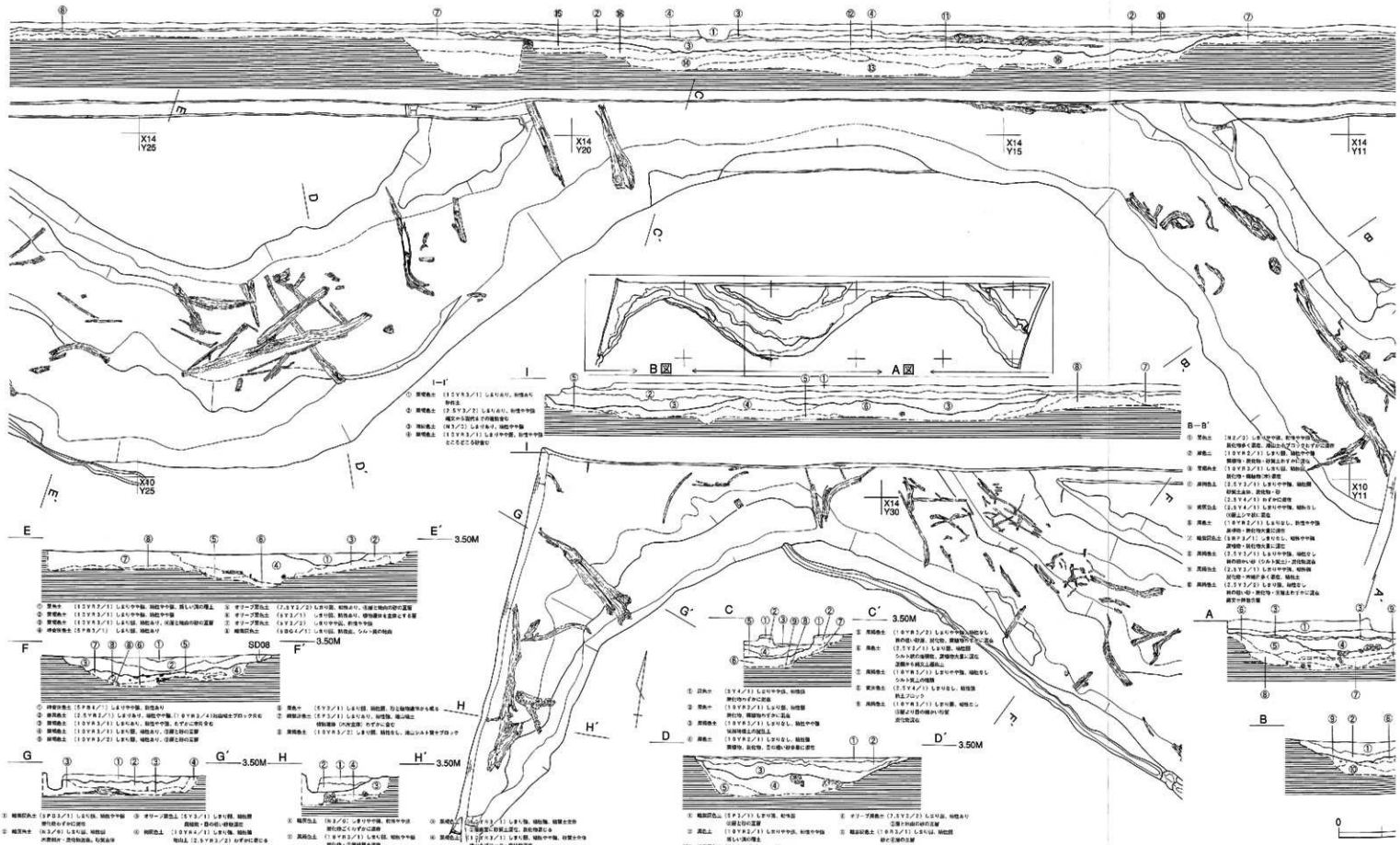



0 10m

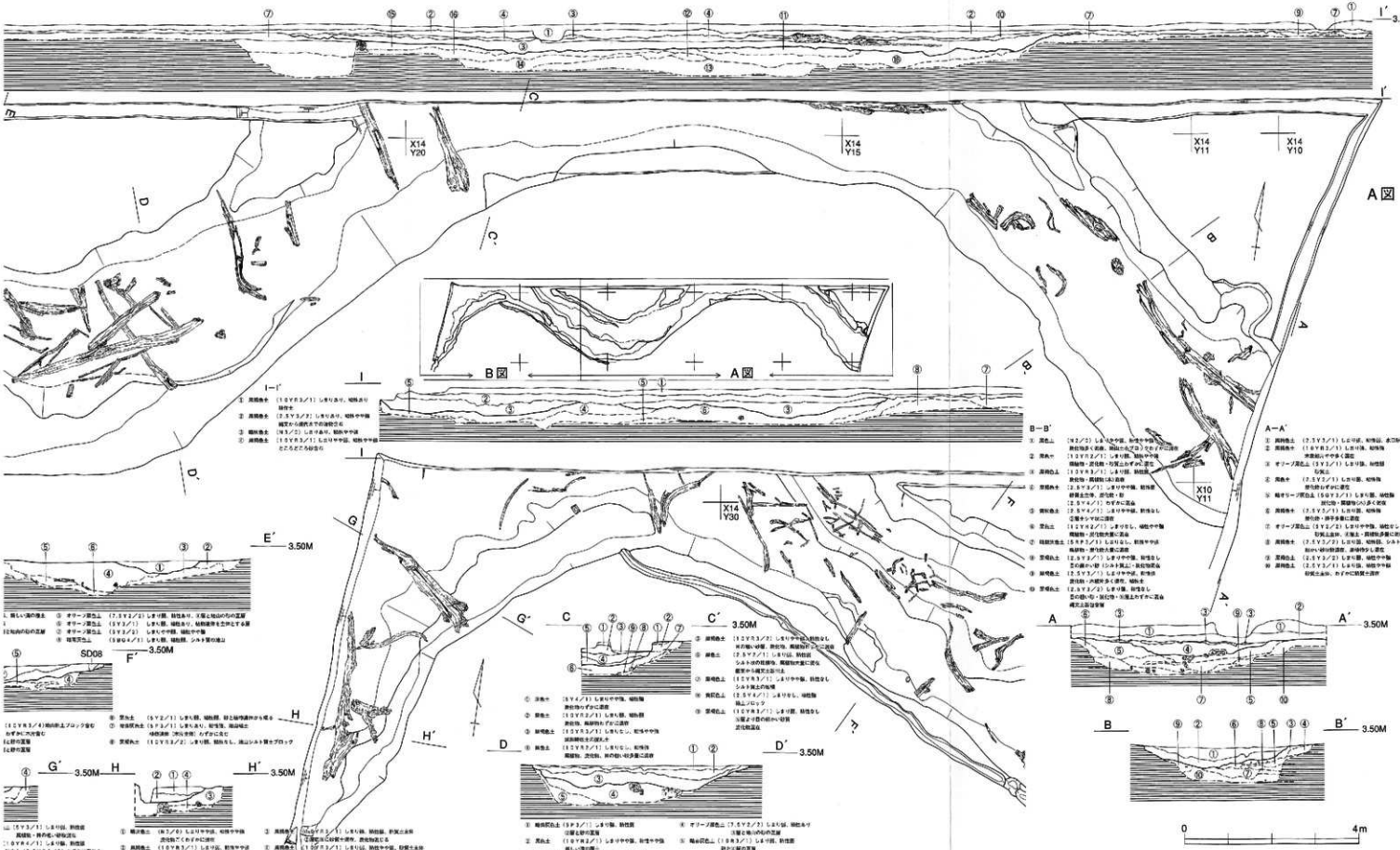
下層遺構配置図

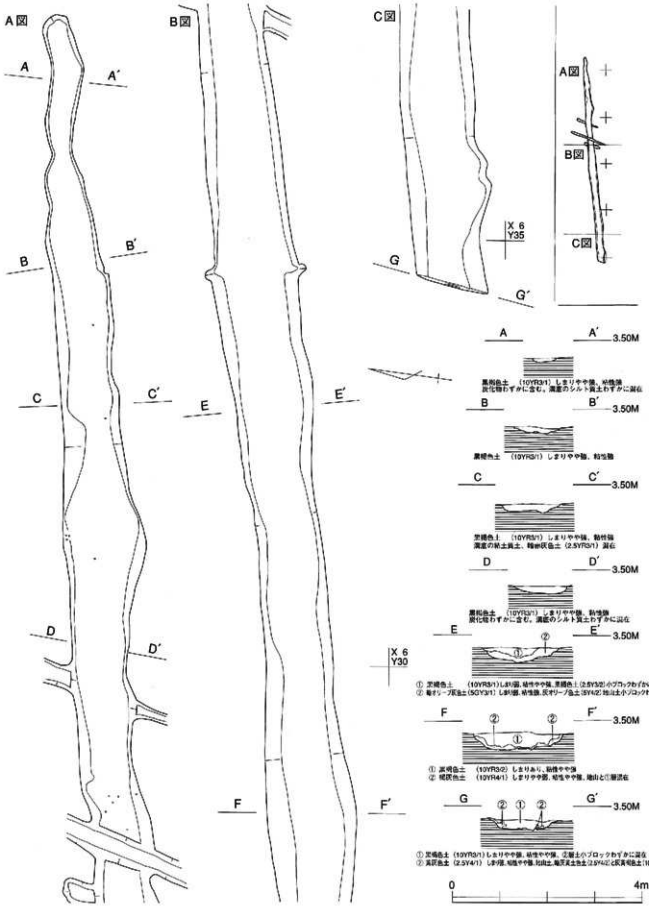



第9図　遺構配置図（東区）

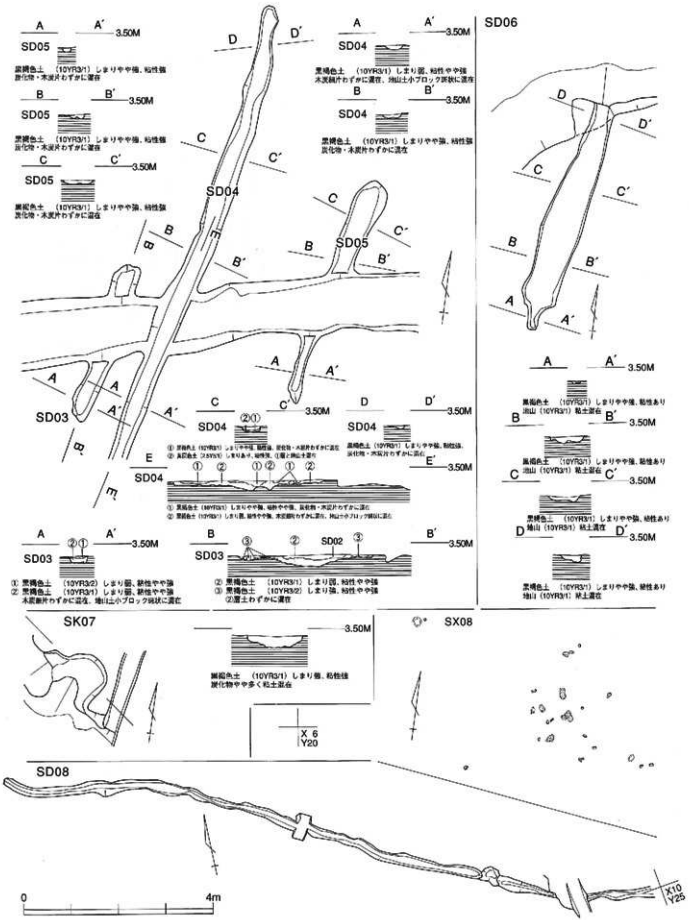

X14 Y25
X14 Y20
X14 Y15
X14 Y11
X10 Y25
X10 Y11
X14 Y30
B図
A図
I–I′
B–B′
E
E′ 3.50M
F
F′ 3.50M
SD08
G
G′ 3.50M
H
H′ 3.50M
C
C′ 3.50M
D
D′ 3.50M
A
B
0

第10図　SD01（東区）

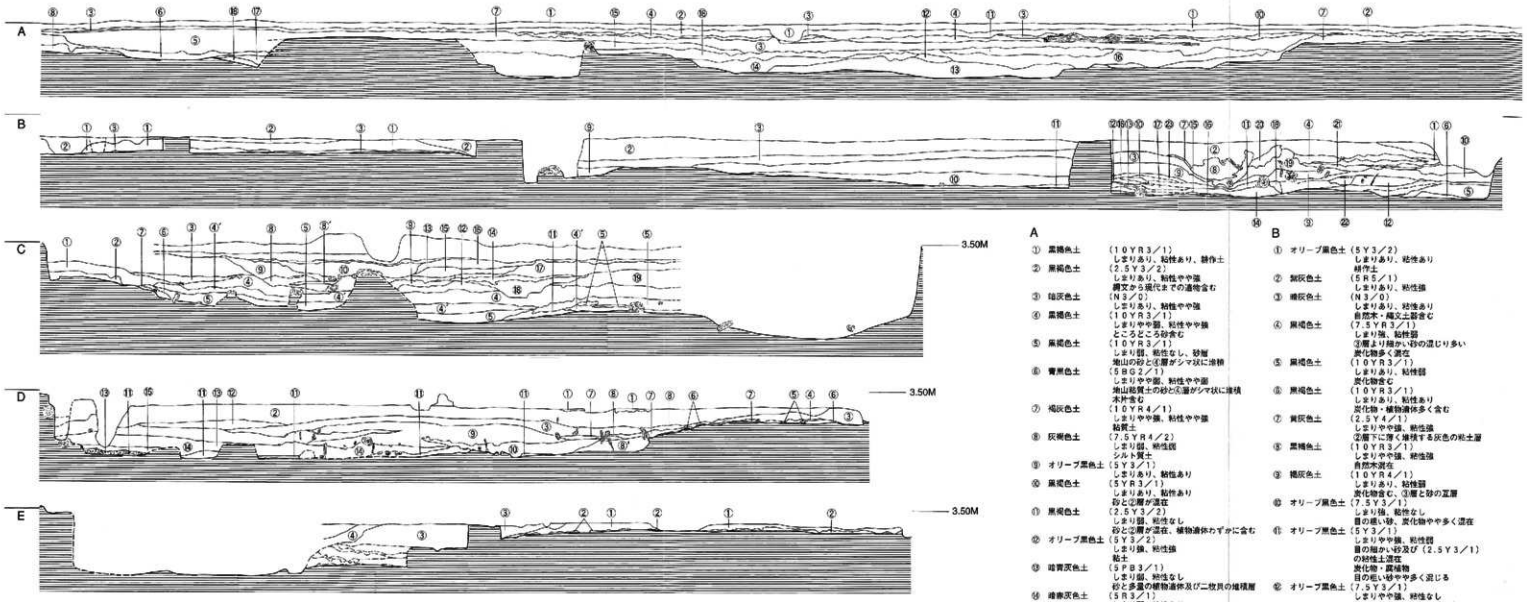

A図
B図
A図
X14 Y20
X14 Y15
X14 Y11
X14 Y10
X14 Y30
X10 Y11
I–I′
B–B′
A–A′
E′ 3.50M
F′ 3.50M
SD08
G′ 3.50M
H
H′ 3.50M
C
C′ 3.50M
D
D′ 3.50M
A
A′ 3.50M
B
B′ 3.50M
0
4m


A図
B図
C図
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
F
F′
G
G′
X 6
Y35
X 6
Y30
3.50M
黒褐色土 (10YR3/1) しまりやや強、粘性強
炭化粒わずかに含む。黒色のシルト質土わずかに混在
黒褐色土 (10YR3/1) しまりやや強、粘性強
茶褐色土 (10YR5/1) しまりやや強、粘性強
黒色の粘土質土、暗褐灰色土 (2.5YR3/1) 混在
黒褐色土 (10YR3/1) しまりやや強、粘性強
炭化粒わずかに含む。黒色のシルト質土わずかに混在
① 茶褐色土 (10YR5/1) しまり強、粘性やや強、黒褐色土 (2.5Y3/2) のブロックわずかに混在
② 暗オリーブ灰色土 (5GY3/1) しまり強、粘性強、灰オリーブ色土 (5Y4/2) 粘土土小ブロックわずかに混在
① 灰褐色土 (10YR3/2) しまりあり、粘性やや強
② 明灰色土 (10YR4/1) しまりやや弱、粘性やや強、褐色土と斑状混在
① 茶褐色土 (10YR5/1) しまりやや強、粘性やや強、灰褐土のブロックわずかに混在
② 黒灰色土 (2.5Y4/1) しまり強、粘性やや強、褐色土、暗灰黄土色土 (2.5Y4/2) と灰黄褐色土 (10YR4/2) 混在
0
4m

第11図　SD02（東区）




第12図　SD03～06・08，SK07，SX08（東区）




**第13図　グリッド断面図（東区）**

D

① 暗赤褐色土　（5YR3／6）　しまりあり、粘性やや強
②層がところどころに混在
② 橙茶色土　（5YR5／1）　しまりあり、粘性強
③ 暗茶色土　（N3／0）　しまりあり、粘性あり
自然木・縄文土器含む
④ 褐茶色土　（10YR5／1）　しまりあり、粘性あり
⑤ 赤茶色土　（2.5YR4／1）　しまりあり、粘性あり
⑥ 黄茶色土　（2.5Y4／1）　しまりあり、粘性なし
③層の砂山
⑦ 黒褐色土　（10YR3／2）　しまりあり、粘性弱
③層から地山への漸移層、③層と砂の互層、炭化物含む
⑧ 灰色土　（5Y5／1）　しまりあり、粘性強
地山
⑧' 暗緑灰色土　（7.5GY3／1）　しまりあり、粘性強
地山
⑨ 褐灰色土　（10YR4／1）　しまりあり、粘性弱
炭化物含む、③層と砂の互層
⑨ 暗オリーブ灰色土　（5GY3／1）　しまりあり、粘性あり
腐植土層
⑩ 褐灰色土　（10YR4／1）　しまりあり、粘性なし
細い砂粒
⑪ 褐灰色土　（10YR4／1）　しまり強、粘性強
粘質土
⑫ 黒褐色土　（10YR3／1）　しまりやや強、粘性弱
植物遺体層、炭化物・二枚貝・くるみなど混在
⑬ オリーブ黒色土　（5Y3／1）　しまり強、粘性なし
砂・炭化物・植物遺体混在
⑭ オリーブ黒色土　（5Y3／1）　しまり強、粘性なし
炭化物、砂粒混在
⑮ 黒褐色土　（10YR3／1）　しまり強、粘性なし
やや粗い砂、炭化物やや多く混在

A

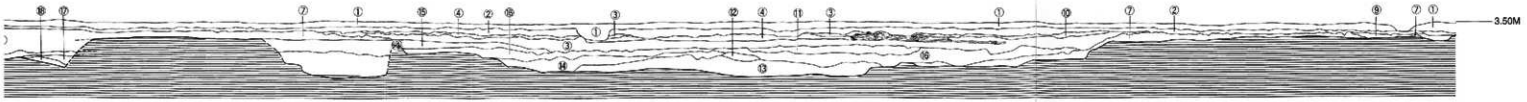
① 黒褐色土　（10YR3／1）
しまりあり、粘性あり、耕作土
② 黒褐色土　（2.5Y3／2）
耕作土
しまりあり、粘性やや強
縄文から現代までの遺物含む
③ 暗灰色土　（N3／0）
しまりあり、粘性やや強
④ 黒褐色土　（10YR3／1）
しまりやや弱、粘性やや強
ところどころ砂含む
⑤ 黒褐色土　（10YR3／1）
しまり弱、粘性なし、砂質
地山の砂と②層がシマ状に堆積
⑥ 青黒色土　（5BG2／1）
しまりやや弱、粘性やや弱
地山粘質土の砂と②層がシマ状に堆積
木片含む
⑦ 褐灰色土　（10YR4／1）
しまりやや強、粘性やや強
粘質土
⑧ 灰褐色土　（2.5YR4／2）
しまり弱、粘性弱
シルト質土
⑨ オリーブ黒色土（5Y3／1）
しまりあり、粘性あり
⑩ 黒褐色土　（5YR3／1）
しまりあり、粘性あり
砂と②層が混在
⑪ 黒褐色土　（2.5Y3／2）
しまり弱、粘性なし
砂と②層が混在、植物遺体わずかに含む
⑫ オリーブ黒色土（5Y3／2）
しまり強、粘性強
粘土
⑬ 暗青灰色土　（5PB3／1）
しまり弱、粘性なし
砂と多量の植物遺体及び二枚貝の堆積層
⑭ 暗赤灰色土　（5R3／1）
しまり弱、粘性なり
⑬層より多く植物遺体含む
⑮ 暗緑灰色土　（7.5GY3／1）
しまりあり、粘性あり
植物遺体わずかに含む
⑯ 暗灰色土　（N3／0）
しまりあり、粘性あり
砂と黒色土と植物遺体から成る
⑰ 黒褐色土　（2.5Y3／2）
しまりあり、粘性なし
炭化物含む粗い砂と中粒の砂の互層
下層に⑬層混ざる
⑱ 褐灰色土　（10YR4／1）
しまりやや弱、粘性強

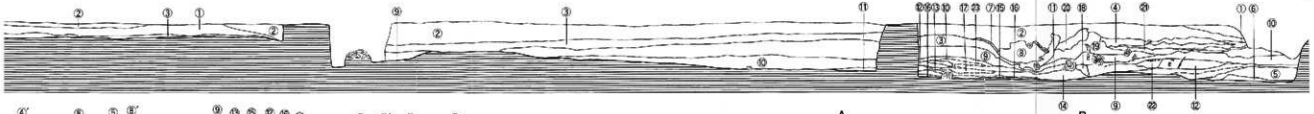
B

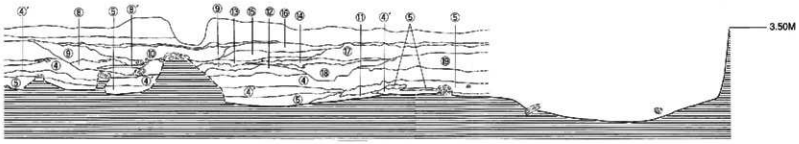
① オリーブ黒色土（5Y3／2）
しまりあり、粘性あり
耕作土
② 灰色土　（5R5／1）
しまりあり、粘性強
③ 暗灰色土　（N3／0）
しまりあり、粘性あり
自然木・縄文土器含む
④ 黒褐色土　（7.5YR3／1）
しまり強、粘性弱
③層より細かい砂の混じり多い
炭化物多く混在
⑤ 黒褐色土　（10YR3／1）
しまりあり、粘性弱
炭化物含む
⑥ 黒褐色土　（10YR3／1）
しまりあり、粘性あり
炭化物・植物遺体多く含む
⑦ 黄灰色土　（2.5Y4／1）
しまりやや強、粘性強
②層下に厚く堆積する灰色の粘土層
⑧ 黒褐色土　（10YR3／1）
しまりやや強、粘性強
自然木混在
⑨ 褐灰色土　（10YR4／1）
しまりあり、粘性弱
炭化物含む、③層と砂の互層
⑩ オリーブ黒色土（7.5Y3／1）
しまり強、粘性なし
⑪ オリーブ黒色土（5Y3／1）
しまりやや強、粘性弱
層の細かい砂及び（2.5Y3／1）
の粘性土混在
炭化物・腐植物
⑫ オリーブ黒色土（7.5Y3／1）
しまりやや強、粘性なし
4mm前後の白の粗い砂混在
炭化物わずかに混在
⑬ 黒色土　（5Y2／1）
しまり弱、粘性弱
白の細かい砂、腐植物含む茶褐色粘性土英状
混在
⑭ 灰色土　（7.5Y4／1）
しまりやや強、粘性なし
⑫層よりやや白の粗い砂層
自然木・腐植物わずかに混在
⑮ 黒褐色土　（2.5Y3／1）
しまり弱、粘性弱
腐植物層、細かい砂混在
⑯ 暗オリーブ灰色土（5GY4／1）
しまりやや強、粘性なし
⑫層程の白の粗さの砂層
レキがすかに混在
⑰ 暗オリーブ灰色土（5GY3／1）
しまりやや強、粘性弱
⑫層の腐植物土ブロック混在
細かい砂質土主体
⑱ オリーブ灰色土（2.5GY5／1）
しまりやや強、粘性強
谷底面地山土ブロック
⑲ 黒褐色土　（2.5Y3／1）
しまりやや強、粘性弱
⑳ 黄灰色土　（2.5Y4／1）
しまりやや強、粘性やや強
⑫層より粘性土ブロックの割合多く斑状に混在
㉑ 黒褐色土　（7.5YR3／1）
しまり強、粘性弱
炭化物混在
㉒ 黒褐色土　（2.5Y3／1）
しまり強、粘性なし
⑫層下部の白の細い砂に（10YR3／1）
土混在
㉓ 黒褐色土　（10YR3／1）
しまり弱、粘性弱
腐植物・自然木片・炭化物やや多く混じる。
植物土層

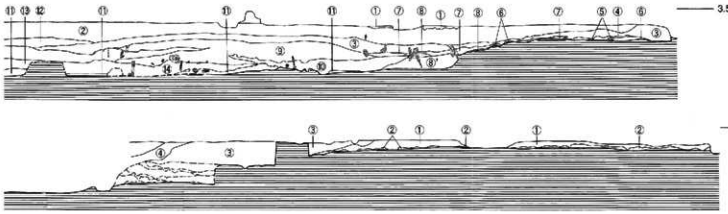
E

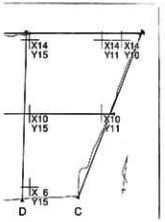
① オリーブ黒色土（5Y3／2）
耕作土
しまりあり、粘性あり
② 暗灰黄色土　（2.5Y4／2）
シルト質土、地山
しまりやや弱、粘性やや弱
③ 黄灰色土　（2.5Y4／1）
二次堆積の地山
しまり強、粘性やや強
④ 黒褐色土　（7.5YR3／1）
砂質土主体
しまり強、粘性弱




A

① 黒褐色土 (10YR3/1)
しまりあり、粘性あり、耕作土
② 黒褐色土 (2.5Y3/2)
しまりあり、粘性やや強
縄文から現代までの遺物含む
③ 暗灰色土 (N3/0)
しまりあり、粘性やや強
④ 黒褐色土 (10YR3/1)
しまりやや弱、粘性やや強
ところどころ砂含む
⑤ 黒褐色土 (10YR3/1)
しまり弱、粘性なし、砂層
地山の砂と⑥層がシマ状に堆積
⑥ 青黒色土 (5BG2/1)
しまりやや弱、粘性やや固
地山軟質土の砂と④層がシマ状に堆積
木片含む
⑦ 褐灰色土 (10YR4/1)
しまりやや強、粘性やや強
粘質土
⑧ 灰褐色土 (7.5YR4/2)
しまり弱、粘性固
シルト質土
⑨ オリーブ黒色土 (5Y3/1)
しまりあり、粘性あり
⑩ 黒褐色土 (5YR3/1)
しまりあり、粘性あり
砂と②層が混在
⑪ 黒褐色土 (2.5Y3/2)
しまり弱、粘性なし
砂と②層が混在、植物遺体わずかに含む
⑫ オリーブ黒色土 (5Y3/2)
しまり強、粘性強
粘土
⑬ 暗青灰色土 (5PB3/1)
しまり弱、粘性なし
砂と多量の植物遺体及び二枚貝の堆積層
⑭ 暗緑灰色土 (5R3/1)
しまり弱、粘性あり
⑮層より多く植物遺体含む
⑮ 暗緑灰色土 (7.5GY3/1)
しまり弱、粘性あり
植物遺体わずかに含む
⑯ 暗灰色土 (N3/0)
しまりあり、粘性あり
砂と黒色土と植物遺体から成る
⑰ 黒褐色土 (2.5Y3/2)
しまりあり、粘性なし
炭化物含む粗い砂と中粒の砂の互層
下層に⑮層混ざる
⑱ 褐灰色土 (10YR4/1)
しまりやや弱、粘性強

B

① オリーブ黒色土 (5Y3/2)
しまりあり、粘性あり
耕作土
② 褐灰色土 (5R5/1)
しまりあり、粘性強
③ 暗灰色土 (N3/0)
しまりあり、粘性あり
自然木・縄文土器含む
④ 黒褐色土 (7.5YR3/1)
しまり強、粘性弱
③層より細かい砂の混じり多い
炭化物多く混在
⑤ 黒褐色土 (10YR3/1)
しまりあり、粘性固
炭化物含む
⑥ 黒褐色土 (10YR3/1)
しまりあり、粘性あり
炭化物・植物遺体多く含む
⑦ 黄灰色土 (2.5Y4/1)
しまりやや強、粘性強
②層下に薄く堆積する灰色の粘土層
⑧ 黒褐色土 (10YR3/1)
しまりやや強、粘性強
自然木混在
⑨ 褐灰色土 (10YR4/1)
しまりあり、粘性固
炭化物含む、③層と砂の互層
⑩ オリーブ黒色土 (7.5Y3/1)
しまり弱、粘性固
目の粗い砂、炭化物やや多く混在
⑪ オリーブ黒色土 (5Y3/1)
しまりやや強、粘性固
目の細かい砂及び(2.5Y3/1)
の粘性土混在
炭化物・植物
⑫ オリーブ黒色土 (7.5Y3/1)
しまりやや強、粘性なし
目の粗い砂やや多く混じる
⑬ 黒色土 (5Y2/1)
しまり弱、粘性固
目の細かい砂、植物遺体多混在
炭化物わずかに混在
⑭ 灰色土 (7.5Y4/1)
しまりやや強、粘性なし
②層よりやや目の粗い砂層
自然木・炭粒時わずかに混在
⑮ 黒褐色土 (2.5Y3/1)
しまり弱、粘性固
植物遺体、細かい砂混在
⑯ 暗オリーブ灰色土 (5GY4/1)
しまりやや強、粘性なし
⑭層様の目の細さの砂層
レキがすかに混在
⑰ 暗オリーブ灰色土 (5GY5/1)
しまりやや強、粘性固
⑭層の層構造とブロック混在
細かい砂質土主体
⑱ オリーブ灰色土 (2.5GY5/1)
しまりやや強、粘性強
母岩起地山土ブロック
⑲ 黒褐色土 (2.5Y3/1)
しまりやや強、粘性固
⑳ 黄灰色土 (2.5Y4/1)
しまりやや強、粘性やや強
⑲層より粘性土ブロックの割合多く斑状に混在
㉑ 黒褐色土 (7.5YR3/1)
しまり強、粘性固
炭化物混在
㉒ 黒褐色土 (2.5Y3/1)
しまり強、粘性強
㉑層下部の目の粗い砂に(10YR3/1)色土混在
㉓ 黒褐色土 (10YR3/1)
しまり弱、粘性固
腐植物・自然木片・炭化物やや多く混じる。高
植物土層

C

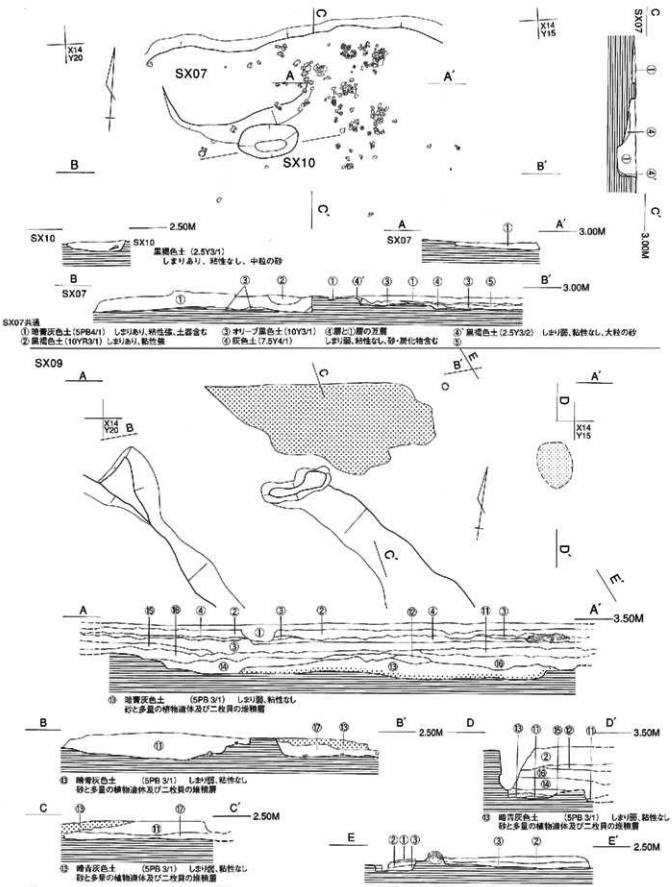
① 褐灰色土 (7.5YR4/1)
しまりあり、粘性強
② 褐灰色土 (2.5YR4/1)
しまりやや強、粘性ありややシルト質
③ 黒褐色土 (7.5YR3/1)
しまりあり、粘性あり
植物遺体（木枝）含む
④ 黒褐色土 (10YR3/1)
しまりあり、粘性固
炭化物含む
③層と中・大粒の砂の互層
⑤ 黒褐色土 (10YR3/1)
しまりあり、粘性固
炭化物含む
④層より大粒の砂多く含む
⑥ 黒褐色土 (10YR3/1)
しまりあり、粘性あり
炭化物含む
植物遺体多く含む
⑦ 黒褐色土 (10YR3/1)
しまりやや強、粘性
地山、粘土
⑧ 黄灰色土 (2.5Y5/1)
しまりやや強、粘性強
地山、粘土
⑨ 黒色土 (N2/0)
しまりやや強、粘性やや固
ピート層
⑨' 黒色土 (N2/0)
しまりあり、粘性なし
⑧層に含まれる大粒の砂層
⑩ 黒色土 (5Y2/1)
しまり弱、粘性やや強
炭化物含む
⑪ 青黒色土 (5B1.7/1)
しまりあり、粘性あり
SD21の下層部
⑫ 黒褐色土 (2.5Y3/1)
しまりやや強、粘性なし
大粒砂と植物遺体から成る
発根部木根高出土層
⑬ 黒色土 (2.5Y2/1)
しまりやや強、粘性あり
⑭ 黒褐色土 (10YR3/1)
しまりあり、粘性やや固
炭化物含む
⑭ 黄灰色土 (2.5Y4/1)
しまりやや強、粘性強
⑮ 黒褐色土 (10YR3/1)
しまりあり、粘性強
⑯ 黒褐色土 (2.5Y3/1)
しまりやや強、粘性やや弱
⑰ 褐灰色土 (5YR4/1)
しまりあり、粘性強
⑱ 褐灰色土 (10YR4/1)
しまりあり、粘性やや強
⑲ 暗褐色土 (10YR3/4)
しまりあり、粘性強

D

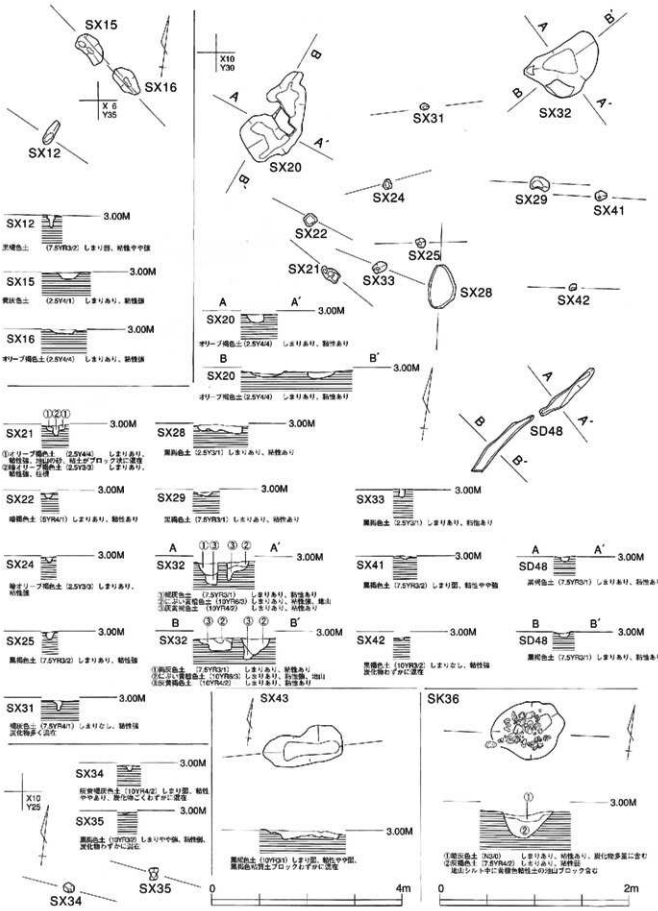
① 暗赤褐色土 (5YR3/6) しまりあり、粘性やや強
②層がところどころに混在
② 灰色土 (5PB5/1) しまりあり、粘性強
③ 暗灰色土 (N3/0) しまりあり、粘性あり
自然木・縄文土器含む
④ 褐灰色土 (10YR5/1) しまりあり、粘性あり
⑤ 赤灰色土 (2.5YR4/1) しまりあり、粘性あり
⑥ 黄灰色土 (2.5Y4/1) しまりあり、粘性なし
粗い砂の地山
⑦ 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり、粘性固
③層から地山への層移量、③層と砂の互層、炭化物含む
⑧ 灰色土 (5YR5/1) しまりあり、粘性強
地山
⑧' 暗緑灰色土 (7.5GY3/1) しまりあり、粘性強
地山
⑨ 褐灰色土 (10YR4/1) しまりあり、粘性固
炭化物含む、③層と砂の互層
⑩ 暗オリーブ灰色土 (5GY3/1) しまりあり、粘性あり
⑭層様

E

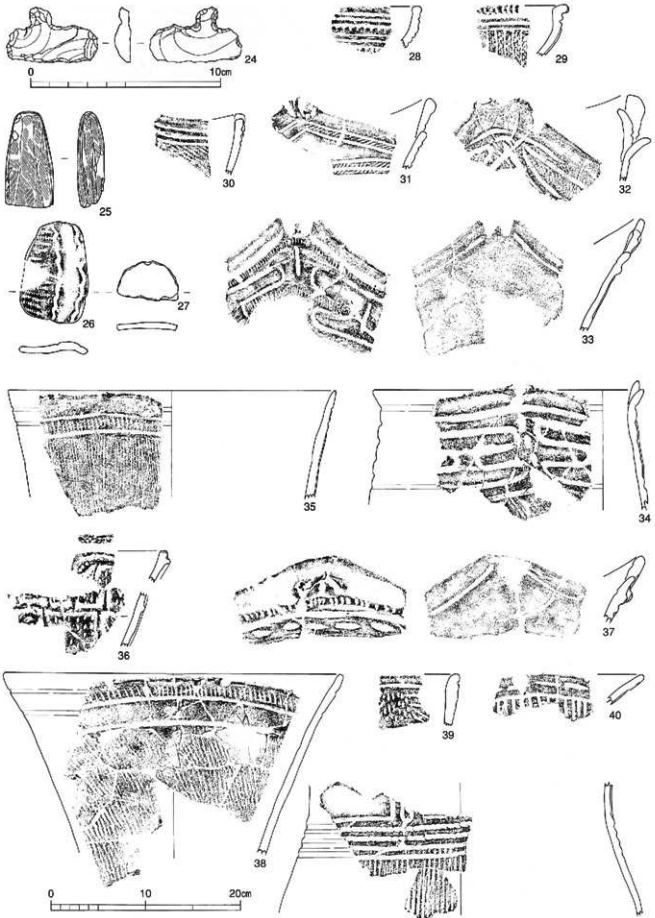
① オリーブ黒色土 (5Y3/2) しまりあり、粘性あり
耕作土
② 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) しまりやや固、粘性やや固
シルト質土、地山
③ 黄灰色土 (2.5Y4/1) しまり強、粘性やや強
二次堆積の地山
④ 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまり強、粘性固
砂質土主体



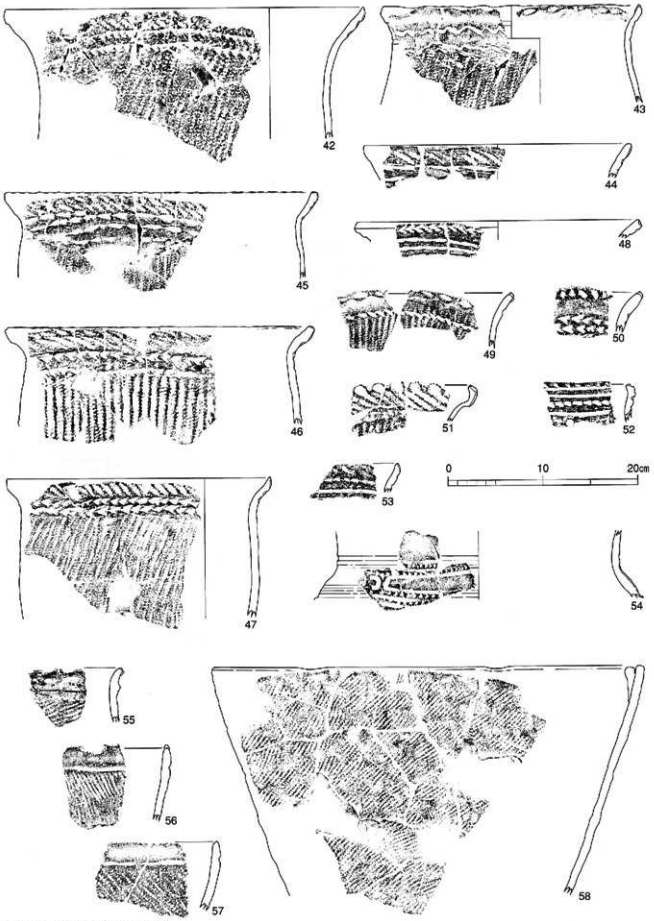

第14図 SX07・09・10（東区）



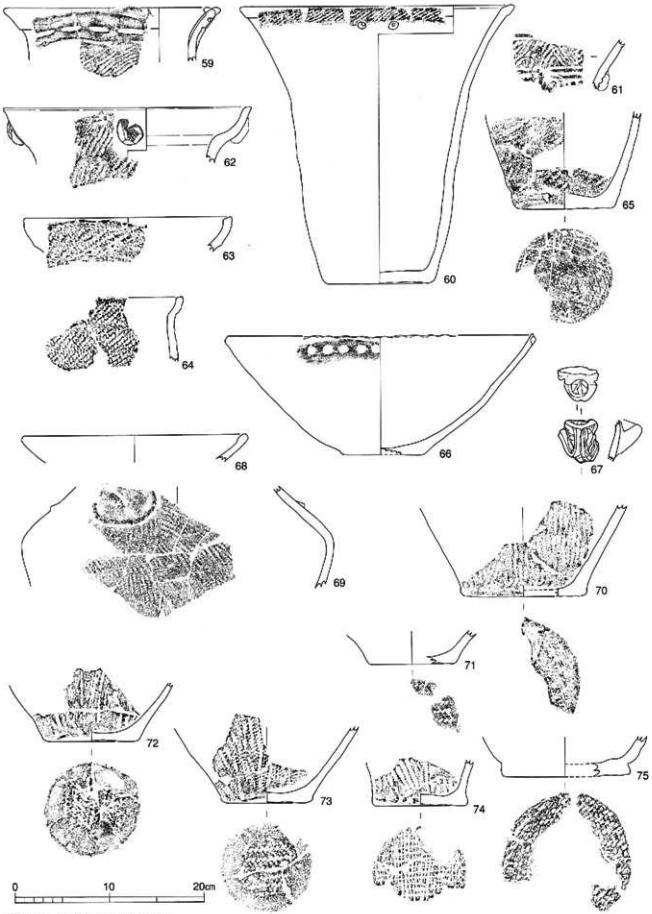

第15図　SX12・15・16・20～22・24・25・28～35・41～43，SK36，SD48（東区）



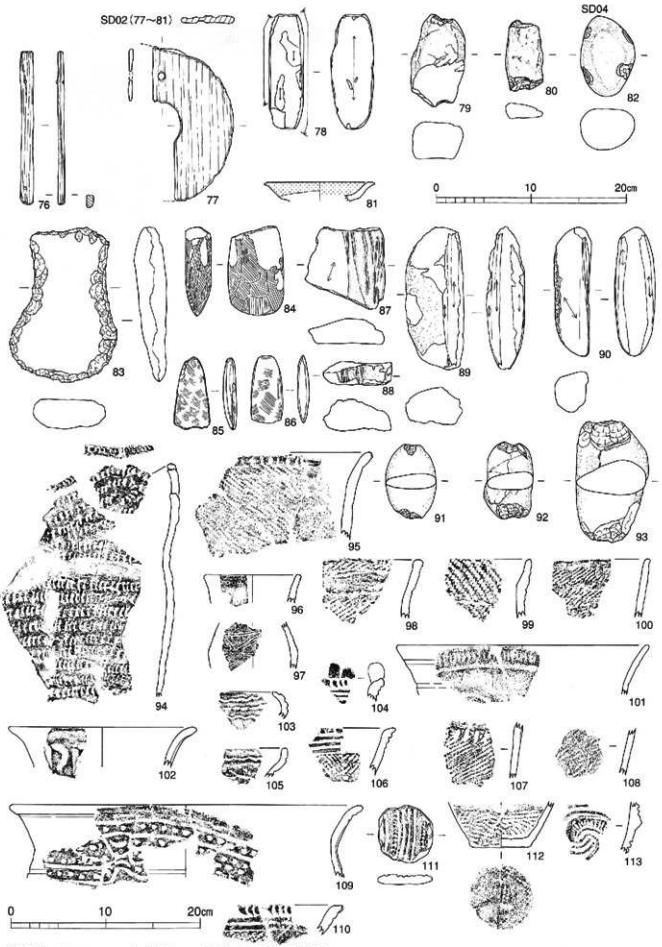

第16図　川跡出土遺物（東区）




第17図　川跡出土遺物（東区）

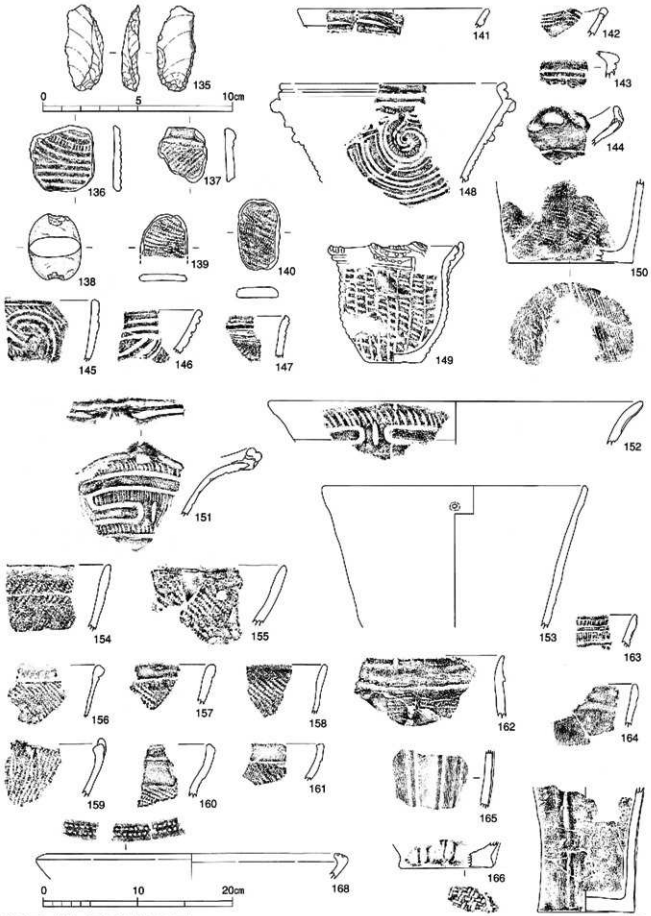



第18図　川跡出土遺物（東区）

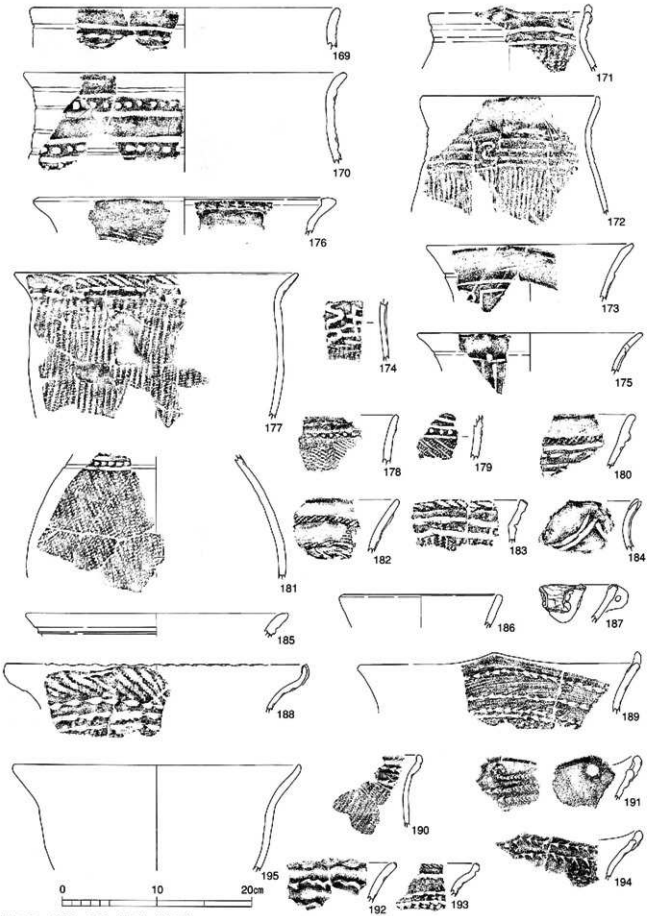



第19図　SD02・04，包含層(1～3層下)出土遺物（東区）

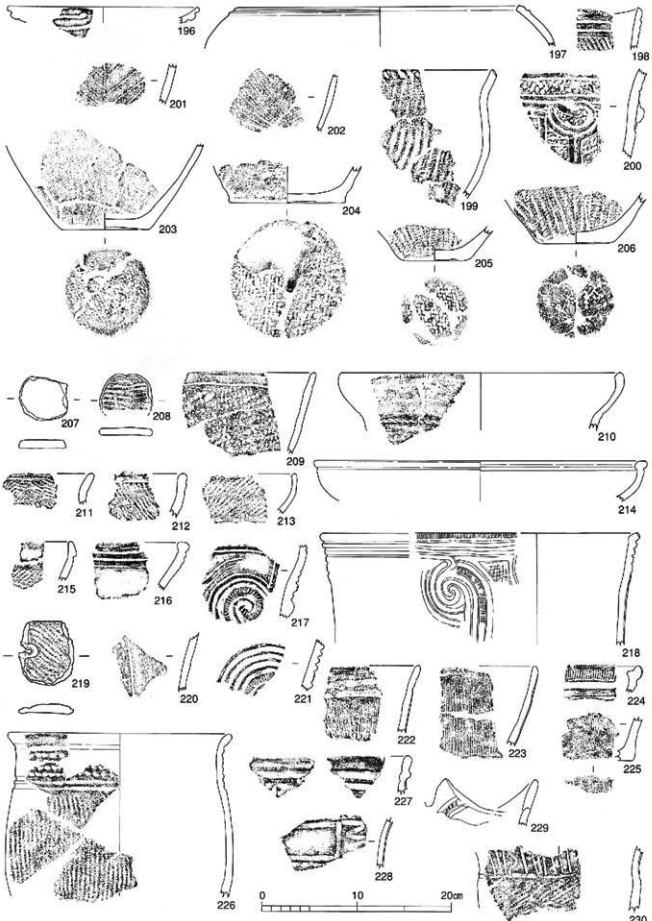
第20図　川跡 3層・3層下出土遺物（東区）



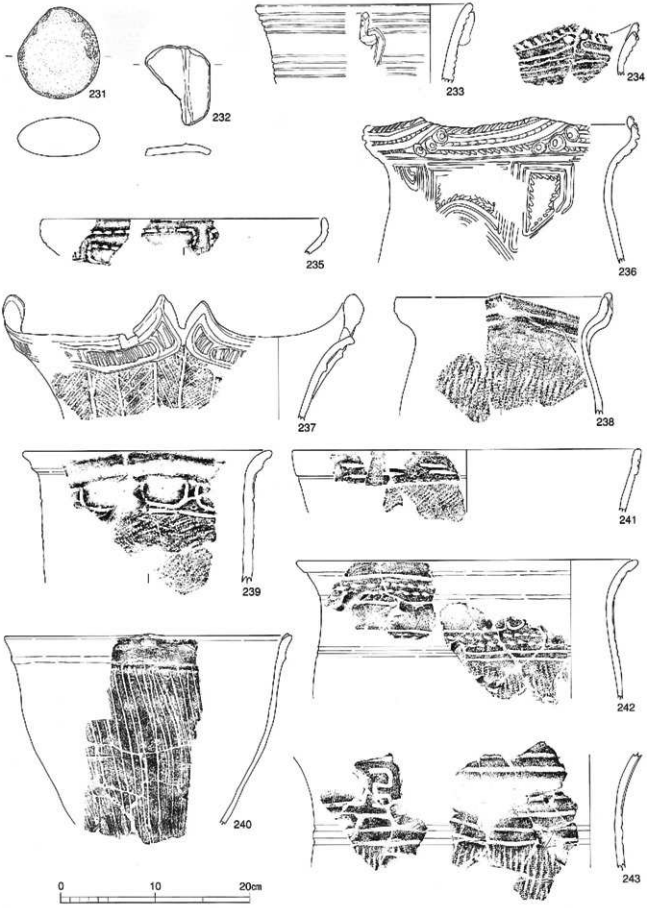

第21図　川跡 4層出土遺物（東区）



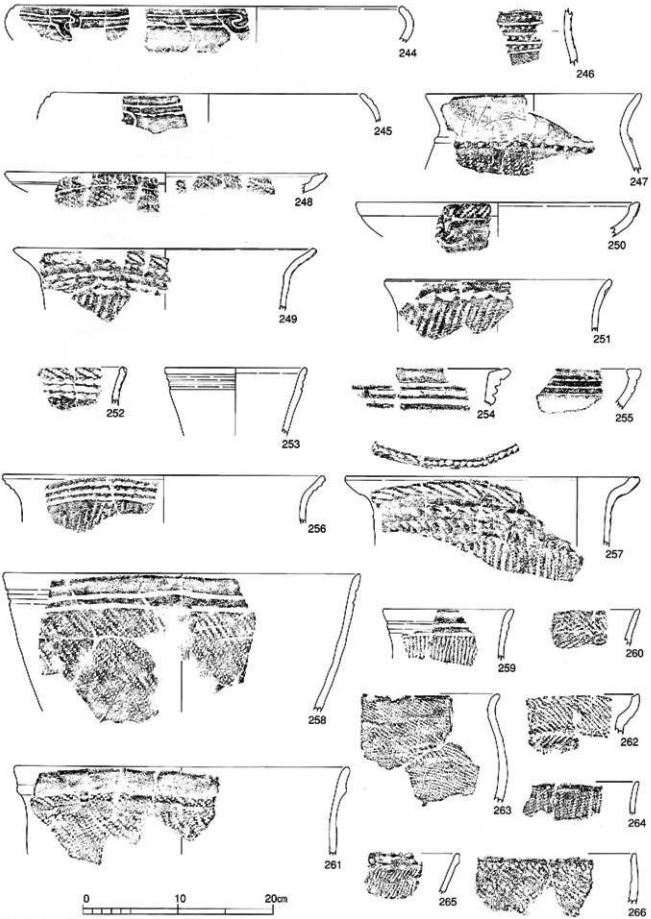

第22図　川跡4層出土遺物（東区）



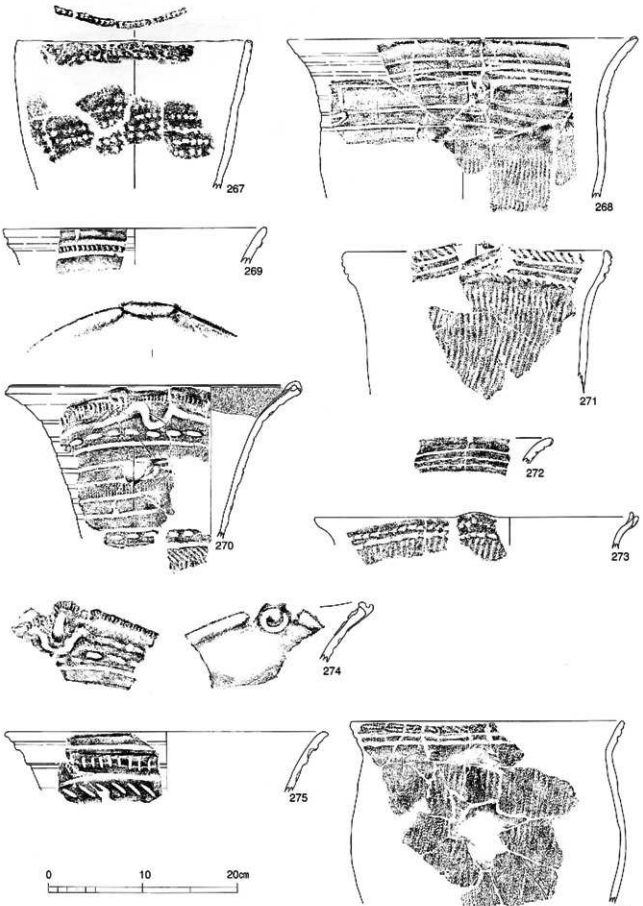

第23図　川跡 4層・4層下出土遺物（東区）



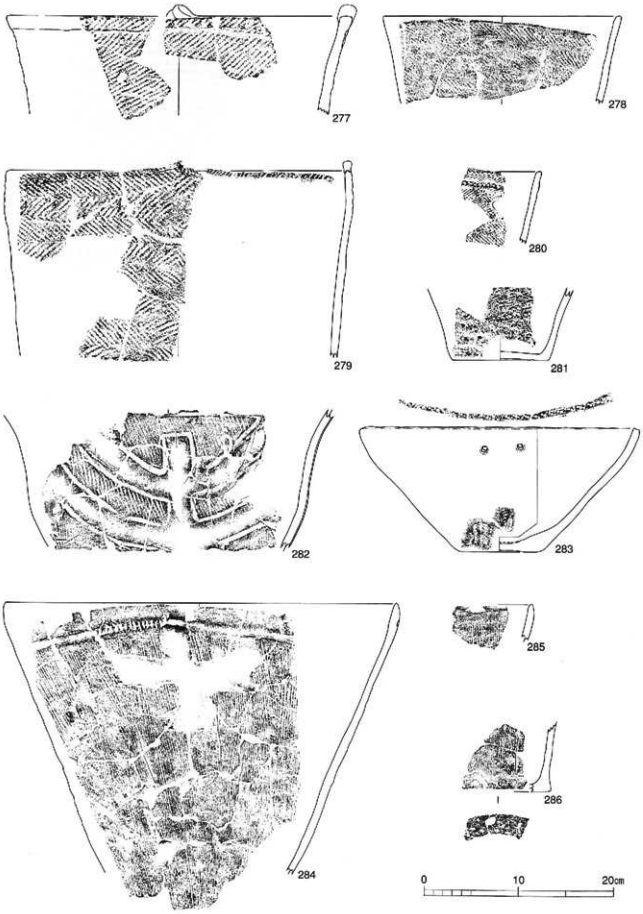

第24図　川跡 4層と4層以下出土遺物（東区）



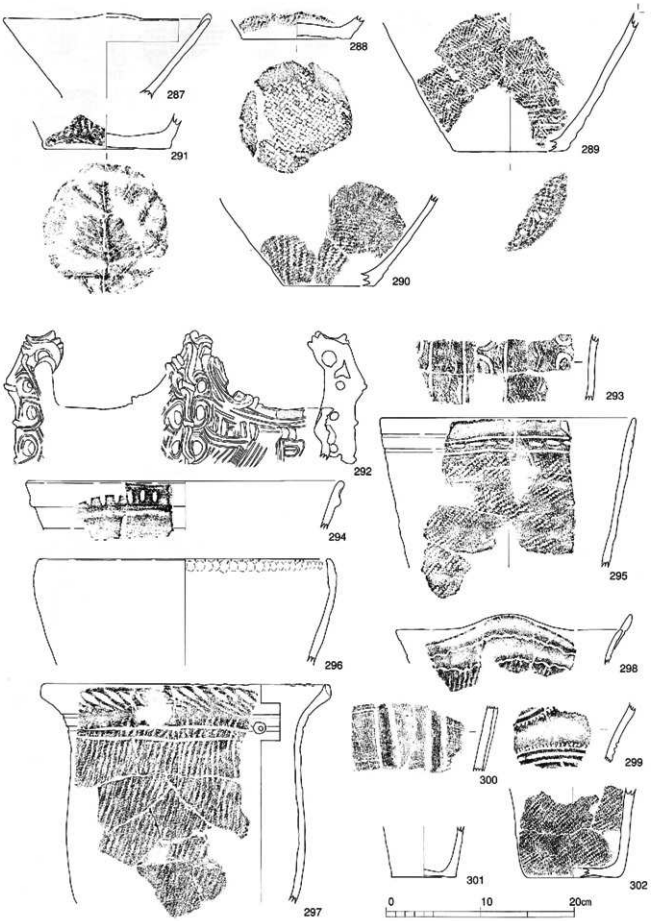

第25図　川跡 4層と4層以下出土遺物（東区）



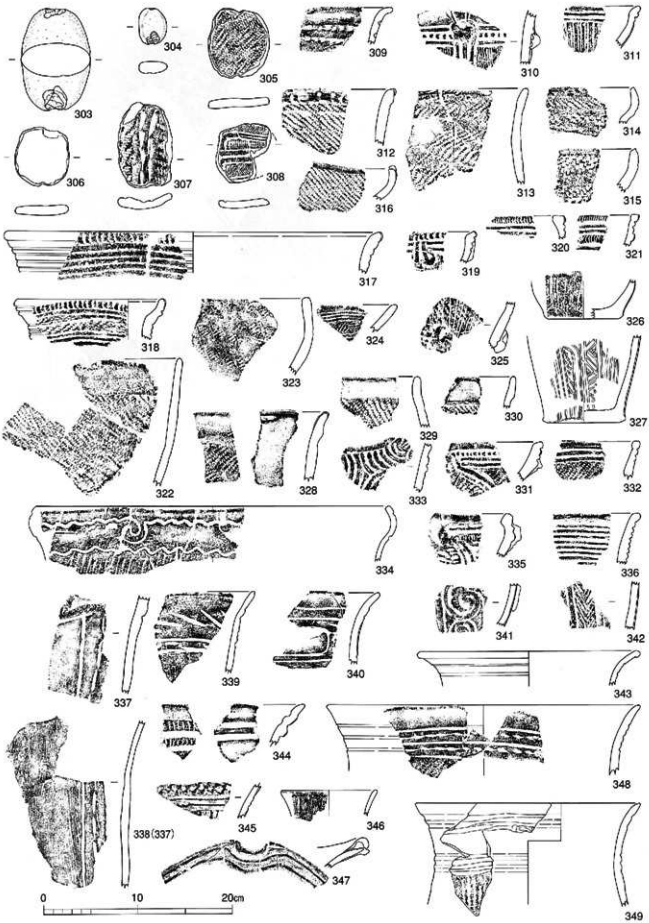

第26図　川跡 4層と4層以下出土遺物（東区）



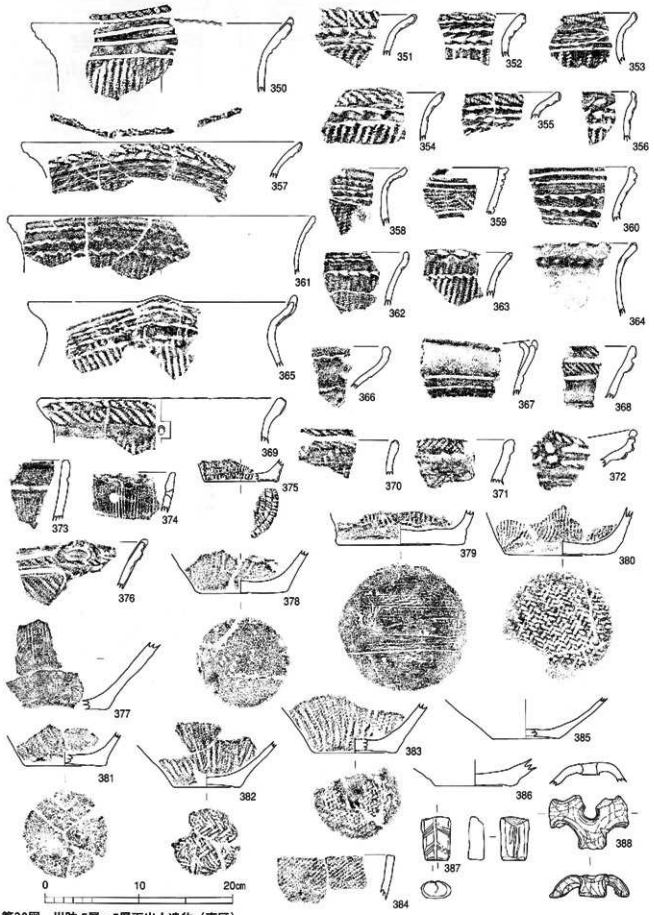

第27図　川跡 4層と4層以下出土遺物（東区）



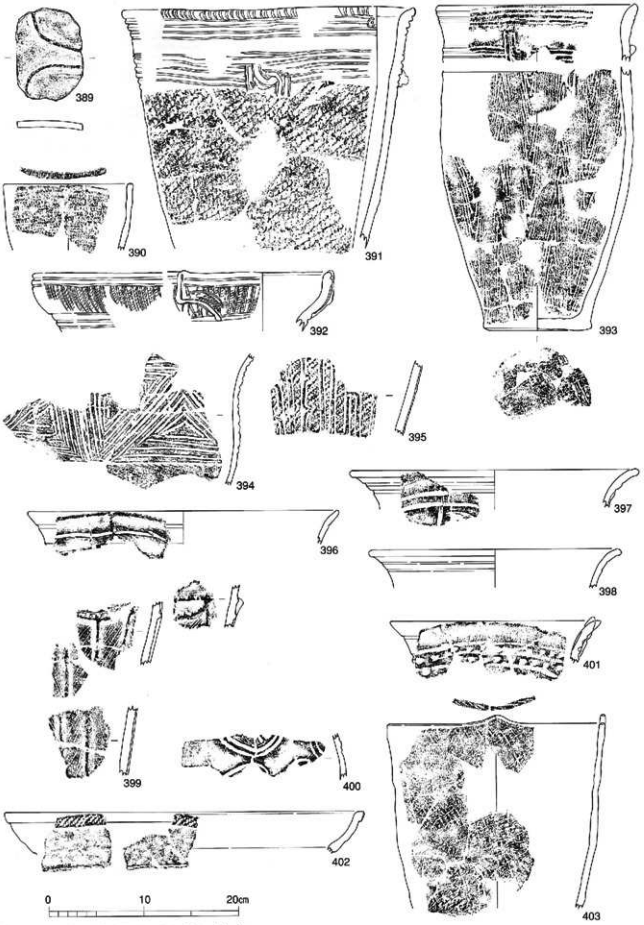

第28図　川跡 4層・4層下と5層以下出土遺物（東区）



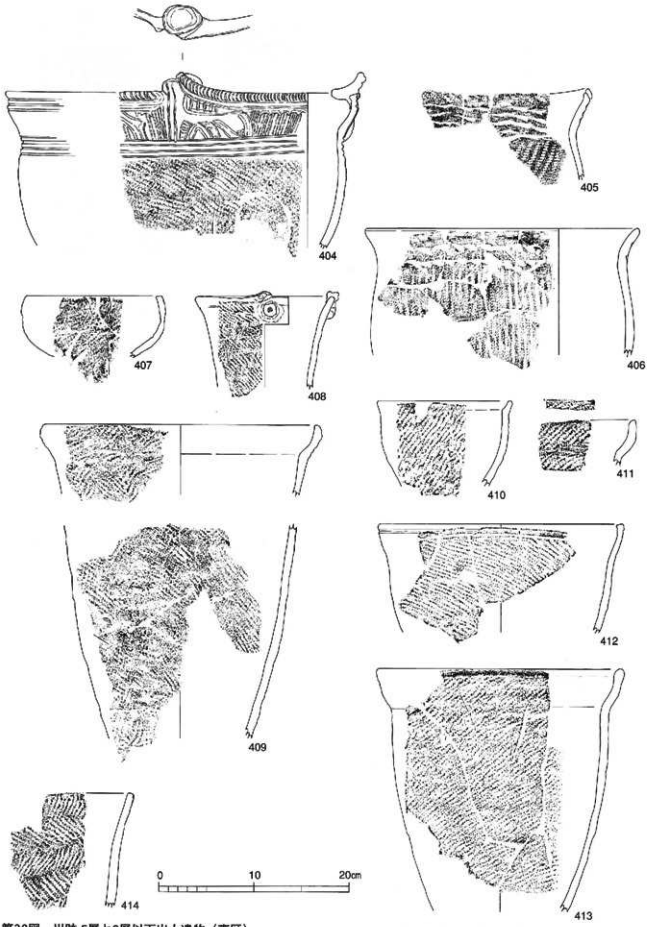

第29図　川跡5層出土遺物（東区）



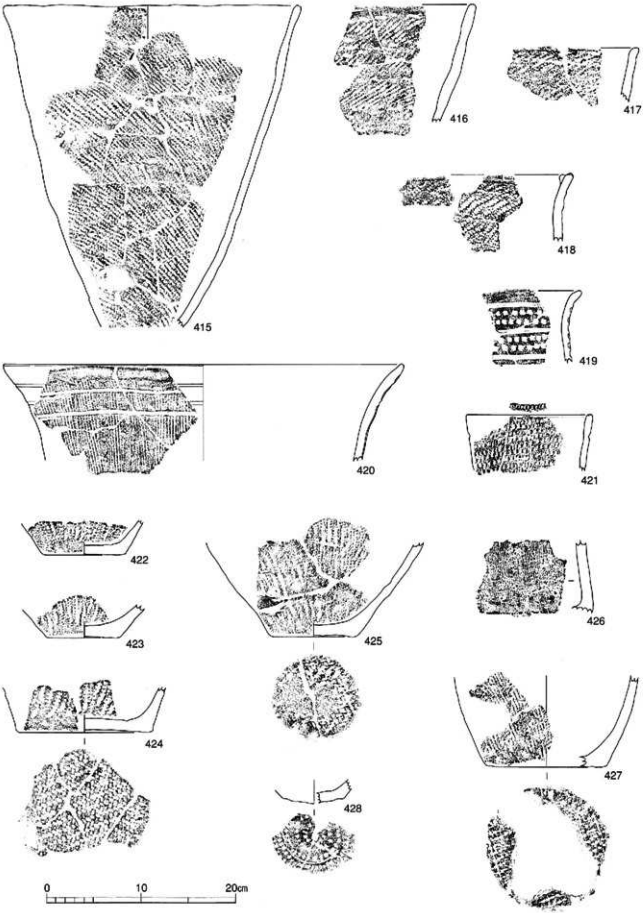

第30図　川跡 5層・5層下出土遺物（東区）



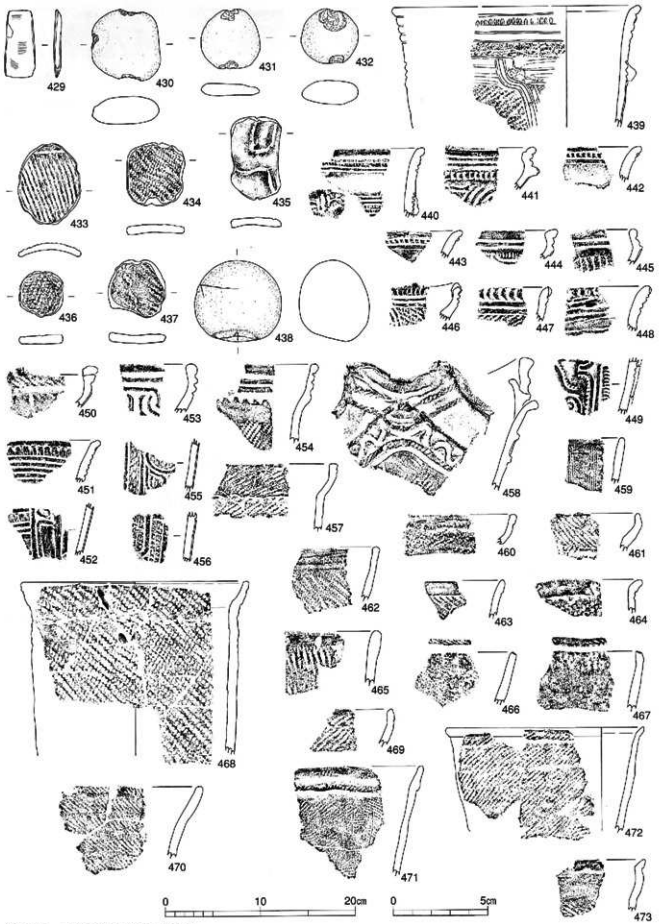

第31図　川跡 5層と6層以下出土遺物（東区）



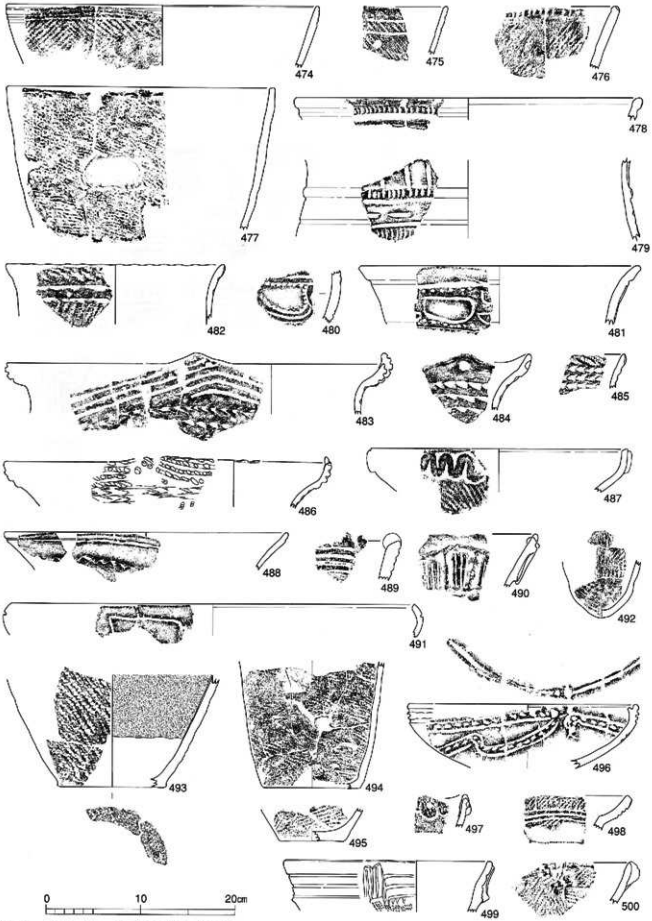

第32図　川跡 5層と6層以下出土遺物（東区）



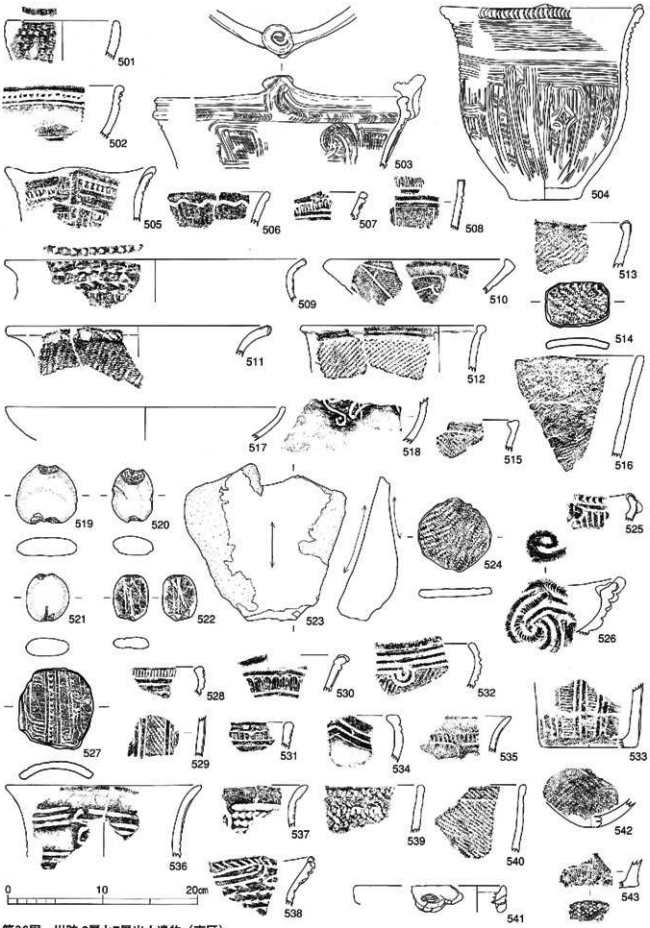

第33図　川跡 5層と6層以下出土遺物（東区）



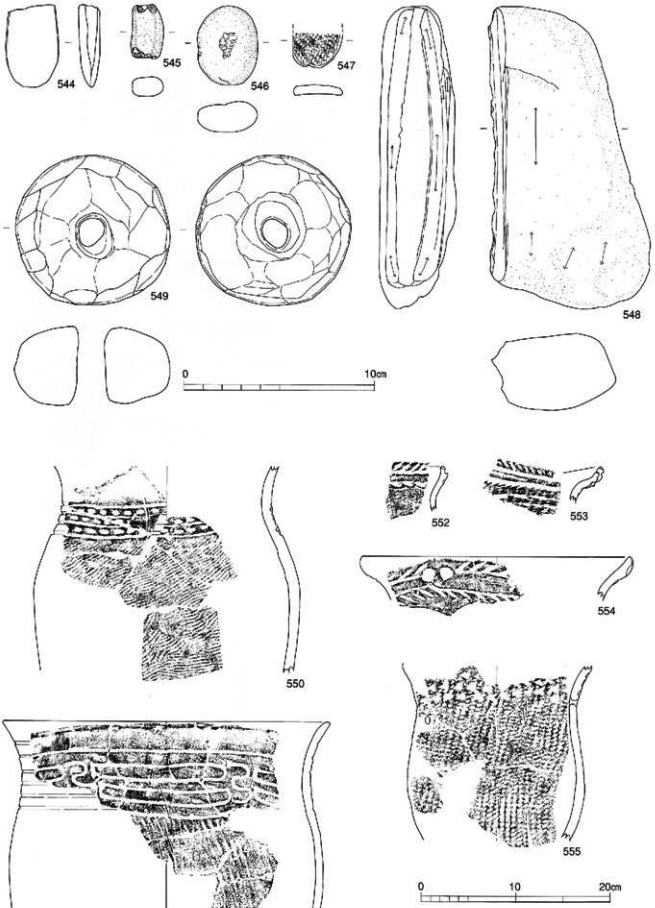

第34図　川跡 6層出土遺物（東区）



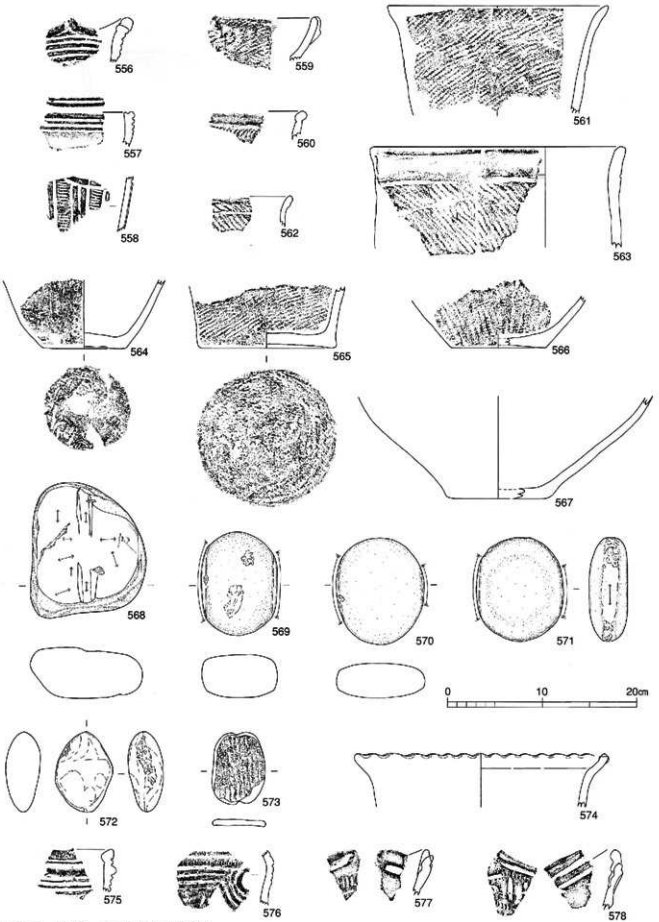

第35図　川跡 6層・6層下出土遺物（東区）



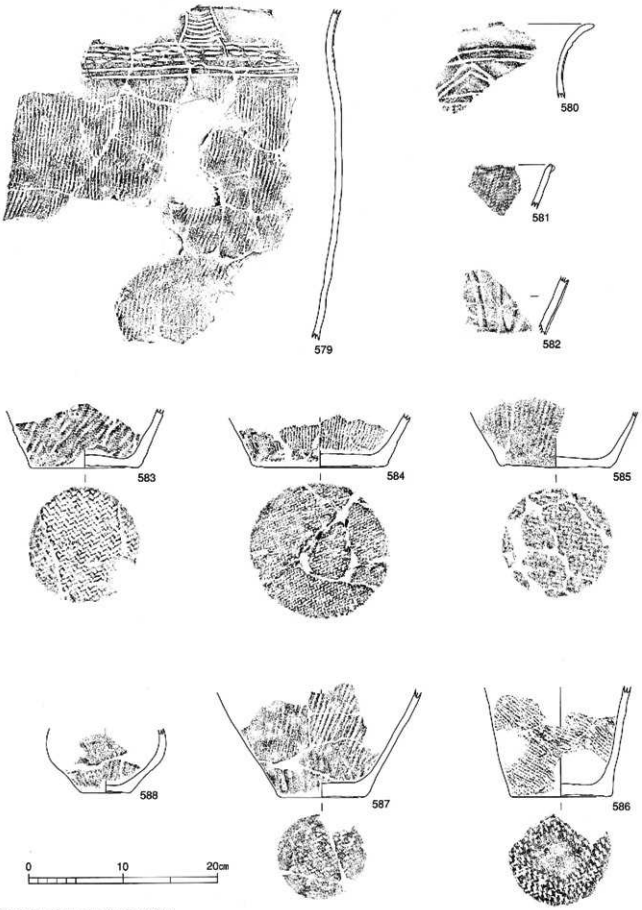

第36図　川跡 6層と7層出土遺物（東区）



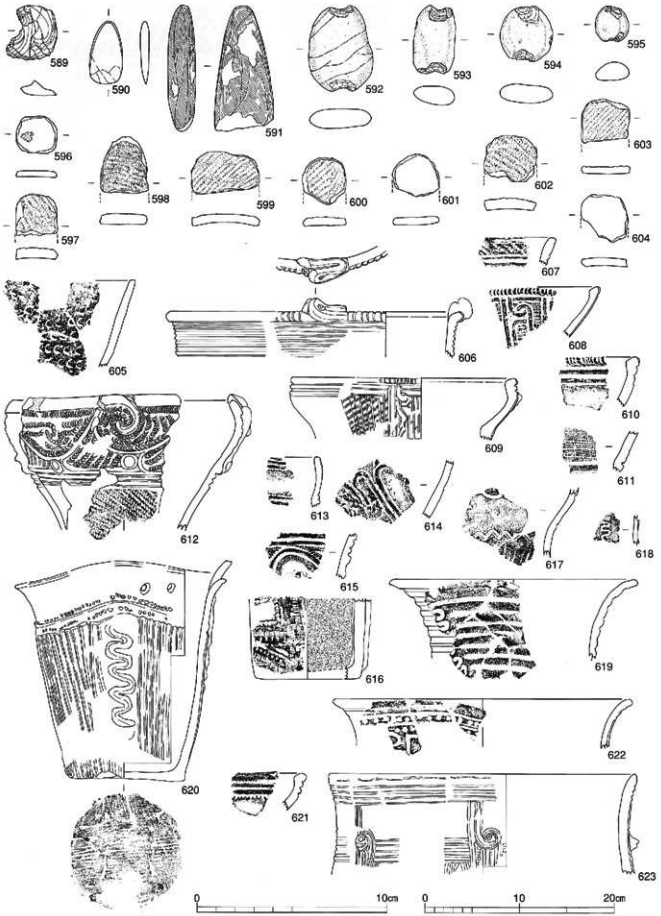

第37図　川跡３～７層出土遺物（東区）



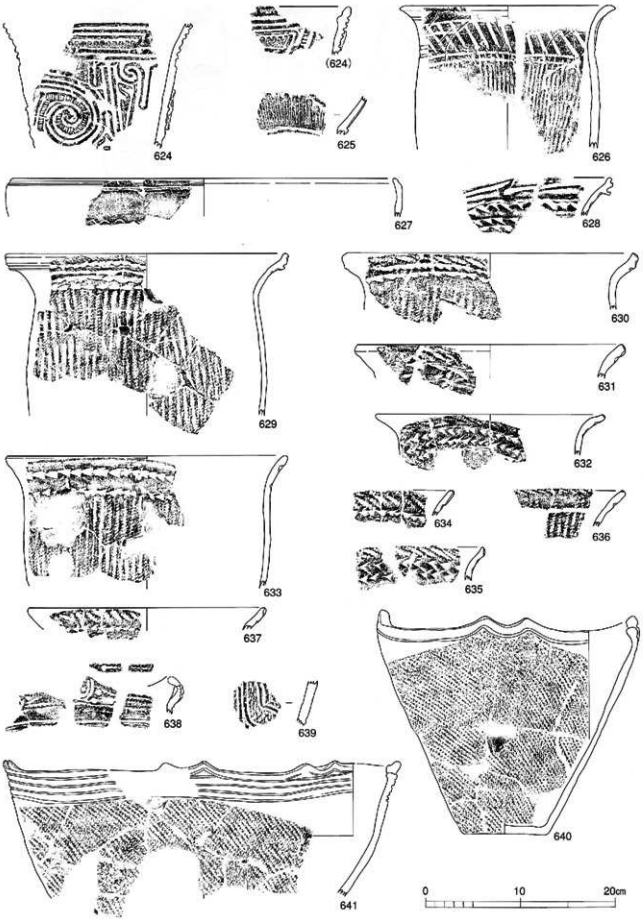

第38図　川跡３～7層出土遺物（東区）



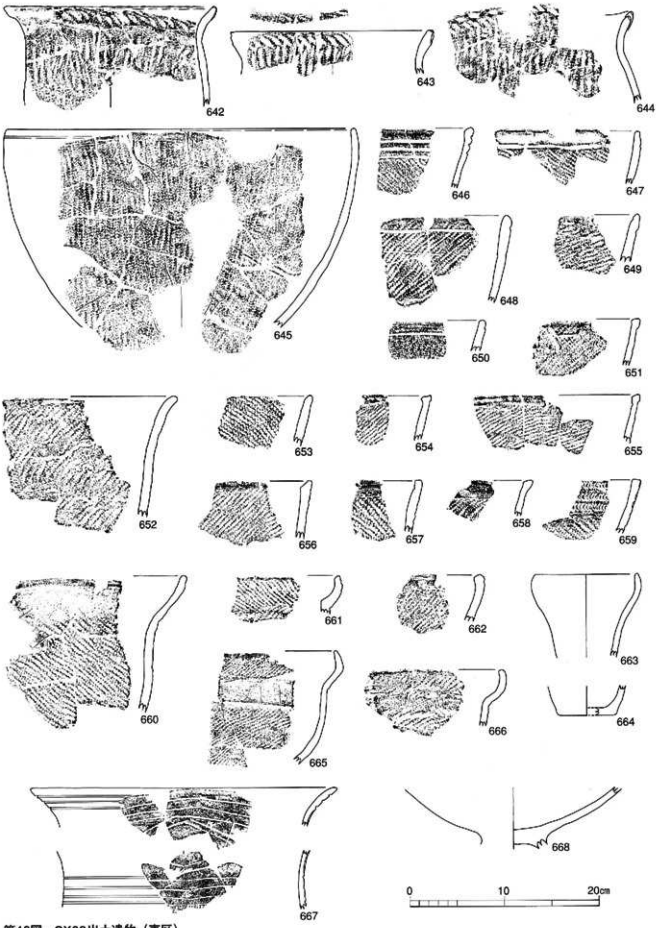

第39図　SX07出土遺物（東区）



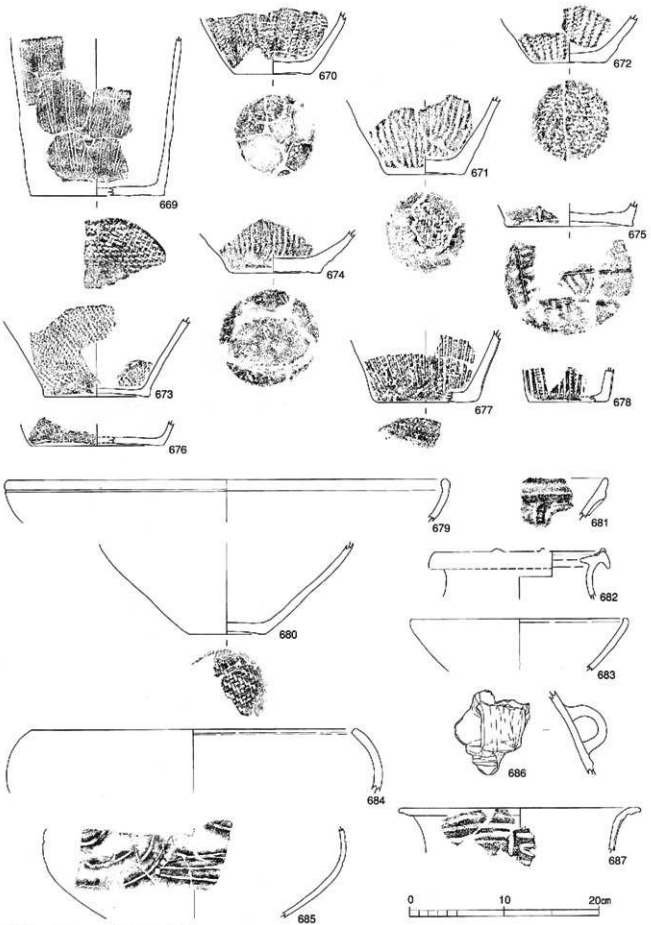

第40図　SX09出土遺物（東区）



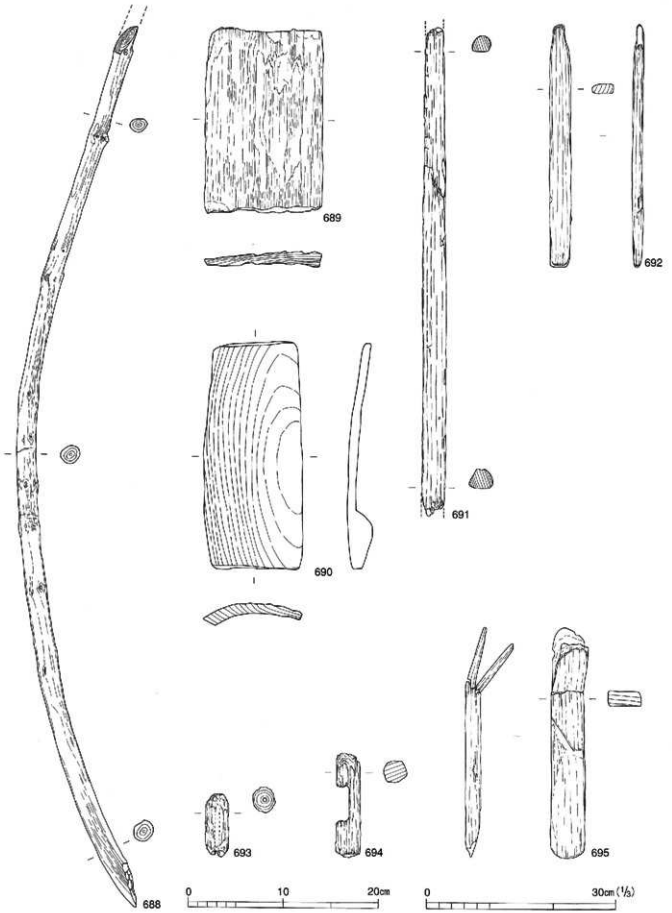

第41図　SX09出土遺物（東区）



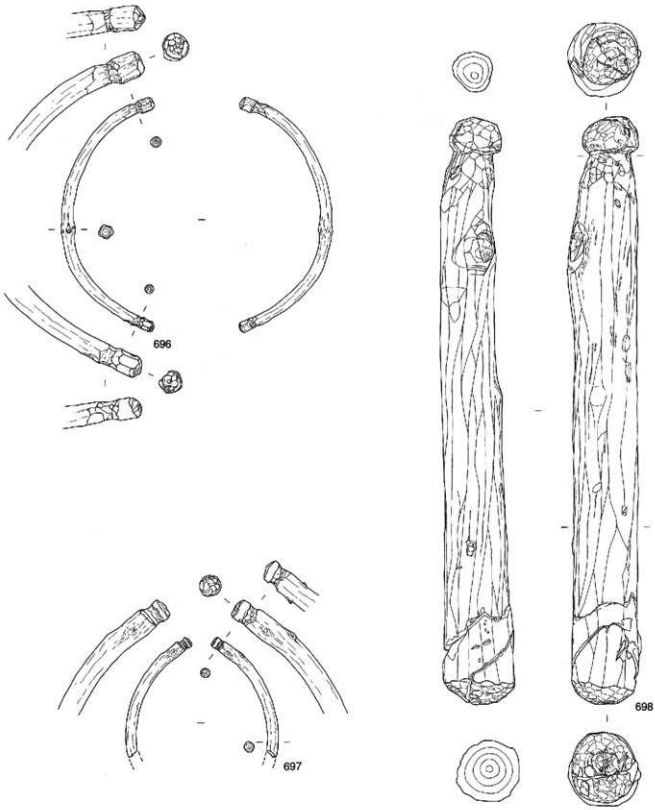

第42図　SX09出土遺物（東区）



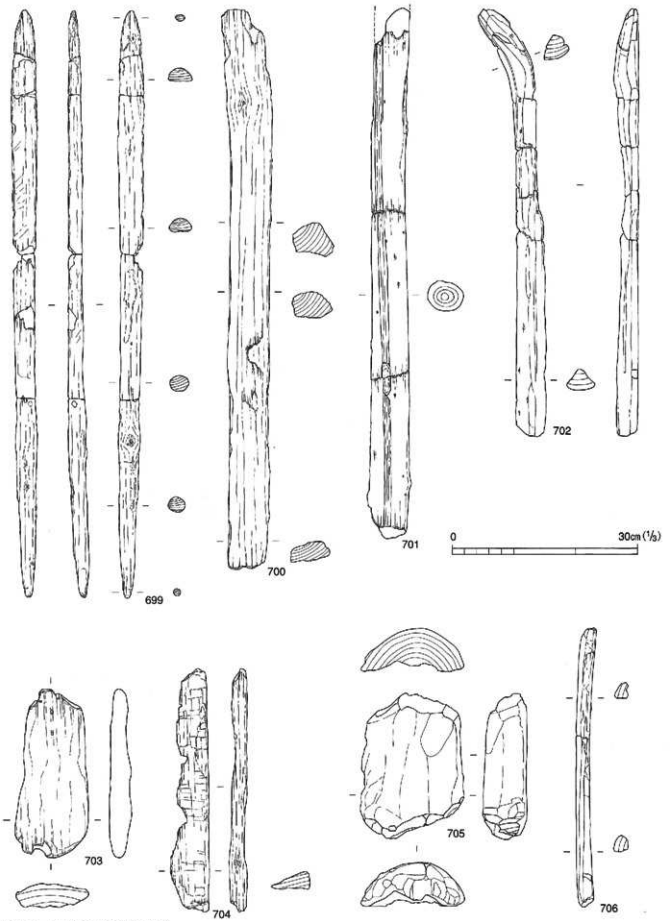

第43図　SX09・10出土遺物（東区）



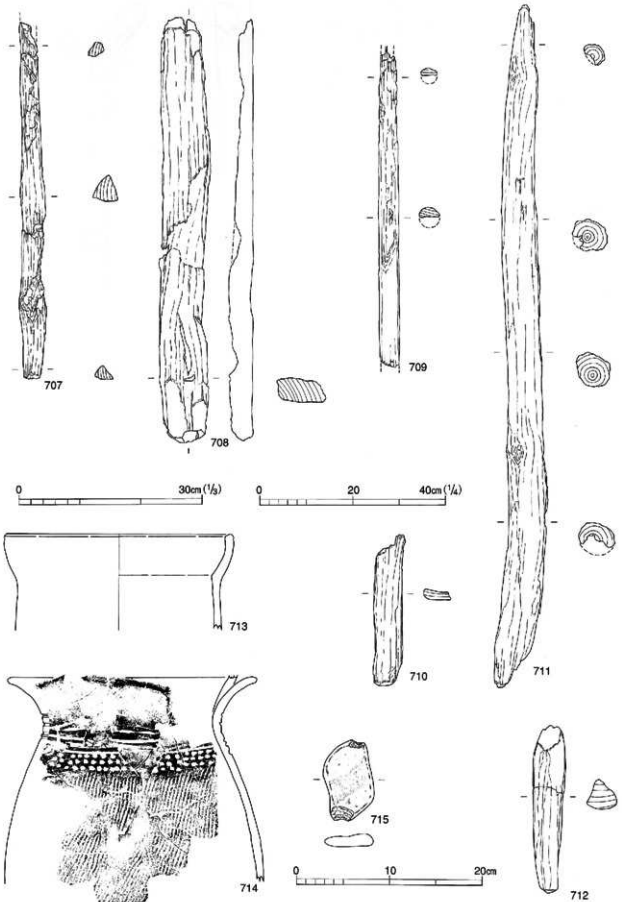

第44図　川跡出土遺物（東区）



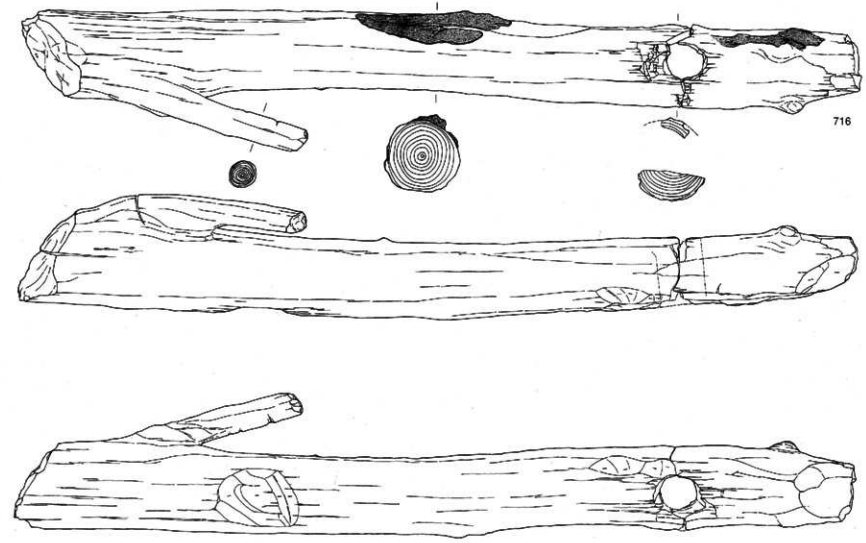

第45図　川跡出土遺物（東区）

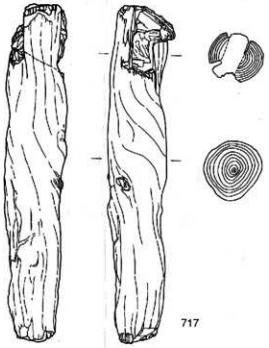



第46図　川跡出土遺物（東区）




第47図　川跡，SX08・09出土遺物（東区）




0 40cm

第48図　川跡出土遺物（東区）

# Ⅳ　針原西遺跡出土縄文土器群について

## はじめに

針原西遺跡より出土した縄文土器群は、その時期を縄文時代早期末から後期前葉までと考えられる。特に中期後葉から後期前葉、つまり串田新式から気屋式までが本遺跡では中心となる。また、前期中葉から前期後葉、型式として蜆ヶ森式から朝日下層式までがほとんど見受けられず、前期前葉の次は中期前葉、新保式が出現し始める。このことも本遺跡を特色づけている一つの要素となっている。以下、各時期についての概要、最後に総括的な考察をまとめる。

### 1）早期末から前期前葉

川跡５層・５層下以降から徐々に姿を見せ始める。数量的には多くはなく、18点を数えるのみだが、良好な資料が出土している。施文はそのほとんどが刺突文系で、あとは撚糸圧痕文やループ縄文と思われる施文が見られる。以下、その施文方法で分類をおこなってみた。

a）撚糸圧痕文系（第20図128・第29図323・第31図403）

ＬもしくはＲの撚糸を格子目状に圧痕させる土器群である。403は口唇部にも同じ施文具で施文する。３点とも若干ではあるが、縦縞が確認できる。時期としては早期末から前期初頭の佐波・柳楽寺式に考えられる。

この施文をする土器群は石川県赤住又谷池遺跡や京都府志高遺跡などでも同様の施文をした土器群が見られる。本遺跡周辺を見ると、南太閤山Ⅰ遺跡出土土器群が良好な対比資料と考えられる。しかしながら、南太閤山Ⅰ遺跡においては今回のような施文の土器群は見られず、今回の資料はこの南太閤山Ⅰ遺跡を補充させる資料と言えよう。

b）刺突文系（第19図94・96・第26図267・第30図375・第31図390・第32図414・第33図421・428・第36図501・第40図605・第42図659）

半截竹管などにより刺突を施した土器群を分類した。375・428は底部片だが、このように底部底辺まで刺突を施すものは、この時期特有の底部である。267は半截竹管の裏側を使用しての施文であり、口唇部の施文はほとんど押し引きに近い刺突を施す。390は非常に細かく稀密な半截竹管文を施す。土器胎土中に大量の海綿骨針を含む。421は半截竹管というよりむしろヘラに近い施文具で刺突を施す。414は全面羽状縄文を施した後、口縁部周辺のみ２連の半截竹管文を施す。

c）条痕文系及び縄文系（第33図415・第35図492・第36図542）

条痕文や縄文施文のみの土器群を分類した。492は表面条痕文の尖底で、542は表面羽状縄文の尖底である。２点とも前期前葉の底部に収まると見られる。415は全面ＲＬの斜縄文を施文するのみだが、その成形方法や胎土からこの前期前半期に位置づけられるかと考える。

### 2）中期前葉から中葉

最初に述べたように、前期前半以降の土器群はほとんど見られず、中期前葉の新保式が姿を見せ始める。ここでは中期前葉から中葉として新保式から新崎式、上山田・天神山（古府）式をまとめた。

総数は144点を数えるが、その内訳を見ると、新保式が40点、新崎式が45点、上山田・天神山式～古府式が59点と、時期が新しくなるにつれ出土点数が増加していることが理解できる。

土器群の内容については、特に問題となる土器群は出土しておらず、従来の型式の枠組みですべて収まるかと考えられる。新保式については、第20図114や115のように、縄文地に半隆起線文を施したり、口縁部から頸部にかけ

て4単位の貼付隆帯を施す土器群で大半が構成されており、胴部に木目状撚糸文を施す土器も第31図393の1点しか出土しないということが本遺跡の特徴である。

### 3) 中期後葉から後期前葉

串田新式、前田式（岩崎野式）、気屋式を中期後葉から後期前葉として分類をおこなった。本遺跡において最も数量が多く出土している時期で、総数262点を数える。内訳を見ると約4割を気屋式が占め、続いて前田式が約3割、串田新式が約2割となっている。ここでも前項と同じような現象が起きており、時期が新しくなるにつれ出土点数が増えている。気屋式においては全出土点数でも約3割あることから、本遺跡における中心時期は気屋式であろう。

今回の分類では、前田式（岩崎野式）と気屋式の間に「前田式～気屋式」という分類基準を入れている。ここであげた土器群は小島俊彰氏の分類ではすべて「前田式土器様式」（小島　2000）に分類されるものだと考える。外反する口縁部形態に、頸部に文様帯を施し、胴部には縦走縄文を施す。またその施文方法を引き継ぎながらも、口縁部を若干内湾化させ、頸部の沈線文が口縁部まであがり、蛇行沈線文が波状沈線文になっていく気屋式の古段階の土器群も見て取れる。今回、このような変遷が見て取れる土器群がでているが、明確な層位が掴めることができないのが残念である。この過程については石川県真脇遺跡において層位的に出土していることから今後の検討課題となるであろう。「岩崎野式土器様式」に考えられる土器は第40図619の1点しか確認できない。小島氏によると「岩崎野式土器様式」が富山県呉東地域を中心に分布していることから、呉西地域に位置する本遺跡では、あまり「岩崎野式土器様式」は広がりを見せなかったものと考えられる。

## おわりに

以上、簡単ではあるが、各時期の概要について述べてみた。最後に本遺跡出土縄文上器群の総括的な考察をおこなってみたい。

まず、早期から前期にかけての土器群であるが、撚糸圧痕文を施す土器群は、佐波・極楽寺式に考えられる。この撚糸を圧痕する土器群は、南太閤山Ⅰ遺跡では報告書を見る限り確認できないため、「南太閤山S群」を補充する資料となりうる。また、刺突文を施す土器群であるが、今回実見する限り、北白川下層Ⅰ式もしくはⅡ式の影響を色濃くしていることが確認できた。この地域においては、東側よりも西側との関係性について考察を進めていくことがより現実的であると考えられる。「3」字状に刺突を施す土器が1点あるが、おそらく羽島下層Ⅱ式の影響を受けた土器と考えられる。

本遺跡においては、前期の北白川下層Ⅱ式が最後の出土となり、北白川下層Ⅱ式と並行または後続する上器群、槻ヶ森式や福浦上層式、朝日下層式等といった土器群が全く見受けられず、中期・新保式の土器群が顔を見せ始める。北陸独自と見られる槻ヶ森式や福浦上層式が顔を見せないということは、本遺跡を特徴づけており、今後の検討課題となるであろう。南太閤山Ⅰ遺跡でも同様に槻ヶ森式や福浦上層式の土器群を見ることはない。

次の中期の段階であるが、遺跡の立地的な環境から、加賀・能登地域との関係を見ていく必要性がある。特に新保式においては、徳前C遺跡タイプの土器群がまとまって出土しているので、検討を要するものと考える。上山田・天神山式になると境A遺跡などの呉東地域との関係性が強くなっていくのも特徴的であると考える。串田新式については、その細分について様々な論考があり、未だその全容を表していないと考えたため、今回は細分しなかった。

本遺跡においてその中心となる土器群は、前田式から気屋式である。この時期が本調査区の中心時期といってよいだろう。この時期の土器群では、前田式から気屋式に至る過程の問題がある。石川においてこの間に、珠洲市高波遺跡出土土器群の存在があり、山内清男氏及び高堀勝喜氏により「高波式」と設定されたものである。この「高波式」

については、加藤三千雄氏が

a)「菰状の施文具」を使い、平行沈線ないし列点文を施文する。沈線は逆「コ」字状の断面を呈するのが特徴である。

b) 口縁外反する類は器形の上で縊い波状口縁が多い。

c) 平行沈線が多条化し、刺突文（列点）も三、四段と多段化することがあげられる。

d) 口縁部を無文とし、頸部に平行沈線、蛇行沈線を施文するものがある。

e) くびれた類部から口縁部が外傾し、その上端を内側に短く折り曲げる深鉢が出現する。

以上の５項目をあげて説明し、この「高波式」が気屋式の直前型式であることを示しているとしている（加藤　1993）。さらに、加藤氏は「気屋式に先行する土器型式として前田式が使用されるが、従前の前田式を古段階、高波遺跡出土の山内資料を新段階と二分する方向にある」としている。この分類と小島氏の「前田式土器様式」及び「岩崎野式土器様式」の分類の考察は、ほぼ同じ方向性にあると見られる。しかし、小島氏はこの「高波式」に関する考察をおこなっておらず、「前田式土器群」内部での考察をおこなっていることが大きな違いであるかと考える。本遺跡が位置する射水平野一帯を考えるときには、その立地的環境から石川との関係性を論じていく必要性があると考える。

以上から、針原西遺跡出土土器群は、この射水平野一帯の縄文時代土器群の考察を進めていく上で、重要な地位を占めると考える。今回出土した縄文土器の多数が川跡や溝出土ということで、層位的とは決して言えない。今後、周辺地域の調査が望まれる。（堀井）

**参考文献**


福井県教育委員会　1979年『島浜貝塚―縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査１―』

森　秀典　1984年『北陸の縄文時代中期後葉“串田新式”に関する編年試論』『大境』第８号　富山考古学会

能都町教育委員会／真脇遺跡発掘調査団　1986年『真脇遺跡』（1997年復刻版）

宇ノ気町教育委員会　1986年『宇ノ気町気屋遺跡』

富山県教育委員会　1986年『都市計画街路　七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(4)　南太閤山Ⅰ遺跡』

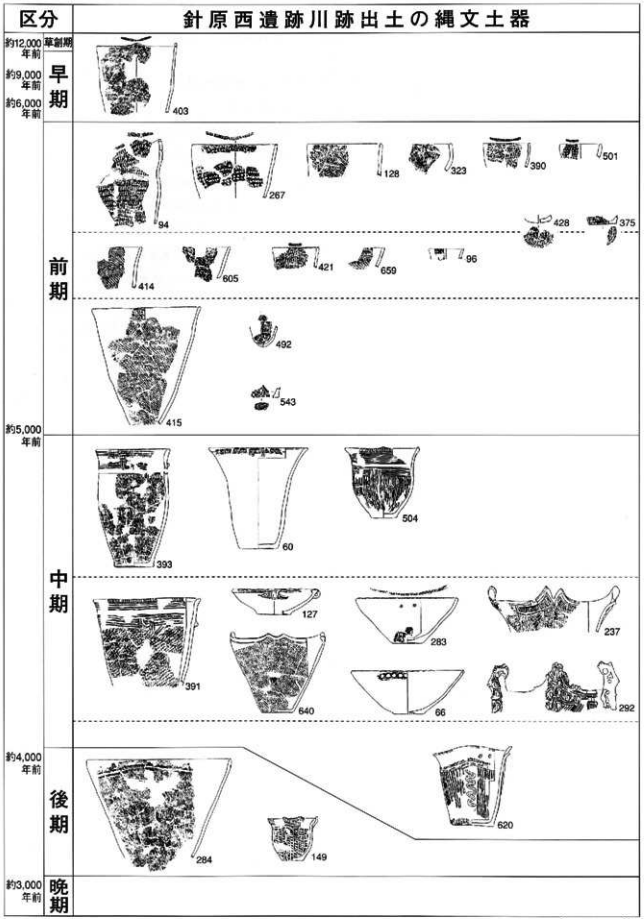
（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター　1989年『京都府遺跡調査報告書第12冊　志高遺跡』

奈良国立文化財研究所　1993年『能登縄文資料　山内清男考古資料６』『奈良国立文化財研究所史料』第39冊

北陸の縄文土器を見る会　1998年『第６回　北陸の縄文土器を見る会資料―三引Ｃ・Ｄ遺跡と北陸の早期末から前期初頭の土器群―』

小島俊彰　2000年『前田式土器様式と岩崎野式土器様式の諸型式』『大境』第20・21号創立50周年記念合併号　富山考古学会

能都町教育委員会／真脇遺跡発掘調査団　2002年『石川県能都町　真脇遺跡2002　史跡真脇遺跡整備事業に係る第３～６次発掘調査概要』




第49図　縄文時代の出土遺物

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径 長さ | 器高 幅 | 底径 厚さ | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4図 | 1 | 18トレンチ | 石器 | 磨製石斧 | 10.3 | 5.2 | 2.1 | | 重量138g 蛇紋岩 | 完形 |
| | 2 | 15トレンチ | | 甕 | 18.5 | | | | 外面煤付着 | 1/3 |
| | 3 | 15トレンチ | | | | | 6.4 | | | 1/8 |
| | 4 | 6トレンチ | | | | | | | 内外面煤付着 | 破片 |
| | 5 | 13トレンチ | 須恵器 | 坏 | | | 6.8 | | | |
| | 6 | 10トレンチ | 須恵器 | 坏 | | | 6.6 | | 焼成不良 | 1/4 |
| | 7 | 10トレンチ | 珠洲 | | | | 6.5 | | 外面自然釉 | 底 1/4 |
| | 8 | 6トレンチ | | | 9.0 | | | | | 口 1/4 |
| | 9 | 16トレンチ | | | 11.4 | | | | | 口 1/6 |
| | 10 | 14トレンチ | 越中瀬戸 | | | | | | | 破片 |
| | 11 | 6トレンチ | 土製品 | 土錘 | | | | | | 1/6 |
| | 12 | | 古銭 | | | | | | 「寛永通寶」 | |
| | 13 | 7トレンチ | 木製品 | | 11.6 | 3.0 | 0.8 | | | |
| 8図 | 1 | SD01 | 土師器 | 甕 | | | | | 外面煤付着 | 破片 |
| | 2 | SD01 | 須恵器 | 坏 | 11.5 | 4.0 | 5.8 | | | 1/3 |
| | 3 | SD01 | 須恵器 | 坏 | 12.8 | 3.5 | | | | 1/4 |
| | 4 | SD01 | 越中瀬戸 | 皿 | 10.8 | 2.5 | 4.4 | | | 1/3 |
| | 5 | SD01 | 木製品 | | 9.1 | 0.7 | 0.5 | | | |
| | 6 | SD01 | 木製品 | | 12.1 | 0.6 | 0.5 | | | |
| | 7 | SD01 | 木製品 | | 12.8 | 0.8 | 0.6 | | | |
| | 8 | SD01 | 木製品 | | 12.4 | 0.7 | 0.5 | | | |
| | 9 | SD01 | 木製品 | | 14.4 | 0.8 | 0.5 | | | |
| | 10 | SD01 | 木製品 | | 16.7 | 0.8 | 0.6 | | | |
| | 11 | SD01 | 木製品 | | 17.6 | 0.7 | 0.6 | | | |
| | 12 | X8Y13 | 珠洲 | | | | 12.3 | | | 底 1/8 |
| | 13 | X6Y26 | 須恵器 | | 12.8 | | | | | 口 1/4 |
| | 14 | X10Y11 | 須恵器 | 短頸壺 | 8.1 | | | | | 口 1/5 |
| | 15 | X10Y16 | 越中瀬戸 | | 6.8 | 受径 10.2 | | | | 口 1/5 |
| | 16 | X12Y15 | | | | | 5.3 | | | 底 1/2 |
| | 17 | X9Y13 | | | | | | | | 破片 |
| | 18 | X10Y18 | 古銭 | | | | | | | |
| | 19 | X9Y26 | 古銭 | | | | | | | |
| | 20 | X9Y26 | 古銭 | | | | | | | |
| | 21 | X10Y11 | 古銭 | | | | | | | |
| | 22 | X15Y19 | 土製品 | 土錘 | | | | | | 完形 |
| | 23 | X11Y28 | 土製品 | 土錘 | | | | | | 1/3 |
| 16図 | 24 | X12Y23 | 石器 | 石鏃 | 2.9 | 4.8 | 0.7 | | 重量7g | 完形 |
| | 25 | X14Y21 | 石器 | 磨製石斧 | | 5.0 | 2.8 | | 基部。重量232g 粘板岩 | |
| | 26 | X13Y21 | 縄文土器 | 土器片錘 | 10.6 | 7.2 | | | 気屋式の破片を利用。切り目あり。 | 完形 |
| | 27 | X12Y12 | 縄文土器 | 土器片錘 | 4.0 | 6.3 | | | 時期不明の破片利用。切り目あり。 | 1/2 |
| | 28 | X12Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 半隆起線文と三角刺突文を施す。 | 破片 |
| | 29 | X12Y25 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 半隆起線文。肥厚させた口縁部に刻み目を施す。 | 破片 |
| | 30 | X12Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式新段階 | 半隆起線文とRLの斜縄文。 | 破片 |
| | 31 | X10Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 堀之内2式並行 | 隆帯上に縄文。山形口縁・波頂部に刻みを施す。 | 破片 |
| | 32 | X12Y14<br>X14Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式新段階 | やや幅広な沈線文。宇津津崎山タイプの口縁。RLの斜縄文。 | 破片 |
| | 33 | X13Y13<br>X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式新段階 | 半隆起線文上に貝殻腹縁文を施す。32と同様の口縁部成形。内外面煤付着。 | 破片 |
| | 34 | X12Y24 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | やや幅広な沈線文を施す。雨滴状列点文。 | 口 1/3 |
| | 35 | X13Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 34.4 | | | 串田新式新段階 | 沈線区画内に貝殻腹縁文を施し、4単位のヘラ状工具を用いてのヘラ描き文。 | 口 1/8 |
| | 36 | X14Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 多条の雨滴状列点文。 | 破片 |
| | 37 | X14Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式新段階<br>～前田式 | 口縁部に貝殻腹縁文。横位の押引き列点文。 | 破片 |
| | 38 | X12Y9 | 縄文土器 | 深鉢 | (35.4) | | | 串田新式 | 口縁部に貝殻腹縁文。胴部はRLの縦走縄文。 | 口 2/3 |
| | 39 | X12Y25 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | やや細めの工具による雨滴状列点文。半隆起線文を施す | 破片 |
| | 40 | X14Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 口縁部に横位の押し引きを施す。 | 破片 |
| | 41 | X13Y22<br>X14Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 蛇行沈線文、円形工具による逆統刺突文。RLの縦走縄文。 | 破片 |
| 17図 | 42 | X11Y14<br>X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 37.8 | | | 気屋式 | 口縁部にRLの斜縄文を施し、頸部に三角刺突文。胴部は縦走縄文。外面煤付着。 | 口 1/4 |
| | 43 | X14Y20<br>X14Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | 27.0 | | | 気屋式古段階 | 口縁部及び頸部に波状の沈線文を施し、胴部はRLの縦走縄文を施す。 | 口 1/6 |
| | 44 | X10Y13<br>X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 28.0 | | | 気屋式 | 口縁部にRLの斜縄文を施し、頸部に角状の押引列点文を施す。 | 破片 |
| | 45 | X11Y11<br>X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 32.3 | | | 気屋式 | 口縁部にRLの斜縄文を施し、頸部に三角刺突文。胴部は縦走縄文。 | LI 1/4 |

**第2表　出土遺物観察表**

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径（長さ） | 器高（幅） | 底径（厚さ） | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17図 | 46 | X12Y12<br>X13Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 31.6 | | | 気屋式 | 口縁部にRLの斜縄文を施し、頸部に三角刺突文。胴部は縦走縄文。内外面無付着。 | □ 1/4 |
| | 47 | X11Y11<br>X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 27.8 | | | 気屋式 | 口縁部にRLの斜縄文を施し、頸部に三角刺突文。胴部は縦走縄文。 | □ 3/8 |
| | 48 | X12Y12 | 縄文土器 | 深鉢か | 29.7 | | | 気屋式 | 口縁部に三角刺突文を施し、頸部に押引文を2条施す。 | 破片 |
| | 49 | X12Y23<br>X13Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式新段階 | 口唇端部を押圧し、頸部に連続列点文を施す。RLの縦走縄文。 | 破片 |
| | 50 | X12Y12 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 気屋式新段階 | 口唇端部を押圧し、口縁部を無文帯、頸部に三角刺突文を施す。 | 破片 |
| | 51 | X12Y12<br>X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式新段階 | 口唇端部を押圧し、口縁部にRLの斜縄文、頸部は無文帯にし、胴部にRLの縦走縄文を施す。 | 破片 |
| | 52 | X12Y23 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 前田式～気屋式 | 口唇端部に刻み目を施し、半隆起線文、その間に角状列点文を施す。 | 破片 |
| | 53 | X13Y13 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 気屋式新段階 | 口縁部に斜縄文を施し、頸部に沈線文を施す。 | 破片 |
| | 54 | X14Y27 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 頸部に沈線文を施し、沈線文内に列点文を施す。 | 破片 |
| | 55 | X14Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 粗製土器群。口縁部無文帯、区画線の押引文とRLもしくはLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 56 | X12Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 粗製土器群。口縁部無文帯、区画線の押引文とRLもしくはLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 57 | X13Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 粗製土器群。口縁部無文帯、区画線の押引文とRLもしくはLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 58 | X14Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 44.0 | | | 後期 | 粗製土器。全面LRの斜縄文。口縁部を4単位で内面に曲げる。 | □ 1/4 |
| 18図 | 59 | X13Y16<br>X14Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 22.0 | | | 前田式期 | 口縁部に横位の押引文を施し、頸部に区画沈線文、胴部にLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 60 | X8Y19 | 縄文土器 | 深鉢 | 28.4 | 29.4 | 10.6 | 上山田・天神山式 | 粗製。口縁部にのみ斜縄文を施す。 | 3/4 |
| | 61 | X12Y25 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 縦走縄文を隆起線文区画内に施し、貼付隆帯を施す。 | 破片 |
| | 62 | X12Y22<br>X12Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | 26.0 | | | 新崎式 | 4単位の逆J字形貼付隆帯。LRの斜縄文を全面に施す。 | 破片 |
| | 63 | X12Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | 21.8 | | | 新崎式 | 62とほぼ同じだが、貼付隆帯はなく、全面縄文のみ。 | 破片 |
| | 64 | X12Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 62とほぼ同じだが、貼付隆帯はなく、全面縄文のみ。 | 破片 |
| | 65 | X12Y22<br>X12Y25 | 縄文土器 | 深鉢底部 | | | 10.1 | 欠山期後葉～巻期前葉 | 欠山期頃までLRの斜縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。内面煤付着。 | 底 3/4 |
| | 66 | X12Y12 | 縄文土器 | 浅鉢 | 32.4 | 12.6 | 8.1 | 前田式期並行 | 口縁部に円形工具による刺突文。 | 1/3 |
| | 67 | X14Y14 | 縄文土器 | 装飾把手 | | | | 中期中葉 | 装飾把手。 | |
| | 68 | X14Y14 | 縄文土器 | 浅鉢 | 23.4 | | | 前田式期 | 口縁部をやや肥厚させているが、特に施文無し。 | 破片 |
| | 69 | X14Y15 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 前田式期 | 貼付蛇行隆帯。RLの縦走縄文。 | 破片 |
| | 70 | X14Y14 | 縄文土器 | 底部 | | | 11.1 | 後期 | 胴部周辺までRLの縄文を施す。底部底辺に網代圧痕が残存する。 | 破片 |
| | 71 | X11Y11<br>X12Y12 | 縄文土器 | 底部 | | | 9.2 | 後期 | 胴部周辺までRLの縄文を施す。底部底辺に網代圧痕が残存する。 | 底 1/6 |
| | 72 | X11Y11<br>X13Y10 | 縄文土器 | 底部 | | | 8.8 | 後期 | 胴部周辺までRLの縄文を施す。底部底辺に網代圧痕が残存する。 | 底 完存 |
| | 73 | X11Y14<br>X12Y12 | 縄文土器 | 底部 | | | 8.2 | 後期 | 胴部周辺までRLの縄文を施す。底部底辺に網代圧痕が残存する。 | 底 完存 |
| | 74 | X11Y11<br>X12Y12 | 縄文土器 | 底部 | | | 9.4 | 後期 | 胴部周辺までRLの縄文を施す。底部底辺に網代圧痕が残存する。 | 底 1/2 |
| | 75 | X11Y11 | 縄文土器 | 底部 | | | 13.3 | 後期 | 胴部周辺までRLの縄文を施す。底部底辺に網代圧痕が残存する。 | 底 1/2 |
| 19図 | 76 | X8Y24 | 木製品 | 田下駄 | 16.3 | 1.4 | 0.7 | | | |
| | 77 | SD02 | 木製品 | 田下駄 | 16.6 | 8.5 | 0.8 | | | |
| | 78 | SD02 | 石器 | 砥石 | 12.2 | 3.4 | | | 両面に擦痕あり。重量 330g | 完形 |
| | 79 | SD02 | 石器 | 石錘 | 9.3 | 5.6 | 4.0 | | 両打欠石錘。重量 244g | 完形 |
| | 80 | SD02 | 石器 | 石錘? | 7.1 | 4.1 | 1.4 | | 重量 70g | 完形 |
| | 81 | SD02 | 瀬戸? | 皿 | 10.8 | | | | | L11/4 |
| | 82 | SD04 | 石器 | 石錘 | 8.4 | 5.6 | 4.3 | | 4方向に打欠あり。重量 280g | 完形 |
| | 83 | X12Y32 | 石器 | 打製石斧 | 16.4 | 11.3 | 3.2 | | 重量 696g 安山岩 | 完形 |
| | 84 | X6Y18 | 石器 | 磨製石斧 | | 5.7 | 2.8 | | 刃部 重量 227g 粘板岩 | |
| | 85 | X10Y | 石器 | 磨製石斧 | 7.6 | 3.8 | 1.2 | | 重量61g 結晶岩 | 完形 |
| | 86 | X6Y16 | 石器 | 磨製石斧 | 7.2 | 3.3 | 1.2 | | 重量50g 結晶岩 | 完形 |
| | 87 | X7Y14 | 石器 | 砥石 | (8.5) | | (2.6) | | 重量255g 砂岩 | |
| | 88 | X7Y33 | 石器 | 砥石 | (7.2) | | (3.3) | | 重量 73g | |
| | 89 | X10Y21 | 石器 | 擦切石器? | 15.1 | (6.2) | 4.1 | | 重量 535g | 1/2 |
| | 90 | X14Y10 | 石器 | 擦切石器? | 13.7 | 3.8 | 4.3 | | 敲石として使用 重量 316g | 1/2 |
| | 91 | X14Y11 | 石器 | 石錘 | 7.8 | 5.5 | 1.5 | | 両打欠石錘。重量 98g | 完形 |
| | 92 | X6Y15 | 石器 | 石錘 | 8.0 | 5.0 | 1.7 | | 両打欠石錘。重量 120g | |
| | 93 | X7Y16 | 石器 | 石錘 | 12.7 | 7.9 | 3.9 | | 両打欠石錘。重量 549g | 完形 |
| | 94 | X6Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 北白川下層Ia式 | L唇部から胴部にかけて、爪形文を施す。その他に施文は見られない。 | 破片 |

□：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径（長さ） | 器高（幅） | 底径（厚さ） | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 19図 | 95 | X14Y10 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口縁端部をやや肥厚させ、側みを施し、口縁部から胴部にかけてRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 96 | X6Y25 | 縄文土器 | 鉢 | 9.8 | | | 踊磯b式 | 口縁部に竹管による円形刺突を施す。その他に施文は見られない。 | 破片 |
| | 97 | | 縄文土器 | 鉢 | | | | 気屋式 | 多条の沈線文を施す。 | 破片 |
| | 98 | X9Y26 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期後葉 | 粗製土器。全面LRもしくはRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 99 | X4Y10 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期後葉 | 粗製土器。全面LRもしくはRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 100 | X6Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期後葉 | 粗製土器。全面LRもしくはRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 101 | X14Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | 26.4 | | | 串田新式 | 口縁部に貝殻腹縁文を施し、沈線文で区画。頸部は無文帯で、胴部に沈線文を施す。 | 口 1/5 |
| | 102 | X15Y13 | 縄文土器 | 鉢 | 19.4 | | | 前田式～気屋式 | 口縁部は無文帯で、頸部に波打沈線文を施す。 | 破片 |
| | 103 | X13Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 口縁部に波状沈線文、押引文を施す。 | 破片 |
| | 104 | X9Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口唇部に貼付突帯をつけ、口縁端部をやや肥厚させ、側み目を施し、その下は半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 105 | X13Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 口縁部に波状沈線文を施し、頸部に沈線文を施す。 | 破片 |
| | 106 | X12Y30 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁端部をやや折り返し、刻み目を施す。口縁部から頸部にかけて半隆起線文を横位に施し、胴部は羽状縄文を施す。 | 破片 |
| | 107 | X9Y25 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 全面LRの斜縄文に側みを施す。 | 破片 |
| | 108 | X10Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 全面にLRの斜縄文を施し、細沈線文を施す。 | 破片 |
| | 109 | X7Y15<br>X7Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | 36.5 | | | 前田式～気屋式 | 口縁端部は無文帯で、頸部に沈線文を施し、その内部に列点文を施す。 | 口 1/5 |
| | 110 | X14Y11<br>X14Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁端部をやや肥厚させ、刻み目を施す。頸部には半隆起線文を施し、胴部はLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 111 | X11Y26 | 縄文土器 | 土器片錘 | 6.2 | 5.7 | 1.0 | 上山田・天神山式期 | 上山田・天神山式期の土器片を利用。 | 完形 |
| | 112 | X10Y17 | 縄文土器 | 底部 | | | 5.4 | | 胴部はRLの斜縄文を施し、底部底辺には縄文もしくは簾状圧痕が残存する。 | 底 ほぼ完存 |
| | 113 | X10Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 多条半隆起線文で、その上に刻み目を施す。 | 破片 |
| 20図 | 114 | X14Y22 | 縄文土器 | 深鉢 | 27.5 | | | 新保式 | 半隆起線文及び、貼付隆帯を施す。口縁部と頸部の間にLRの斜縄文を施す。 | 口 1/4 |
| | 115 | X10Y26<br>X14Y22 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 半隆起線文及び、貼付隆帯を施す。口縁部と頸部の間にLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 116 | X14Y14<br>X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | 18.0 | | | 新保式～新崎式 | 口縁部に貼付隆帯を施し、その内部に縄文を押圧する。胴部はLRの斜縄文。 | 口 1/4 |
| | 117 | X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 新崎式 | 口縁部は無文帯だが、頸部に半隆起線文・刺突文・LRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 118 | X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田式 | 沈線文区画内に刻みを施す。 | 破片 |
| | 119 | X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 沈線区画内もしくは隆帯上に貝殻腹縁文を施し、綾描きや斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 120 | X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 沈線区画内もしくは隆帯上に貝殻腹縁文を施し、綾描きや斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 121 | X11Y13<br>X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | (51.3) | | | 串田新式 | 沈線区画内もしくは隆帯上に貝殻腹縁文を施し、綾描きや斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 122 | X12Y20<br>X13Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式期 | 口縁部は無文帯。縄走縄文を全面に施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 123 | X13Y20<br>X14Y22 | 縄文土器 | 深鉢 | 32.9 | | | 気屋式 | 口唇部から口縁部にかけて刻み目を施す。頸部に2条の沈線文を施し、胴部はLRの縦走縄文。 | 口 1/6 |
| | 124 | X10Y12<br>X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 29.4 | | | 気屋式期 | 粗製。主として縄文・沈線文で文様は構成されている。外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 125 | X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式期 | 粗製。主として縄文・沈線文で文様は構成されている。 | 破片 |
| | 126 | X9Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 25.6 | | | 気屋式期 | 粗製。主として縄文・沈線文で文様は構成されている。 | 口 1/5 |
| | 127 | X10Y12 | 縄文土器 | 浅鉢 | 24.3 | 7.4 | 9.3 | 前田式 | 4単位の把手。 | 2/3 |
| | 128 | X8Y13<br>X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 20.8 | | | 前期前葉 | 縄文を押圧する。その間に刻みを施す。内外面煤付着。 | 口 3/8 |
| | 129 | X14Y15 | 縄文土器 | 底部 | | | 12.4 | | 全面斜縄文。 | 底 ほぼ完存 |
| | 130 | X12Y14 | 縄文土器 | 底部 | | | 12.3 | | 全面斜縄文。胴代圧痕あり。内外面煤付着 | 底 完存 |
| | 131 | X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 28.0 | | | 後期 | | 口 1/5 |
| | 132 | X7Y16<br>X11Y22<br>X11Y23 | 縄文土器 | 浅鉢 | 29.4 | | | 新保式～新崎式 | 口唇部に半隆起線文や刺突文を施す。口縁部はやや半隆起線状に肥厚させているが、その他には施文無し。 | 口 1/6 |
| | 133 | X7Y16 | 縄文土器 | 浅鉢 | | | 5.8 | 新保式～新崎式 | | 破片 |
| | 134 | X9Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 沈線文・列点文を施す。 | 破片 |
| 21図 | 135 | X10Y13 | 石器 | ナイフ形石器 | 4.5 | 2.1 | 0.9 | | 重量7g ケツ岩 | 完形 |
| | 136 | X12Y16 | 縄文土器 | 土製円盤 | 6.9 | 6.8 | 0.8 | | 串田新式期の土器片を利用。 | 完形 |
| | 137 | X14Y16 | 縄文土器 | 土製円盤 | | 5.0 | 1.1 | | 串田新式期の土器片を利用。 | 5/6 |
| | 138 | X10Y13 | 石器 | 石錘 | 6.9 | 5.5 | 2.0 | | 重量136g | 完形 |
| | 139 | X12Y16 | 縄文土器 | 土器片錘 | | 4.9 | 0.7 | | | 1/2 |
| | 140 | X13Y10 | 縄文土器 | 土器片錘 | 7.4 | 4.3 | 1.1 | | | 完形 |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径【長さ】 | 器高【幅】 | 底径【厚さ】 | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 21図 | 141 | X14Y16 | 縄文土器 | 浅鉢 | 20.1 | | | 上山田・天神山式 | □縁部にやや長めの刻み目を施す。内外面煤付着。 | 破片 |
| | 142 | X8Y15 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 古府式 | □縁部に沈線文を施し、その上から刻みを施す。 | 破片 |
| | 143 | X11Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 半隆起線文を施す。底部の可能性有り。 | 破片 |
| | 144 | X11Y14 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 上山田・天神山式 | □縁部に貼付隆帯を施す。頸部には押し引き沈線文を施す。 | 破片 |
| | 145 | X14Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 古府式 | RLの縄文地に半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 146 | X12Y11 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 古府式 | 多条半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 147 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 古府式 | □縁部に半隆起線文、その他はLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 148 | X13Y17 | 縄文土器 | 深鉢か | (23.3) | | | 古府式 | 多条半隆起線文及び貼付隆帯に刻み目を施す。 | 口 1/8 |
| | 149 | X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 13.2 | 12.5 | 5.8 | 古府式 | □縁部に隆帯上刻み目を施し、胴部には縦位の沈線文に横位の刻み目を施す。内外面煤付着。 | 1/3 |
| | 150 | X11Y13<br>X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢底部 | | | 13.2 | | 中期中葉以降の底部。底辺にスダレ状圧痕及び熊斧状圧痕。内外面煤付着。 | 底 1/3 |
| | 151 | X10Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 幾何学文様を施し、沈線区画内に貝殻腹縁文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 152 | X13Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 39.3 | | | 串田新式 | □縁部に貝殻腹縁文を施し、頸部に沈線文を施す。 | 破片 |
| | 153 | X12Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | 27.6 | | | 中期 | 粗製。施文はなく、表面全面に煤が付着している。 | 口 1/6 |
| | 154 | X14Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | □縁部はナデによる無文帯を形成し、以下はLRの全面斜縄文を施す。表面全面に煤が付着している。 | 破片 |
| | 155 | X11Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 全面RLの斜縄文。 | 破片 |
| | 156 | X14Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | □縁部に半隆起線文、頸部以下はRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 157 | X13Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | □縁部折り返しによる肥大化。RLの全面縄文。 | 破片 |
| | 158 | X14Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 全面RLの斜縄文。内面煤付着。 | 破片 |
| | 159 | X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | □縁部に貼付隆帯を施し、全面LRの斜縄文。 | 破片 |
| | 160 | X14Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | □縁部に貼付により無文、その下はRLの全面斜縄文。 | 破片 |
| | 161 | X13Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | □縁部に貼付により無文、その下はRLの全面斜縄文。 | 破片 |
| | 162 | X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | □縁部に貼付隆帯を施し、縄文と短沈線文で構成。外面煤付着。 | 破片 |
| | 163 | X10Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 細線文で文様構成。 | 破片 |
| | 164 | X13Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | □縁部無文帯で、頸部以下細沈線文を縦位に施す。 | 破片 |
| | 165 | X12Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 縦位に貼付隆帯を施し、その間に細沈線文を施す。 | 破片 |
| | 166 | X10Y14 | 縄文土器 | 底部 | | | 9.4 | 串田新式 | 貼付隆帯、底辺に網代圧痕文。 | 破片 |
| | 167 | X12Y15 | 縄文土器 | 深鉢底部 | | | 10.1 | 串田新式 | 貼付隆帯を底辺なぞって施す。内外面煤付着。 | 底 完存 |
| 22図 | 168 | X11Y14 | 縄文土器 | 浅鉢 | 30.4 | | | 串田新式以降 | □縁部を内湾させ、2列の連続刺突文を施す。 | 口 1/8 |
| | 169 | X13Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | 33.2 | | | 前田式 | 頸部に沈線文、沈線文区画内に連続刺突文を施す。 | 破片 |
| | 170 | X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | (33.3) | | | 前田式 | 沈線文区画内に連続刺突文を施す。 | 破片 |
| | 171 | X11Y13<br>X11Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | 16.6 | | | 前田式～気屋式 | 頸部に押引文を2条、胴部はRLの縦位の縄文を施す。 | 口 1/4 |
| | 172 | X14Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | 18.5 | | | 前田式～気屋式 | □縁部無文帯で、頸部に蛇行沈線文を施す。胴部はRLの縦位縄文。内外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 173 | X12Y12<br>X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 21.5 | | | 前田式～気屋式 | □縁部無文帯で、頸部から胴部にかけて沈線文、蛇行沈線文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 174 | X14Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 頸部に蛇行沈線文、胴部は縦位のRL縄文を施す。 | 破片 |
| | 175 | X14Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | 23.3 | | | 前田式～気屋式 | 頸部に貫通孔を穿孔し、沈線文を施す。 | 口 1/12 |
| | 176 | X9Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | 30.3 | | | 前田式～気屋式 | □唇部に粘土を貼り付けることにより肥厚化させる。□縁部は無文帯で、頸部は刻みを施す。 | 口 1/12 |
| | 177 | X11Y12<br>X11Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 29.9 | | | 気屋式 | □縁部はRLの斜縄文、頸部に区画線となる押引文を2条施し、胴部は縦位のRL縄文を施す。 | 口 1/4 |
| | 178 | X14Y16 | 縄文土器 | 鉢か | | | | 気屋式以降 | □縁部はナデによる無文帯、頸部の隆帯上に刺突、胴部は縄文を施す。後期中葉の可能性有り。 | 破片 |
| | 179 | X14Y10 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 酒見式？ | 多条沈線文を施し、沈線区画内に刺突文を施す。胴部はRL縄文を施す。 | 破片 |
| | 180 | X10Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式以降 | □縁部無文帯で、隆帯上にLRの斜縄文、やや幅広な沈線文内部に連続列点文を施す。 | 破片 |
| | 181 | X11Y13<br>X12Y14 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 気屋式以降 | 頸部にやや幅広な沈線文を施し、その区画内に角状列点文を施す。 | 破片 |
| | 182 | X12Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | □縁部無文帯で、貼付隆帯上にLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 183 | X10Y15 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 気屋式 | □唇端部にRLの縄文を押圧し、□縁部及び頸部に押し引き列点文を施す。胴部は口唇部の原体とは異なる縦位のRL縄文を施す。 | 破片 |
| | 184 | X10Y15 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 前田式～気屋式 | 山形口縁部の波頂部。沈線文が主体。 | 破片 |
| | 185 | X11Y15<br>X12Y15 | 縄文土器 | 深鉢か | 27.3 | | | 気屋式以降 | □縁部無文で、頸部にやや幅広な沈線文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 186 | X10Y13 | 縄文土器 | 鉢 | 16.4 | | | 気屋式以降 | 施文無し。 | 破片 |
| | 187 | X11Y14 | 縄文土器 | 浅鉢 | | | | 前田式 | 貼付把手。 | 破片 |
| | 188 | X12Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 31.8 | | | 気屋式 | □縁部にRLの斜縄文、頸部に3列の押引文を施し、胴部は縦位のRL縄文を施す。 | 破片 |

□：□縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径<br>長さ | 器高<br>幅 | 底径<br>厚さ | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 22図 | 189 | X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 28.5 | | | 気屋式 | 4単位の山形口縁。口縁部から頸部にかけて三角押引文を施し、胴部は縦位の縄文。外面煤付着。 | 口 1/5 |
| | 190 | X11Y13<br>X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部・頸部に2列の三角刺突文を施し、胴部は縦位のLR縄文を施す。 | 破片 |
| | 191 | X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部に連続三角刺突文を施す。表面の波頂部に押圧をおこなう。 | 破片 |
| | 192 | X12Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口唇部及び口縁部、頸部に三角押引文を施す。 | 破片 |
| | 193 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口唇端部にRLの縄文を施し、口縁部・頸部には三角押引文を施す。 | 破片 |
| | 194 | X13Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部に連続三角刺突文を施す。 | 破片 |
| | 195 | X13Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | 30.2 | | | 晩期？ | 晩期の粗製か。磨滅が著しいが、施文はない。 | 口 1/12 |
| | 196 | X10Y13 | 縄文土器 | 浅鉢 | 19.9 | | | 気屋式 | 口縁部に半隆起線文、その脇に沈線文を施す。 | 破片 |
| | 197 | X10Y13 | 縄文土器 | 鉢 | 29.5 | | | 気屋式 | 口縁部に半隆起線文、胴部は無文。 | LI 1/6 |
| | 198 | X Y11 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 気屋式 | 口縁部に沈線文を施し、胴部はRLの斜縄文。内外面煤付着。 | 破片 |
| | 199 | X10Y14<br>X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口唇部はRLの斜縄文、胴部は縦位のRLの斜縄文。 | 破片 |
| | 200 | X10Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式並行 | 沈線区画内にLRの斜縄文。渦巻状に隆帯を貼り付け。 | 破片 |
| | 201 | X13Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 紫脈状文。 | 破片 |
| | 202 | X13Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 細沈線文。 | 破片 |
| | 203 | X12Y15 | 縄文土器 | 底部 | | | 9.2 | | 胴部に施文なく、底辺に網代圧痕。 | 底 完存 |
| | 204 | X14Y18 | 縄文土器 | 底部 | | | 12.2 | | 胴部に施文なく、底辺に網代圧痕。 | 底 3/4 |
| | 205 | X10Y13 | 縄文土器 | 底部 | | | 7.5 | | 胴部にRLの斜縄文を施し、底辺に網代圧痕。 | 底 完存 |
| | 206 | X10Y13 | 縄文土器 | 底部 | | | 8.0 | | 胴部にRLの斜縄文を施し、底辺に網代圧痕。内面煤付着。 | 底 完存 |
| | 207 | X14Y16 | 縄文土器 | 土製円盤 | 4.5 | 5.0 | 0.9 | | 表面に漆を塗布。 | 完形 |
| | 208 | X13Y19 | 縄文土器 | 土器片錘 | | 5.5 | 0.8 | | 切り目あり。 | |
| 23図 | 209 | X12Y15<br>X13Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部無文帯で、区画線の沈線文を施す。胴部はLRの斜縄文。 | 破片 |
| | 210 | X13Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | 29.8 | | | 気屋式並行 | 口縁部を内湾させ、頸部に刻み目を施す。内面煤付着。 | LI 1/12 |
| | 211 | X13Y10 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部はナデによる無文帯で、胴部はLRの斜縄文。 | 破片 |
| | 212 | X14Y20 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部は半隆起線文で、胴部はRLの斜縄文。 | 破片 |
| | 213 | X14Y13 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 気屋式並行 | 全面LRの斜縄文。 | 破片 |
| | 214 | X13Y19 | 縄文土器 | 鉢 | 34.8 | | | 新崎式以降 | 口縁部をやや肥大化させ、面取りをおこなう。胴部は無文。気屋式の可能性有り。 | 破片 |
| | 215 | X13Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式以降 | 口縁部を折り曲げることにより肥厚化し、胴部はLRの斜縄文。内外面煤付着。 | 破片 |
| | 216 | X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁部を肥厚化し、半隆起線文をLI縁部に施す。胴部は無文。 | 破片 |
| | 217 | X13Y19 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 多条半隆起線文を施し、渦巻状隆起線文上に刻み目を施す。 | 破片 |
| | 218 | X13Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | 33.6 | | | 上山田・天神山式 | 口唇端部に刻み目を施し、多条半隆起線文、縦位の半隆起線文上に刻み目を施し、区画内にヘラ描き沈線を施す。内外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 219 | X13Y15 | 縄文土器 | 土製円盤 | 6.3 | 5.8 | 1.0 | | 全面RLの斜縄文。穂修孔あり。外面煤付着。 | |
| | 220 | X11Y12 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 前田式～気屋式 | 沈線区画内に列点文を施す。 | 破片 |
| | 221 | X14Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 217と同時期、同一個体の可能性有り。 | 破片 |
| | 222 | X12Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 頸部に押引文、胴部は細沈線文を施す。内面煤付着。 | 破片 |
| | 223 | X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 222と同様、胴部に細沈線文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 224 | X13Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部を肥厚化し、刻み目を施し、頸部に沈線文を施す。 | 破片 |
| | 225 | X13Y14 | 縄文土器 | 底部 | | | | 気屋式 | 細沈線文を施す。底辺には網代圧痕。 | 破片 |
| | 226 | X12Y14<br>X13Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 24.0 | | | 前田式 | 口縁部及び頸部に沈線文を施し、その間に3列の押引文を施す。胴部は縦位のRL縄文。 | 口 1/8 |
| | 227 | X13Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 口縁部に半隆起線文、裏面も同様、半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 228 | X13Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 頸部に平行沈線文及び鋸行沈線文を施す。 | 破片 |
| | 229 | X13Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 隆帯上にLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 230 | X13Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 頸部に平行沈線文および鋸行沈線文を施し、胴部はRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| 24図 | 231 | X11Y21 | 石器 | 敲石 | 9.7 | 8.7 | 4.3 | | 側面全体使用痕。重量 458g | 完形 |
| | 232 | X10Y14 | 縄文土器 | 土器片錘 | 8.5 | 6.7 | 0.8 | | 切り目あり。 | 2/3 |
| | 233 | X13Y16<br>X13Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | 22.2 | | | 新崎式 | 口縁部及び頸部に多条半隆起線文を施す。おそらく4単位の貼付隆帯を施す。 | 破片 |
| | 234 | X10Y20<br>X13Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁端部に刻み、また列突文を施し、頸部から胴部にかけては平行沈線文、蕨状沈線文を施す。胴部の沈線文内には刻みを施す。 | 破片 |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径<br>長さ | 器高<br>幅 | 底径<br>厚さ | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 24図 | 235 | X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 29.7 | | | 前田式～気屋式 | 口縁部から頸部にかけて押引文を満状に施す。 | 破片 |
| | 236 | X10Y14<br>X10Y15<br>X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 28.2 | | | 串田新式 | 口縁部は波頂部を二つに分ける双頭波状口縁で、口縁部に沈線文、その内部に現沈線文を施す。胴部は業縁状文を施す。内外面煤付着。 | 口 1/3 |
| | 237 | X12Y14<br>X13Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 4単位の先窄れ山形口縁。口縁部は隆帯区画内に縦位の短沈線を施し、胴部は業縁状文を施す。 | 口 1/5 |
| | 238 | X10Y13<br>X10Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | 22.0 | | | 串田新式 | 4単位の山形口縁。口縁部に2条の押引文を施し、胴部は縦位のRL縄文。外面煤付着。 | 口 1/4 |
| | 239 | X11Y15<br>X11Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | 25.7 | | | 串田新式<br>～前田式 | 口縁部は無文帯で、頸部に多条の沈線文を施す。胴部はLRの斜縄文。 | 口 1/4 |
| | 240 | X11Y15<br>X12Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | 30.2 | | | 串田新式 | 口縁部無文帯で、頸部に隆帯を巡らし、胴部は縦位の多条沈線文を施す。 | 口 1/12 |
| | 241 | X10Y12<br>X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 36.6 | | | 串田新式<br>～前田式 | やや肥厚させた口縁部に刺み目を2列施し、胴部はLRの斜縄文を施す。 | 口 1/6 |
| | 242 | X11Y15<br>X12Y17<br>X16Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | 35.7 | | | 前田式 | 口縁部の沈線区画内に2列の列点文、同じく頸部にも同様の文様帯を成形。胴部は縦位のLR縄文。口縁部と頸部の文様帯は絡行沈線文で結合される。 | 口 1/12 |
| | 243 | X11Y15<br>X12Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 頸部に多条の沈線文及び絡行沈線文。胴部は縦位のLR縄文。 | 破片 |
| 25図 | 244 | X11Y15 | 縄文土器 | 浅鉢 | 40.6 | | | 前田式～気屋式 | 口縁部に平行及び満状沈線文。外面煤付着。 | 口 1/6 |
| | 245 | X11Y15<br>X11Y14 | 縄文土器 | 浅鉢 | 32.6 | | | 前田式～気屋式 | 口縁部に連続押引文。渦巻状押引文。 | 破片 |
| | 246 | X13Y16 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 前田式 | 平行沈線文内に列点文。RLの斜縄文。 | 破片 |
| | 247 | X10Y13<br>X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 22.6 | | | 気屋式 | 口縁部無文帯で頸部の隆帯上に刻み。胴部はRLの縦走縄文。外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 248 | X8Y15<br>X10Y14 | 縄文土器 | 浅鉢 | 33.4 | | | 前田式<br>～気屋式？ | 口縁部に爪形文、2条の沈線で区画し、胴部はRLの斜縄文。口縁部表にはRLの斜縄文を施す。 | 口 1/8 |
| | 249 | X12Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 31.2 | | | 気屋式 | 口縁部に三角押引文。胴部はRLの縦走縄文。 | 口 1/6 |
| | 250 | X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 29.6 | | | 後期前葉 | 口縁部をやや肥厚させLRの斜縄文を施す。J字文の隆帯。内外面煤付着。 | 破片 |
| | 251 | X9Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 23.6 | | | 気屋式 | 頸部に三角押引文。胴部に縦走縄文。外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 252 | X12Y17 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 気屋式 | 口縁部にRLの斜縄文、頸部に三角押引文を施す。 | 破片 |
| | 253 | X13Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | 14.6 | | | 新崎式 | 口縁部に平隆起線文。胴部は無文。 | 口 1/3 |
| | 254 | X13Y13<br>X14Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁部を粗曲させ、頸部にやや幅広な平隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 255 | X13Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期後葉 | 口縁端部を肥厚化し、やや浅めの平隆起線文を口縁部に施す。 | 破片 |
| | 256 | X10Y15<br>X11Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | 33.6 | | | 気屋式 | 口縁部に三角押引文を施し、胴部は縦走縄文。外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 257 | X11Y13<br>X11Y14<br>X11Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | 31.0 | | | 気屋式 | 口縁端部に刺突を施し、口縁部にRLの斜縄文、頸部に三角押引文を施し、胴部はLRの縦走縄文を施す。外面煤付着。 | 口 1/6 |
| | 258 | X12Y14<br>X13Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 37.5 | | | 後期前葉 | 口縁部に無文帯で、頸部に2条の沈線文、胴部はRLの斜縄文を施す。 | 口 1/5 |
| | 259 | X10Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | 13.7 | | | 後期前葉 | 258と同様の縄文を施す。 | 口 1/4 |
| | 260 | X11Y21 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 上山田・<br>天神山式以降 | 頸部を境とした羽状縄文を施す。 | 破片 |
| | 261 | X10Y11<br>X11Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | 35.0 | | | 中期後葉 | 口縁部無文帯で頸部の隆帯上にRLの斜縄文を施し、頸部もRLの斜縄文を施す。 | 口 1/4 |
| | 262 | X10Y14<br>X13Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・<br>天神山式以降 | 頸部を境とし、羽状縄文を施す。 | 破片 |
| | 263 | X14Y13<br>X14Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期後葉以降 | 全面斜縄文。外面煤付着。 | 破片 |
| | 264 | X14Y19 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式期 | RLの縦走縄文。 | 破片 |
| | 265 | X13Y13 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 気屋式以降 | 口縁部に貼付隆帯、胴部はLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 266 | X9Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期後葉以降 | 全面RL斜縄文。 | 破片 |
| 26図 | 267 | X9Y11<br>X11Y15<br>X11Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | 24.5 | | | 早期末葉から<br>前期初頭 | 口縁端部に半截竹管による刺突、口縁部に爪形文、胴部には半截竹管による刺突を施す。全面に厚く煤が付着。南太閤山遺跡における第1類土器に相当。 | 口 2/3 |
| | 268 | X12Y12<br>X13Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | (36.3) | | | 前田式～気屋式 | 平行沈線文、絡行沈線文を口縁部から頸部にかけて施し、胴部は縦走縄文を施す。 | 口 1/4 |
| | 269 | X11Y12<br>X12Y12 | 縄文土器 | 鉢 | 27.4 | | | 中期後葉<br>～後期前葉 | 口縁部に半隆起線文上に刻みを施す。外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 270 | X10Y13<br>X11Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | 30.0 | | | 串田新式 | 隆帯上に貝殻腹縁による刺突、列点文、沈線文を施す。内面煤付着。 | 口 1/4 |
| | 271 | X11Y14<br>X12Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 27.5 | | | 気屋式 | 口縁部にRLの斜縄文を押圧、頸部に沈線文もしくは三角押引文、胴部はLRの縦走縄文を施す。内面口縁部付近に厚く煤が付着。 | 口 1/5 |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径【長さ】 | 器高【幅】 | 底径【厚さ】 | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 26図 | 272 | X13Y10 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 気屋式 | 胴部に押引文を施す。 | 破片 |
| | 273 | X11Y13<br>X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 34.2 | | | 気屋式 | 口縁部に2連の三角刺突文、胴部はRLの縦走縄文を施す。 | □ 1/3 |
| | 274 | X11Y12<br>X11Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 口縁部に貝殻腹縁文、沈線区画内に列点文、裏面は波頂部に渦巻状沈線文を施す。270と同一個体の可能性有り。外面煤付着。 | 破片 |
| | 275 | X11Y13<br>X11Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | 33.3 | | | 串田新式 | 口縁部に半隆起線文を施し、短沈線文を充填させる。外面煤付着。 | □ 1/6 |
| | 276 | X12Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | 28.6 | | | 気屋式 | 口縁部に斜縄文、頸部に2条の押引文を施す。胴部は縦走縄文。 | □ 1/6 |
| 27図 | 277 | X11Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | 35.0 | | | 上山田・天神山式 | 口縁部に1単位の貼付隆帯。口縁部はやや肥厚させ、全面LRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 278 | X8Y13<br>X9Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 25.0 | | | 中期後葉<br>～後期前葉 | 全面RLの斜縄文を施す。内外面煤付着。 | □ 1/4 |
| | 279 | X9Y15<br>X10Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | 35.8 | | | 上山田・天神山式 | 口唇部に波頂部を波形し、刻み目を施す。外面全面羽状縄文を施す。 | □ 1/4 |
| | 280 | X8Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 後期中葉 | 全面羽状縄文、頸部に隆帯上刻み目を施す。 | 破片 |
| | 281 | X10Y13 | 縄文土器 | 底部 | | | 10.1 | | 底文はナデ消されているが、縄文か。 | 底 3/4 |
| | 282 | X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 後期中葉 | 沈線文、磨消縄文を施す。 | 破片 |
| | 283 | X11Y13<br>X11Y14 | 縄文土器 | 浅鉢 | 28.6 | | | 気屋式期 | 口唇部に縄文を施す。外面は、ナデ消されているが、底部付近にRLの縦走縄文。外面煤付着。 | 1/2 |
| | 284 | X11Y12<br>X11Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 41.3 | | | 後期中葉 | 口縁部は無文帯で、頸部にやや幅広の沈線文上に刻み目を施す。胴部は縦方向の櫛描き条線。 | □～体 1/2 |
| | 285 | X11Y13 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 後期中葉 | 口縁部は無文帯、胴部に縦方向の櫛描き条線を施す。 | 破片 |
| | 286 | X11Y13 | 縄文土器 | 底部 | | | | | 胴部は櫛描き条線、底辺に圧痕文を施す。 | 破片 |
| 28図 | 287 | X10Y13 | 縄文土器 | 浅鉢 | 21.6 | | | 上山田・天神山式 | 口縁部に波頂部を波形。外面施文無し。内外面煤付着。 | □～体 1/2 |
| | 288 | X12Y18 | 縄文土器 | 底部 | | | 11.0 | | 胴部はLRの斜縄文、底辺は網代圧痕。 | 底 ほぼ完存 |
| | 289 | X11Y16 | 縄文土器 | 底部 | | | 12.0 | | 胴部は縦走ヘラの羽状縄文、底辺は圧痕。 | 底 1/5 |
| | 290 | X12Y19 | 縄文土器 | 底部 | | | 9.8 | | 胴部にRLの縦走縄文。 | 破片 |
| | 291 | X11Y15<br>X19Y14 | 縄文土器 | 底部 | | | 13.4 | | 胴部はRLの縦走縄文、底辺は葉脈状圧痕。内面煤付着。 | 底 完存 |
| | 292 | X14Y14<br>X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 複合口縁を成形し、口縁部から胴部にかけて半隆起線文で囲め、半隆起線文上には刻み目を施す。 | □ 1/5 |
| | 293 | X10Y13<br>X11Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 垂下させる沈線文、平行沈線文区画内に蛇行沈線文を施す。 | 破片 |
| | 294 | X12Y15<br>X13Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | 33.6 | | | 前田式 | 口縁部に短沈線文、頸部に隆起線文、胴部は沈線文を施す。内外面煤付着。 | □ 1/8 |
| | 295 | X13Y14<br>X13Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | 27.0 | | | 前田式 | 口縁部無文帯で、頸部は平行沈線文区画内に横位の列点文、胴部はLRの全面斜縄文を施す。 | □ 1/4 |
| | 296 | X14Y13 | 縄文土器 | 鉢 | 30.3 | | | 後期前葉 | 外面施文無し。内面口縁部付近に指押さえ。 | □ 2/3 |
| | 297 | X12Y19<br>X12Y20<br>X13Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | 29.6 | | | 気屋式 | 口縁端部に縄文を押圧し、口縁部から胴部にかけてRLの縦走縄文を施す。頸部は2条の沈線文を施す。外面煤付着。 | □ 1/4 |
| | 298 | X12Y19<br>X12Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | 23.6 | | | 前田式～気屋式 | 4単位の山形口縁、口縁部及び頸部に蛇行沈線文、胴部はRLの縦走縄文を施す。外面煤付着。 | □ 1/5 |
| | 299 | X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文内に刻み目を施す。 | 破片 |
| | 300 | X14Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式？ | 縦に半隆起線文、その内部に格子目文を施す。 | 破片 |
| | 301 | X13Y11 | 縄文土器 | 底部 | | | 6.8 | | 施文無し。 | 底 ほぼ完存 |
| | 302 | X12Y13 | 縄文土器 | 底部 | | | 10.0 | | 全面にLRの斜縄文を施す。内外面煤付着。 | 底 1/2 |
| 29図 | 303 | X14Y21 | 石器 | 石錘 | 10.7 | 7.5 | 3.4 | | 重量 379g | 完形 |
| | 304 | X11Y11 | 石器 | 石錘 | 3.8 | 3.0 | 1.0 | | 重量 23g 粘板岩 | 完形 |
| | 305 | X11Y14 | 縄文土器 | 土器片錘 | 7.3 | 6.4 | 0.9 | | | 完形 |
| | 306 | X14Y15 | 縄文土器 | 土器片錘 | 6.2 | 7.6 | 0.9 | | | 完形 |
| | 307 | X12Y13 | 縄文土器 | 土器片錘 | 9.0 | 5.8 | 1.2 | | 気屋式期の土器片を利用。 | 完形 |
| | 308 | X14Y21 | 縄文土器 | 土器片錘 | 6.2 | | 0.7 | | 中期後葉の土器片を利用。 | 完形 |
| | 309 | X12Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 頸部に2条の押引文を施す。 | 破片 |
| | 310 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 頸部は無文帯で胴部は横位の沈線区画内に押引文を施し、横位の撚糸文を施す。蕨状の貼付隆帯。 | 破片 |
| | 311 | X10Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 口縁部に横位の半隆起線文、頸部には縦位の半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 312 | X10Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁端部に貼付隆帯、その上に刻み目を施す。胴部はRLの斜縄文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 313 | X11Y21<br>X14Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁端部をやや肥厚させるが、LRの斜縄文以外施文無し。 | 破片 |
| | 314 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | RLの斜縄文を全面に施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 315 | X12Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | LRの斜縄文を全面に施す。 | 破片 |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径・器高・底径<br>長さ・幅・厚さ | | | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 29図 | 316 | X12Y10 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁端部に貼付隆帯を施すが、口縁部はRLの沈線文を施す。内外面煤付着。 | 破片 |
| | 317 | X14Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | 39.2 | | | 新崎式 | 口縁端部をやや肥厚させ刻み目を施す。口縁部には多条の半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 318 | X14Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | 15.4 | | | 新崎式<br>～上山田・天神山式 | 口縁端部に刻み目、口縁部に半隆起線文を施し、半隆起線文内にLRの斜縄文を充填する。 | 口 1/4 |
| | 319 | X12Y15 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 新崎式 | 口縁端部に刻み目、口縁部に多条半隆起線文を施し、縦位に貼付隆帯を施す。 | 破片 |
| | 320 | X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁部をやや肥厚させ、端部に刻み目を施す。多条半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 321 | X12Y10 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁端部に刻み目を施し、半隆起線文、半隆起線文上に刻み目を施す。 | 破片 |
| | 322 | X10Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式以降 | 口縁部にはナデにより無文帯を形成し、胴部はRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 323 | X7Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 佐波・楢葉寺式 | 斜方向の平行条痕文、その間に刻みを施す。 | 破片 |
| | 324 | X14Y23 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 新崎式<br>～上山田・天神山式 | 口縁部及び頸部に半隆起線文、その間にLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 325 | X12Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | RLの斜縄文を施した後、縦方向の沈線文を施す。貼付隆帯。 | 破片 |
| | 326 | X14Y24 | 縄文土器 | 底部 | | | 7.2 | 上山田・天神山式 | 縦方向に半隆起線文を施す。 | 底面は完存 |
| | 327 | X14Y23 | 縄文土器 | 底部 | | | 7.4 | 新保式 | 縄文地に多条半隆起線文を施す。 | 底 完存 |
| | 328 | X10Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式以降 | 口縁部にナデによる無文帯、頸部に区画を意味する隆帯を施し、胴部はLRの斜縄文。口縁端部裏面に刻みを施す。 | 破片 |
| | 329 | X12Y14 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 気屋式期 | 口縁部ナデによる無文帯、胴部はRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 330 | X10Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式以降 | 口縁部に粘土貼り付けによる無文帯を成形し、胴部はRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 331 | X14Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 半截竹管による刻みを施し、半隆起線文、LRの斜縄文を施す。貼付隆帯。 | 破片 |
| | 332 | X11Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口縁端部をやや肥厚化し、口縁部に半隆起線文を施す。胴部はLRの斜縄文。 | 破片 |
| | 333 | X11Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 胴部に半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 334 | X9Y19<br>X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 37.4 | | | 前田式～気屋式 | 口縁部に絡行沈線文を2条施す。胴部は縦位縄文。 | 口 1/6 |
| | 335 | X12Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口縁部をやや肥厚化し、貼付隆帯及び刻み目を施す。 | 破片 |
| | 336 | X9Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式期 | 口縁部に多条半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 337 | X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 縦位の平行沈線文、その間に屈位の斜沈線文を施す。 | 破片 |
| | 338 | X10Y3 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 縦位の平行沈線文、その間に屈位の斜沈線文を施す。 | 破片 |
| | 339 | X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 口縁部に横位の沈線文を施す。内外面煤付着。 | 破片 |
| | 340 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 口縁部から頸部にかけて沈線文。 | 破片 |
| | 341 | X12Y10 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 鋤巻状の半隆起線文、その半隆起線文上に刻み目を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 342 | X10Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 縦位の平行沈線文内に簾状の斜沈線文を施す。 | 破片 |
| | 343 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 22.8 | | | 気屋式 | 口縁端部をやや肥厚化し、口縁部及び頸部に沈線文を施す。 | 口 1/8 |
| | 344 | X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 半隆起線文上に貝殻腹縁による刺突を施す。表面には半隆起線文。 | 破片 |
| | 345 | X12Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 胴部にやや節の大きな縄文、沈線文を施す。 | 破片 |
| | 346 | X9Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 10.1 | | | 気屋式以降 | 施文無し。 | 破片 |
| | 347 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式以降 | 口縁部を肥厚化し、半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 348 | X8Y12<br>X10Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | 32.8 | | | 前田式 | 口縁部は無文帯、頸部の平行沈線文内に押し引き列点文、胴部はLRの縄文を施す。外面煤付着。 | 口 1/5 |
| | 349 | X9Y15<br>X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 23.6 | | | 前田式 | 口縁部及び頸部に半隆起線文、胴部に縦位の縄文を施す。 | 口 1/8 |
| 30図 | 350 | X12Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | 27.5 | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 破片 |
| | 351 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 破片 |
| | 352 | X12Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 破片 |
| | 353 | X14Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 354 | X12Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 破片 |
| | 355 | X14Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 破片 |
| | 356 | X10Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 破片 |
| | 357 | X10Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | 29.6 | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 口 1/4 |
| | 358 | X10Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 破片 |
| | 359 | X12Y10 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 破片 |
| | 360 | X10Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 破片 |
| | 361 | X14Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | 32.4 | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 口 1/5 |
| | 362 | X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 破片 |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径 長さ | 器高 幅 | 底径 厚さ | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 30図 | 363 | X14Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 破片 |
| | 364 | X14Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。 | 破片 |
| | 365 | X10Y16<br>X10Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | 28.3 | | | 気屋式 | 半隆起線文や三角押引文、縦位の縄文を施す。<br>外面煤付着。 | 口 1/6 |
| | 366 | X10Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 口縁部及び頸部に蛇行沈線文を施す。 | 破片 |
| | 367 | X9Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口縁部無文帯で頸部に平行沈線文を施す。 | 破片 |
| | 368 | X12Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部の半隆起線文上にRLの斜縄文を施す。<br>外面煤付着。 | 破片 |
| | 369 | X9Y13<br>X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 25.6 | | | 気屋式 | 口縁部をやや肥厚化し、RLの斜縄文を施す。頸部は無文帯で胴部はRLの縦位の縄文を施す。 | 口 1/3 |
| | 370 | X12Y21 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部及び口縁端部に縄文、頸部に垂行沈施文を施す。 | 破片 |
| | 371 | X14Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部にLRの斜縄文、その下は三角押引文、胴部はLRの斜縄文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 372 | X9Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 井口式 | 口縁端部に刻み目、口縁部に2連の押引文を施す。2巡の刺突を施す。 | 破片 |
| | 373 | X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 後期 | 口縁部は無文帯で頸部に区画の沈線文、胴部は縦位の条線を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 374 | X10Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 後期 | 縦位の条線の他に施文はなし。補修孔あり。 | 破片 |
| | 375 | X10Y14 | 縄文土器 | 底部 | | | 7.8 | 前期 | 朝日C式期の底部。底部近辺及びその最近に刻み目を施す。 | 底 1/5 |
| | 376 | X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 八日市新保式 | 口縁部に貼付隆帯、RLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 377 | X12Y20 | 縄文土器 | 底部 | | | | 前田式以降 | 胴部に多条の条線を施す。 | 破片 |
| | 378 | X14Y21 | 縄文土器 | 底部 | | | 7.8 | 後期 | 胴部は縦位のRLの縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 完存 |
| | 379 | X8Y12 | 縄文土器 | 底部 | | | 13.2 | 中期中葉以降 | 胴部はRLの縦位縄文を施し、底辺には洞察痕が残存する。 | 底 完存 |
| | 380 | X10Y15 | 縄文土器 | 底部 | | | 11.6 | 後期 | 胴部は底部周辺まで縦位の縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。内外面煤付着。 | 底 ほぼ完存 |
| | 381 | X9Y13<br>X10Y13 | 縄文土器 | 底部 | | | 8.0 | 後期 | 底部周辺までRLの斜縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 完存 |
| | 382 | X14Y20<br>X14Y21 | 縄文土器 | 底部 | | | 6.8 | 後期 | 底部周辺までRLの縦位縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 ほぼ完存 |
| | 383 | X14Y21 | 縄文土器 | 底部 | | | 8.4 | 後期 | 底部周辺までRLの縦位縄文を施し、底部には網代圧痕が残存する。 | 底 3/4 |
| | 384 | X13Y12 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 中期後葉以降 | 全面LRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 385 | X10Y16 | 縄文土器 | 底部 | | | 7.0 | | 施文無し。 | 底 ほぼ完存 |
| | 386 | X25Y12 | 縄文土器 | 底部 | | | | | 施文無し。 | 破片 |
| | 387 | X13Y11 | 縄文土器 | 土偶 | | | | | 板状土偶の脚部か。 | |
| | 388 | X10Y14 | 縄文土器 | 土製品か | | | | | 串田新式期の粘土貼付部分か。 | |
| 31図 | 389 | X13Y14 | 縄文土器 | 土器片錘 | 9.7 | 6.9 | 0.6 | | | 完形 |
| | 390 | X9Y13<br>X9Y17 | 縄文土器 | 鉢 | 12.6 | | | 北白川下層Ib式 | 口唇部に刻み目、口縁部から胴部にかけて渡縄文C字爪形文を施す。内外面煤付着。 | 口 1/3 |
| | 391 | X9Y14<br>X10Y13<br>X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 30.8 | | | 新崎式 | 口縁端部に刻み目、口縁部及び頸部に半隆起線文を施す。頸部から胴部にかけて貼付隆帯を垂下させ、縦位の沈線文を施す。胴部はやや節の大きなLRの斜縄文を施す。 | 口 1/4 |
| | 392 | X14Y22<br>X14Y23<br>X14Y27 | 縄文土器 | 深鉢 | 31.3 | | | 新保式 | 口端部に半隆起線文、口縁部には縄文地に縦位の沈線文を施す。頸部は半隆起線文。口端部と頸部を連結させる貼付隆帯を施す。 | 口 1/3 |
| | 393 | X10Y14<br>X10Y15<br>X10Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | 20.6 | | 11.5 | 新保式 | 口縁部に半隆起線文、頸部から胴部を連結させる半隆起線文、胴部との区画線を意味する半隆起線文を施す。胴部から底部周辺にかけては撚糸圧痕文。内外面煤付着。 | 1/3 |
| | 394 | X10Y16<br>X11Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 頸部に幾何学的な多条沈線文を施す。胴部はRLの斜縄文。 | 破片 |
| | 395 | X10Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 縄文地に縦位の沈線文を施す。 | 破片 |
| | 396 | X11Y16<br>X12Y19 | 縄文土器 | 深鉢 | 32.5 | | | 前田式～気屋式 | 口縁部及び頸部に沈線文を施す。内面煤付着。 | 破片 |
| | 397 | X11Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | 29.8 | | | 前田式～気屋式 | 頸部から胴部にかけて沈線文を施す。 | 破片 |
| | 398 | X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 25.9 | | | 気屋式 | 口縁部に2条の沈線文を施す。 | 1/8 |
| | 399 | X10Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 貼付隆帯及び楕円状文を施す。 | 破片 |
| | 400 | X14Y21 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 楕円状の沈線文を施す。 | 破片 |
| | 401 | X11Y19 | 縄文土器 | 深鉢 | 21.7 | | | 前田式 | 頸部に沈線文を2条、その間に列点文を施す。 | 口 1/4 |
| | 402 | X9Y13<br>X14Y20 | 縄文土器 | 鉢 | 37.8 | | | 気屋式 | 口端部をやや肥厚化し、LRの斜縄文を施す。口縁部は無文帯で、頸部に押引文を施す。 | 口 1/8 |
| | 403 | X8Y13<br>X9Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 22.6 | | | 佐波・極楽寺式 | 斜方向の平行条痕文、その間に刻みを施す。<br>内外面煤付着。 | 口 1/5 |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径（長さ） | 器高（幅） | 底径（厚さ） | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 32図 | 404 | X13Y11<br>X14Y10 | 縄文土器 | 深鉢 | (37.3) | | | 新崎式 | 口端部をやや肥厚させ、刻みを施す。頸部に半隆起線文、口縁部との間を粘土貼り付けや連華文を施す。胴部はRLの斜縄文。口縁部に突起を貼り付ける。 | 口 1/4 |
| | 405 | X10Y13<br>X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部をやや屈曲させ、RLの斜縄文を施し、頸部には三角押引文、胴部はLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 406 | X14Y23<br>X14Y27 | 縄文土器 | 深鉢 | 28.6 | | | 気屋式 | 頸部に三角押引文、胴部はRLの縦走縄文を施す。 | 口 1/4 |
| | 407 | X11Y14 | 縄文土器 | 鉢 | 14.0 | | | 中期中葉以降 | 全面LRの斜縄文。表裏面とも煤付着。 | 口 1/4 |
| | 408 | X9Y11<br>X10Y13<br>X10Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | 14.0 | | | 新保式 | 口唇部をやや肥厚させ1単位の突起を貼り付ける。その突起の下の口縁部に粘土貼付をおこなう。その他はRLの斜縄文を施文。 | 口 1/2 |
| | 409 | X10Y16<br>X11Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 28.4 | | | 新崎式 | 全面羽状縄文を施す。内外面煤付着。 | 口~体 1/4 |
| | 410 | X10Y14 | 縄文土器 | 鉢 | 13.8 | | | 新崎式 | 全面LRの斜縄文を施す。内面煤付着。 | 口 1/4 |
| | 411 | X10Y15<br>X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口唇部、口縁部、胴部にLRの斜縄文、頸部にはナデによる無文帯を成形する。外面煤付着。 | 破片 |
| | 412 | X11Y16<br>X11Y19 | 縄文土器 | 深鉢 | 25.6 | | | 気屋式期 | 口縁部半隆起線を施し、やや肥厚化させる。胴部はRLの斜縄文。 | 口 1/4 |
| | 413 | X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 25.6 | | | 上山田・天神山式 | 全面LRの斜縄文。内外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 414 | X13Y14<br>X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前期前葉 | 羽島下層II式並行か？羽状縄文を地文とし、口縁部に逆「3」字状刺突文を施す。 | 破片 |
| 33図 | 415 | X8Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | 30.8 | | | 早期後葉以降 | 全面にRLの斜縄文を施す。内外面煤付着。 | 口~体 2/3 |
| | 416 | X9Y13<br>X11Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口縁部半隆起線文による肥厚化。口縁部及び頸部に押引文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 417 | X6~10Y9 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 全面LRの斜縄文。表面のみ煤付着。 | 破片 |
| | 418 | X11·12<br>Y21·22<br>X14Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 全面LRの斜縄文を施す。口唇部裏面に一単位の突起貼り付け。 | 破片 |
| | 419 | X12Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 頸部に3条の沈線文、間に角状列点文を施す。 | 破片 |
| | 420 | X14Y14<br>X14Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | 42.0 | | | 串田新式 | 口縁部はナデによる無文帯、頸部から胴部にかけて5単位の櫛描文を地文とし、胴部に2条の沈線文を施す。 | 口 1/8 |
| | 421 | X9Y13<br>X9Y14 | 縄文土器 | 鉢 | 13.0 | | | 北白川下層Ib式 | 口唇部に爪形刺突文、口縁部から胴部にかけて「DJ」字形爪形文を施す。 | 口 1/3 |
| | 422 | X9Y18<br>X10Y16 | 縄文土器 | 底部 | | | 7.8 | | 中期後半から後期前半にかけての底部。胴部に縄文もしくは篦描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 ほぼ完存 |
| | 423 | X11·12<br>Y21·22<br>X14Y21 | 縄文土器 | 底部 | | | 7.2 | | 中期後半から後期前半にかけての底部。胴部に縄文もしくは篦描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 2/3 |
| | 424 | X10Y15<br>X10Y16 | 縄文土器 | 底部 | | | 13.8 | | 中期後半から後期前半にかけての底部。胴部に縄文もしくは篦描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 2/3 |
| | 425 | X10Y15<br>X10Y16 | 縄文土器 | 底部 | | | 8.2 | | 中期後半から後期前半にかけての底部。胴部に縄文もしくは篦描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 完存 |
| | 426 | X10Y12 | 縄文土器 | 底部 | | | | | 中期後半から後期前半にかけての底部。胴部に縄文もしくは篦描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 破片 |
| | 427 | X14Y22<br>X14Y23 | 縄文土器 | 底部 | | | 12.7 | | 中期後半から後期前半にかけての底部。胴部に縄文もしくは篦描き文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 1/2 |
| | 428 | X8Y13<br>X10Y14 | 縄文土器 | 底部 | | | 6.4 | 朝日C式 | 底部周辺から底辺にかけて刺突文を施す。内面煤付着。 | 底 2/3 |
| 34図 | 429 | X12Y12 | 石器 | 磨製石斧 | 3.5 | 1.6 | 0.4 | | 重量 4g 蛇紋岩 | 完形 |
| | 430 | X8Y12 | 石器 | 石錘 | 7.3 | 7.4 | 2.7 | | 重量 255g 安山岩 | 完形 |
| | 431 | X9Y14 | 石器 | 石錘 | 6.3 | 6.3 | 1.2 | | 重量 79 g | 完形 |
| | 432 | X9Y14 | 石器 | 石錘 | 5.8 | 6.0 | 2.4 | | 重量 117 g | 完形 |
| | 433 | X9Y16 | 縄文土器 | 土器片錘 | 8.5 | 6.6 | 0.7 | | | 完形 |
| | 434 | X12Y18 | 縄文土器 | 土器片錘 | 6.6 | 6.0 | 0.9 | | | 完形 |
| | 435 | X12Y20 | 縄文土器 | 土器片錘 | 8.6 | 5.2 | 0.9 | | | 完形 |
| | 436 | X11Y10 | 縄文土器 | 土器片錘 | 4.7 | 4.7 | 0.9 | | | 完形 |
| | 437 | X10Y13 | 縄文土器 | 土器片錘 | 6.0 | 6.0 | 0.9 | | | 完形 |
| | 438 | X10Y12 | 石器 | 磨石 | 8.7 | 9.1 | 7.4 | | 片面に敲用痕 重量 756 g | 完形 |
| | 439 | X11Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | 25.9 | | | 新保式 | 口端部をやや肥厚化し、3箇の半隆起線文を施す。胴部にも半隆起線文と胴部にかけて垂下する貼付降帯を施し、LRの縄文を施す。外面煤付着。 | ほぼ完形 |
| | 440 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 口縁部に半隆起線文、その上に刻み目を施す。頸部にも同様の施文をし、胴部にかけて垂下させる粘土貼付をおこなう。 | 破片 |
| | 441 | X14Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 多条半隆起線文、屈曲部には刻み目を施す。 | 破片 |
| | 442 | X14Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 口縁部に半隆起線文、その上に刻み目を施す。 | 破片 |
| | 443 | X10Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 442と同様の施文。 | 破片 |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径（長さ） | 器高（幅） | 底径（厚さ） | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 34図 | 444 | X10Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 口縁部に半隆起線文、その上に刻み目を施す。 | 破片 |
| | 445 | X11Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 口縁部に半隆起線文。胴部は縦位の半隆起線文、摩滅が著しく不明瞭だが縄文を施す。 | 破片 |
| | 446 | X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 口縁部に刻み、多条の半隆起線文を施す。半隆起線文の間をRLの斜縄文。 | 破片 |
| | 447 | X10Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 口縁部をやや肥厚させ、刻み目を施す。その下、半隆起線文、LRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 448 | X14Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 口端部に刻み目、多条の半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 449 | X13Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 多条半隆起線文、刻み目を施す。 | 破片 |
| | 450 | X14Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口端部をやや肥厚させ、粘土帯を貼り付ける。口縁部はRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 451 | X13Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁部に蓮華文、胴部は多条半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 452 | X13Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 多条半隆起線文、垂下させる粘土帯を施し、隆起線文内には擬撚糸文を施す。 | 破片 |
| | 453 | X14Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 古府式 | 多条半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 454 | X14Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 古府式 | 口縁部に半隆起線文、三角刺突文を施す。頸部には無文帯で、胴部にはLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 455 | X13Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 古府式 | 多条半隆起線文を施し、半隆起線文内にやや節の大きな縄文を施す。 | 破片 |
| | 456 | X14Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 古府式 | 半隆起線文、その間に擬撚糸文を施す。 | 破片 |
| | 457 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁部・胴部ともLRの斜縄文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 458 | X9Y12 X10Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 口縁部を肩由させ、貼付隆帯上にLRの縄文を施す。隆帯内に蛇行沈線文を施す。 | 破片 |
| | 459 | X10Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 3単位もしくは4単位の擬撚糸文を施す。 | 破片 |
| | 460 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 破片 |
| | 461 | X13Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 破片 |
| | 462 | X10Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 破片 |
| | 463 | X8Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 破片 |
| | 464 | X11Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 破片 |
| | 465 | X9Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 粗製。外面煤付着。 | 破片 |
| | 466 | X8Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 破片 |
| | 467 | X8Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 破片 |
| | 468 | X11Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | 23.8 | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 口 1/4 |
| | 469 | X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 破片 |
| | 470 | X11Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 破片 |
| | 471 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 破片 |
| | 472 | X7Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 20.8 | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 口 1/6 |
| | 473 | X10Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期中葉以降 | 粗製。 | 破片 |
| 35図 | 474 | X10Y15 X11Y15 | 縄文土器 | 浅鉢 | 32.8 | | | 新崎式 | 口縁部に半隆起線文、胴部は縦位の羽状縄文を施す。 | 口 1/5 |
| | 475 | X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式以降 | RLの縄文地に2連の沈線文を施す。補修孔あり。内外面煤付着。 | 破片 |
| | 476 | X8Y12 X8Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口縁部に刻み目、胴部にLRの斜縄文を施した後、ナデ調整をおこなっている。 | 破片 |
| | 477 | X13Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 28.0 | | | 中期中葉以降 | 全体にLRの斜縄文を施す。表面に煤が付着。 | 口 1/4 |
| | 478 | X11Y12 X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 36.1 | | | 串田新式 | 口縁部をやや肥厚させ、貝殻腹縁による刺突を施す。頸部には半隆起線文。 | 破片 |
| | 479 | X10Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 半隆起線文上に貝殻腹縁による刺突、縦位の沈線文、横位の沈線文を施す。沈線文内には列点文を施す。 | 破片 |
| | 480 | X12Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 多条沈線文、その内部に刻み目を施す。 | 破片 |
| | 481 | X10Y13 X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 29.5 | | | 前田式 | 頸部に沈線文、その内部に列点文、蛇行沈線文などを施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 482 | X14Y22 | 縄文土器 | 深鉢 | 23.0 | | | 気屋式 | 口縁部にRLの斜縄文、頸部に2連の三角押引文、その下胴部にはRLの縦位縄文を施す。 | 破片 |
| | 483 | X11Y17 X11Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | 39.6 | | | 気屋式 | 口縁部をやや肥厚させ、多条の沈線文を施す。頸部には三角刺突文を2連にわたり、胴部はRLの縦位縄文を施す。外面煤付着。 | 口 1/4 |
| | 484 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 山形口縁部波頂部を基点に刺突をおこない、頸部に3連の三角押引文を施す。胴部にRLの縦位縄文を施す。 | 破片 |
| | 485 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部にRLの斜縄文、頸部に3連の三角押引文を施す。 | 破片 |
| | 486 | X12Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | 34.2 | | | 気屋式 | 口唇部及び口縁部に押引文、頸部には三角押引文を施す。山形口縁部波頂部に刺突を施す。 | 口 1/5 |
| | 487 | X11Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 古府式 | 口縁部に蛇行貼付隆帯、胴部はRLの斜縄文を施す。内面煤付着。 | 破片 |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径<br>長さ | 器高<br>幅 | 底径<br>厚さ | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35図 | 488 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢か | 29.7 | | | 前田式～気屋式 | 口縁部に沈線文、頸部に蛇行押引文を施す。外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 489 | X13Y28 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口唇部に突起を貼り付け、口縁部から頸部にかけて多条半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 490 | X10Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 口縁部に貼付隆帯、頸部の隆帯と連結させる縦位の隆帯を施す。隆帯内は沈線文。 | 破片 |
| | 491 | X11Y16 | 縄文土器 | 浅鉢 | 42.5 | | | 前田式～気屋式 | 口縁部に沈線文を施す。 | 破片 |
| | 492 | X8Y13<br>X10Y14 | 縄文土器 | 底部 | | | | 早期後半<br>～前期前半 | 尖底。表面のみ条痕文。 | 底 1/8 |
| | 493 | X13Y20<br>X14Y20 | 縄文土器 | 底部 | | | 11.5 | 中期～後期 | 全面にRLの斜縄文。裏面の煤には植子付着。内外面煤付着。 | 底 1/8 |
| | 494 | X12Y22 | 縄文土器 | 底部 | | | 10.2 | 中期前半以降 | 全面RLの斜縄文。内外面煤付着。 | 底下半 1/2 |
| | 495 | X10Y12 | 縄文土器 | 底部 | | | 6.4 | 中期後半以降 | | 底 完存 |
| | 496 | X10Y13 | 縄文土器 | 浅鉢 | 23.8 | | | 前田式～気屋式 | 口縁部から頸部にかけて、2連の沈線文内に列点文を施す。口唇部には沈線文及び刺突文を施す。 | 口 1/3 |
| | 497 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 新堀式以降 | 口縁部に粘土帯を貼り付け、その上に縄文を施す。 | 破片 |
| | 498 | X14Y20 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 全面LRの斜縄文地に口縁部は刻み、頸部は3連の沈線文を施す。 | 破片 |
| | 499 | X14Y12 | 縄文土器 | 鉢 | 21.5 | | | 新保式 | 口縁部に2連の沈線文、頸部に半隆起線文、半隆起線文上には刻み目を施す。口縁部から頸部にかけて粘土帯を垂下させ、その上に短沈線を施す。胴部はRLの斜縄文。外面煤付着。 | 破片 |
| | 500 | X14Y12 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 新保式 | 口唇部に突起を貼り付け、全面LRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| 36図 | 501 | X14Y15 | 縄文土器 | 鉢 | 11.4 | | | 早期後半<br>～前期前半 | 半截竹管による「S」字状刺突文を施す。 | 口 1/3 |
| | 502 | X11Y16 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 新崎式 | 口縁部に押引文、半隆起線文を2条施す。頸部は無文帯。 | 破片 |
| | 503 | X6Y16<br>X9Y16<br>X10Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | 26.0 | | | 新崎式<br>～上山田・天神山式 | 口唇部に突起を貼り付け。口縁部に半隆起線文及び沈線文、頸部に多条半隆起線文及び隆描き文、貼付隆帯、連華文を施す。 | 口 1/3 |
| | 504 | X7Y13<br>X9Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | 20.9 | 20.8 | 7.5 | 上山田・天神山式 | 口唇部に貼付隆帯、口縁部をやや肥厚させ、刻み目を施す。口縁部及び頸部には多条半隆起線文、胴部は縄文地に縦位の半隆起線文を施す。内外面煤付着。 | ほぼ完形 |
| | 505 | X11-12Y21-22<br>X12Y22 | 縄文土器 | 鉢 | 15.6 | | | 上山田・天神山式 | 口縁部及び頸部に沈線文、その間に刻み目を施す。口縁部から胴部にかけて縦位の半隆起線文を施す。 | 口 1/3 |
| | 506 | X9Y16<br>X10Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部無文帯で、頸部に蛇行沈線文、胴部はRLの縦位縄文を施す。 | 破片 |
| | 507 | X12Y17 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 新崎式以降 | 口縁部に刻み目、頸部は半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 508 | X12Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 横位の半隆起線文及び縦位の半隆起線文を施し、その間に櫛描き文を施す。 | 破片 |
| | 509 | X14Y22<br>X14Y27 | 縄文土器 | 深鉢 | 31.6 | | | 気屋式 | 口縁部及び頸部に三角押引文、胴部はRLの縦位縄文を施す。 | 破片 |
| | 510 | X8Y16<br>X9Y16 | 縄文土器 | 鉢 | 18.5 | | | 堀之内2式並行 | 口縁部をやや肥厚させ、口縁部から胴部にかけて磨消縄文を施す。 | 破片 |
| | 511 | X14Y22<br>X14Y27 | 縄文土器 | 深鉢 | 27.5 | | | 気屋式 | 口縁端部にRLの斜縄文、胴部はRLの縦位縄文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 512 | X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | 19.0 | | | 後期前半 | 口縁端部をやや肥厚させ、胴部はLRの斜縄文を施す。 | 口 1/5 |
| | 513 | X10Y11 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 中期後葉以降 | 狐製。縄文施文のみ。外面煤付着。 | 破片 |
| | 514 | X11Y14 | 縄文土器 | 土器片錘 | | | | | | |
| | 515 | X12Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口縁端部を肥厚させ、口縁部は無文帯、胴部はRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 516 | X10Y15<br>X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期後葉以降 | 帰製。縄文施文のみで、施文後にナデをおこなっている。 | 破片 |
| | 517 | X12Y17 | 縄文土器 | 浅鉢 | 29.4 | | | 気屋式 | 無文なし。 | 破片 |
| | 518 | X12Y19 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 蛇行沈線文、その末端に刺突文を施す。 | 破片 |
| | 519 | X11Y19 | 石器 | 石鏃 | 6.4 | 6.3 | 2.0 | | 両欠きもしくは切り目。重量122g 安山岩 | 完形 |
| | 520 | X11Y15 | 石器 | 石鏃 | 5.7 | 4.2 | 2.0 | | 両欠きもしくは切り目。重量68g | 完形 |
| | 521 | X11Y17 | 石器 | 石鏃 | 5.0 | 4.7 | 1.9 | | 両欠きもしくは切り目。重量73g | 完形 |
| | 522 | X11Y15 | 石器 | 石鏃 | 4.7 | 3.8 | 1.0 | | 両欠きもしくは切り目。重量28g<br>紐をかけた痕跡。 | 完形 |
| | 523 | X10Y15 | 石器 | 石皿 | 16.6 | 17.0 | 5.3 | | 両面に擦痕あり。重量1,513g | |
| | 524 | X14Y27 | 縄文土器 | 土製円盤 | 7.9 | 7.7 | 0.9 | | | 完形 |
| | 525 | X14Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口縁部をやや肥厚させ、刻み目を施す。口縁部には半隆起線文を横位・縦位、貼付隆帯を施す。 | 破片 |
| | 526 | X14Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 古府式 | 口縁部にやや太めの半隆起線文を満状に、その上に刻みを施す。 | 破片 |
| | 527 | X15Y14 | 縄文土器 | 土製円盤 | 7.8 | 8.2 | 0.9 | 新崎式 | 新崎式の土器片を利用。 | |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径（長さ） | 器高（幅） | 底径（厚さ） | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 36図 | 528 | X12Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁端部をやや肥厚させ、その上に刻みを施す。口縁部は半隆起線文。 | 破片 |
| | 529 | X9Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 縦位の半隆起線文内にRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 530 | X13Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁端部を肥厚させ、半隆起線文を施す。口縁部は蕨葉文、頸部は半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 531 | X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口縁部に半隆起線文、その上に刻みを施す。 | 破片 |
| | 532 | X14Y12 | 縄文土器 | 浅鉢 | | | | 新崎式 | 口縁部に多条の半隆起線文、渦状の半隆起線文を施す。胴部はLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 533 | X13Y16 | 縄文土器 | 底部 | | | 10.0 | 新崎式期 | 底辺周辺まで縦位の半隆起線文、その間に刻み目を施す。 | 底 1/8 |
| | 534 | X14Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 口縁端部をやや肥厚させ、口縁部には連の沈線文を施す。 | 破片 |
| | 535 | X11Y19 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 口縁部は無文帯で、頸部に刻み及び沈線文を施す。 | 破片 |
| | 536 | X10Y20<br>X11Y19 | 縄文土器 | 深鉢 | 20.5 | | | 前田式～気屋式 | 口縁部には無文帯で、頸部から胴部にかけて平行沈線文や蛇行沈線文を施す。外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 537 | X12Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 口縁部は無文帯で、頸部の沈線文内に列点文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 538 | X11Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部に刻み、沈線文、頸部に三角押引文を施す。 | 破片 |
| | 539 | X14Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前期 | ループ縄文を全面に施す。 | 破片 |
| | 540 | X11Y15 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 口縁部をやや肥厚させ、全面にRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 541 | X12Y17 | 縄文土器 | 浅鉢 | 15.5 | | | 気屋式 | 沿状の把手を付ける。 | 破片 |
| | 542 | X12Y14 | 縄文土器 | 底部 | | | | 前期撚糸以降 | 底辺周辺で羽状縄文。 | 底 1/2 |
| | 543 | X11Y16<br>X12Y17 | 縄文土器 | 底部 | | | | 串田新式以降 | 底辺周辺まで強撚3文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 破片 |
| 37図 | 544 | X12Y18 | 石器 | 磨製石斧 | | 5.5 | 2.8 | | 刃部 重量118g 蛇紋岩 | |
| | 545 | X10Y19 | 石器 | 石錘 | 5.5 | 3.7 | 1.9 | | 重量62g | 完形 |
| | 546 | X10Y17 | 石器 | 敲石 | 8.4 | 6.3 | 3.2 | | 重量238g | 完形 |
| | 547 | X12Y11 | 縄文土器 | 土器片錘 | | 5.2 | 0.9 | | | |
| | 548 | X17Y12 | 石器 | 擦切石器? | 32.2 | 16.9 | 8.2 | | 重量6,200g | |
| | 549 | X11Y18 | 土製品 | ドーナツ状 | 15.8 | 16.3 | 8.0 | | | 完形 |
| | 550 | X12Y12<br>X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 口縁部はナデによる無文帯で、頸部に沈線文、その間に列点文を施す。胴部はLRの斜縄文。 | 体上半 1/4 |
| | 551 | X13Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | 33.9 | | | 前田式～気屋式 | 口縁部無文帯で、頸部に平行沈線文や蛇行沈線文を施す。胴部はRLの縦走縄文。 | 口 2/3 |
| | 552 | X11-12<br>Y21-22 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部にLRの斜縄文、頸部に三角押引文、胴部は縦走縄文。 | 破片 |
| | 553 | X11-12<br>Y21-22 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁端部にRLの斜縄文、口縁部は半隆起線文、頸部から胴部にかけては縦走縄文、頸部に三角押引文を施す。 | 破片 |
| | 554 | X11-12<br>Y21-22 | 縄文土器 | 深鉢 | 28.2 | | | 気屋式 | 口縁端部に刻み目、頸部にも同様の刻み目を施す。口縁部に2連の側突文。外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 555 | X9Y13<br>X11Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 頸部に三角押引文、胴部にRLの縦走縄文を施す。内外面煤付着。 | 体 2/3 |
| 38図 | 556 | X12Y13 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口縁部をやや肥厚させ、多条半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 557 | X13Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口唇部に沈線文、口縁部に半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 558 | X12Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 縦位の半隆起線文内に、刻みを施す。 | 破片 |
| | 559 | X11Y16 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口縁部に粘土帯を垂下させ、全面にRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 560 | X10Y14 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口縁部を肥厚させ、その直下に刻み目を施す。 | 破片 |
| | 561 | X11-12Y21-22<br>X12Y23 | 縄文土器 | 深鉢 | 23.0 | | | 上山田・天神山式以降 | 粗製。全面LRの斜縄文を施す。 | 口 7/8 |
| | 562 | X9Y18 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式以降 | 粗製。口縁部をやや肥厚させ、全面RLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 563 | X13Y12 | 縄文土器 | 深鉢 | 26.0 | | | 串田新式<br>～前田式 | 口縁部無文帯で、頸部に押引文を施す。 | 口 1/4 |
| | 564 | X13Y12<br>X13Y13 | 縄文土器 | 底部 | | | 9.1 | 後期 | 縄文施文のみだが、施文後にナデ調整をおこなう。底辺に網代圧痕が残存する。 | 底 1/3 | 底部完存 |
| | 565 | X15Y17 | 縄文土器 | 底部 | | | 14.0 | 中期前葉 | しっかりした底形。胴部はLRの無節縄文を施す。胴部及び底辺に煤が付着。 | 底 完存 |
| | 566 | X13Y13 | 縄文土器 | 底部 | | | 9.8 | 中期後葉 | 底辺周辺までRLの縦走縄文を施す。海綿骨針を含む。 | 底 1/3 |
| | 567 | X11-12Y21-22 | 縄文土器 | 底部 | | | 11.0 | 後期中葉 | 施文なし。 | 底 1/3 | 底部完存 |
| | 568 | X10Y20 | 石器 | 砥石 | 12.1 | 14.5 | 5.4 | | 重量1,285g | 完形 |
| | 569 | X10Y23 | 石器 | 磨り敲石 | 11.0 | 8.0 | 4.6 | | 磨り石と敲石の両方の機能を備える。重量642g | 完形 |
| | 570 | X10Y23 | 石器 | 磨り敲石 | 11.3 | 9.3 | 3.7 | | 磨り石と敲石の両方の機能を備える 重量599g | 完形 |
| | 571 | 排土 | 石器 | 磨り敲石 | 11.0 | 9.2 | 4.1 | | 磨り石と敲石の両方の機能を備える。重量667g | 完形 |
| | 572 | X10Y23 | 石器 | 敲石 | 8.5 | 6.2 | 3.6 | | 重量261g 蛇紋岩 | 完形 |
| | 573 | 排土 | 縄文土器 | 土器片錘 | 7.6 | 5.7 | 0.7 | | | |
| | 574 | X11Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | 26.3 | | | ド野式 | 口唇部押圧による波状口縁を成形。その他施文なし。外面煤付着。 | 破片 |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径【長さ | 器高 幅 | 底径 厚さ】 | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 38図 | 575 | X11Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 口唇部を肥厚させ、口縁部に半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 576 | X13Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新崎式 | 多条半隆起線文、その内部に刻み目を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 577 | X11Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 口縁部に半隆起線文、頸部に貝殻腹縁文を施す。裏面口縁部付近にも沈線文を施す。 | 破片 |
| | 578 | X11Y11 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 口縁端部をやや肥厚させ、沈線文を巡らす。頸部は縦沈線帯と縄文を施す。 | 破片 |
| 39図 | 579 | SX07 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式 | 頸部に縦位の沈線文、平行沈線文、沈線文内に短沈線もしくは9点文を施す。胴部はRLの綾絡文。 | 体 2/3 |
| | 580 | SX07 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 口縁部無文帯で、頸部に平行沈線文、胴部は縦走縄文を施す。 | 破片 |
| | 581 | SX07 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 後期中葉 | 口端部に粘土帯を貼り付け、その他はRLの斜縄文施文のみ。 | 破片 |
| | 582 | SX07 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 隆帯を垂下させる。 | 破片 |
| | 583 | SX07 | 縄文土器 | 底部 | | | 11.2 | | 後期の底部。胴部周辺まで縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底ほぼ完存 |
| | 584 | SX07 | 縄文土器 | 底部 | | | 11.6 | | 後期の底部。胴部周辺まで縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 完存 |
| | 585 | SX07 | 縄文土器 | 底部 | | | 11.6 | | 後期の底部。胴部周辺まで縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 完存 |
| | 586 | SX07 | 縄文土器 | 底部 | | | 10.8 | | 後期の底部。胴部周辺まで縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。内外面煤付着。 | 底 4/5 |
| | 587 | SX07 | 縄文土器 | 底部 | | | 9.1 | | 後期の底部。胴部周辺まで縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。外面煤付着。 | 底ほぼ完存 |
| | 588 | SX07 | 縄文土器 | 底部 | | | 5.1 | | 後期の底部。胴部周辺まで縄文を施す。 | 底 完存 |
| 40図 | 589 | SX09 | 石器 | ノッチ状石器 | 2.8 | 2.7 | 0.9 | | 重量 6g チャート | |
| | 590 | SX09 | 石器 | 磨製石斧 | 3.3 | 1.7 | 0.5 | | ノミ状磨製石斧。重量 4g 結晶岩 | 完形 |
| | 591 | SX09 | 石器 | 磨製石斧 | 13.4 | 6.2 | 3.0 | | 重量362g 結晶岩 | ほぼ完形 |
| | 592 | SX09 | 石器 | 石錘 | 9.0 | 6.8 | 2.2 | | 両欠き。焼きこげ 重量195g | 完形 |
| | 593 | SX09 | 石器 | 石錘 | 7.0 | 4.4 | 1.9 | | 両欠き。重量104g | 完形 |
| | 594 | SX09 | 石器 | 石錘 | 5.7 | 5.1 | 1.8 | | 両欠き。重量78g | 完形 |
| | 595 | SX09 | 石器 | 石錘 | 3.7 | 3.5 | 1.7 | | 両欠き。重量34g | 完形 |
| | 596 | SX09 | 縄文土器 | 土器片錘 | 4.0 | 4.3 | 0.6 | | 両面に擦を施す | ほぼ完形 |
| | 597 | SX09 | 縄文土器 | 土器片錘 | | 4.4 | 1.1 | | | 1/2 |
| | 598 | SX09 | 縄文土器 | 土器片錘 | | 5.0 | 1.3 | | | |
| | 599 | SX09 | 縄文土器 | 土器片錘 | | 7.0 | 0.9 | | | |
| | 600 | SX09 | 縄文土器 | 土器片錘 | | 4.7 | 0.8 | | | |
| | 601 | SX09 | 縄文土器 | 土器片錘 | | 4.8 | 0.8 | | | |
| | 602 | SX09 | 縄文土器 | 土器片錘 | | 5.5 | 1.2 | | | |
| | 603 | SX09 | 縄文土器 | 土器片錘 | | 5.0 | 0.8 | | | |
| | 604 | SX09 | 縄文土器 | 土器片錘 | | 4.7 | 0.8 | | | |
| | 605 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 北白川下層式並行 | 口縁部から頸部にかけて「C」字形爪形文を施す。裏面は条痕調整。内外面煤付着。 | 破片 |
| | 606 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 30.6 | | | 新保式 | 口唇部に粘土帯を貼り付け、口端部に刻み目を施す。口縁部から頸部にかけて半隆起線文。 | 破片 |
| | 607 | X14Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 口端部に半隆起線文、口縁部にはRLの斜縄文、頸部には半隆起線文を施す。 | 破片 |
| | 608 | X14Y17 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 口端部をやや肥厚させ、刻み目を施す。口縁部から頸部にかけて半隆起線文を垂下させ、その間には盤描き文を施す。 | 破片 |
| | 609 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 23.5 | | | 新保式 | 口端部をやや肥厚させ、口縁部に半隆起線文を施す。口縁部と頸部を連結させる垂下半隆起線文、頸部には、LRの斜縄文地に沈線文を施す。 | 口 1/8 |
| | 610 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 口端部をやや肥厚させ、刻み目を施す。口縁部には半隆起線文を施し、頸部は無文帯。 | 破片 |
| | 611 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 半隆起線文内に盤描き文を施す。 | 破片 |
| | 612 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 23.3 | | | 上山田・天神山式 | 口縁部に半隆起線文、三角刺突文、眼鏡状突起を施す。頸部に半隆起線文、胴部はRLの斜縄文を施す。 | 口 1/4 |
| | 613 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口端部に半隆起線文、頸部も同様の半隆起線文を施す。その間の口縁部は三角刺突を施す。 | 破片 |
| | 614 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 多条の半隆起線文を施し、その間に三角刺突文を施す。内外面煤付着。 | 破片 |
| | 615 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 横位の半隆起線文、渦状の半隆起線文、三角刺突文を施す。 | 破片 |
| | 616 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | 11.0 | 上山田・天神山式 | 隆起線文及び三角刺突文、列点文を施す。内面に煤が付着。 | 破片 |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径（長さ） | 器高（幅） | 底径（厚さ） | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40図 | 617 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 円状の沈線文を口縁部付近、頸部には波状沈線文を施す。その間は無文帯で、胴部はRLの縦走縄文。 | 破片 |
| | 618 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 前田式～気屋式 | 蛇行沈線文を施す。 | 破片 |
| | 619 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 25.2 | | | 岩崎野式 | 口縁部から頸部にかけて沈線文及び蛇行沈線文を施す。外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 620 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 21.8 | 23.6 | 12.1 | 気屋式 | 口縁部は無文帯で、頸部に半隆起線文を巡らす。半隆起線文には隅臨に三角刺突文、胴部には縦位の多条半隆起線文及び蛇行沈線文を施す。底部底辺には脚状圧痕が残存する。外面煤付着。 | 完形 |
| | 621 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 前田式 | 口端部をやや肥厚させ、その直下は半隆起線文を施す。半隆起線文の下には三角刺突文。外面煤付着。 | 破片 |
| | 622 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 31.3 | | | 上山田・天神山式 | 口縁部から頸部にかけて沈線文・列点文を施す。 | 破片 |
| | 623 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 32.2 | | | 前田式 | 口縁部と頸部には多条の半隆起線文、口縁部文様帯と頸部文様帯を連結させる隆帯を施す。胴部は縦位の半隆起線文。 | 口 1/4 |
| 41図 | 624 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 多条の半隆起線文、蛇華文、渦状の隆帯、隆帯上には刻み目を施す。内外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 625 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 蛇華文、頸部に半隆起線文を施す。内面煤付着。 | 破片 |
| | 626 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | (21.3) | | | 串田新式 | 口縁部から頸部にかけて横位の沈線文、間に斜位の沈線文を施す。頸部は2連の沈線文の間に刺突を施す。胴部はLRの縦走縄文。内外面煤付着。 | 口 1/8 |
| | 627 | SX09 | 縄文土器 | 浅鉢 | 40.2 | | | 前田式～気屋式 | 口縁部に沈線文、頸部に波状沈線文を施す。 | 破片 |
| | 628 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。外面煤付着。 | 破片 |
| | 629 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 29.4 | | | 気屋式 | 口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。 | 口 1/6 |
| | 630 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 30.3 | | | 気屋式 | 口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。 | 口 1/4 |
| | 631 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 28.0 | | | 気屋式 | 口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。外面煤付着。 | 破片 |
| | 632 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 23.8 | | | 気屋式 | 口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。内外面煤付着。 | 口 1/4 |
| | 633 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 29.4 | | | 気屋式 | 口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。 | 口 1/2 |
| | 634 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。 | 破片 |
| | 635 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。 | 破片 |
| | 636 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。 | 破片 |
| | 637 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 24.7 | | | 気屋式 | 口縁部に縄文もしくは沈線文、頸部に三角押引文を施す。胴部は全てRLの縦走縄文。内面煤付着。 | 口 1/4 |
| | 638 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口唇部に沈線文を施し、沈線文末端部に刺突をおこなう。山形口縁波頂部に沈線文及び刺突文、頸部に沈線文を施す。 | 破片 |
| | 639 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 新保式 | 多条の半隆起線文、その間にLRの斜縄文を施す。内面煤付着。 | 破片 |
| | 640 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 26.5 | | | 串田新式～気屋式 | 口縁部は山形口縁に沿った沈線文を巡らし、胴部はRLの斜縄文を施す。内外面煤付着。 | (1/2)完形 |
| | 641 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | (41.4) | | | 串田新式～気屋式 | 640と同様だが、口縁部に巡らす沈線文の数が多い。胴部に同様のRLの斜縄文を施す。 | 口 1/2 |
| 42図 | 642 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 21.8 | | | 気屋式 | 口縁部にRLの斜縄文、頸部は無文帯。胴部にRLの縦走縄文を施す。内外面煤付着。 | 口 3/4 |
| | 643 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 22.5 | | | 気屋式 | 口唇部及び口縁部にRLの斜縄文、頸部から胴部にかけてはRLの縦走縄文を施す。 | 口 1/6 |
| | 644 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁帯部に粘土帯を貼り付け肥厚させ、刺突をおこなう。口縁部はRLの斜縄文、頸部から胴部にかけてはRLの縦走縄文を施す。 | 破片 |
| | 645 | SX09 | 縄文土器 | 鉢 | 36.3 | | | 気屋式期 | 口縁部に沈線文を1条、胴部にRLの縦走縄文を施す。 | 口 1/4 |
| | 646 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 口唇部をやや肥厚させ、口縁部に2連の半隆起線文、頸部から胴部にかけてRLの斜縄文を施す。外面煤付着。 | 破片 |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径（長さ） | 器高（幅） | 底径（厚さ） | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 42図 | 647 | SX09 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部は無文帯で、頸部に1条の沈線文を巡らす。胴部はRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 648 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 気屋式 | LRの縄文地、口縁部に1条の沈線文を巡らす。 | 破片 |
| | 649 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期後葉以降 | 全体LRの斜縄文。口縁部に刻み目を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 650 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 気屋式 | 口縁部は無文帯で、頸部に1条の沈線文を巡らし、胴部はLRの斜縄文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 651 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 中期後葉以降 | 口縁端部をやや肥厚させ、全体に横位の羽状縄文を施す。 | 破片 |
| | 652 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 粗製。全体にLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 653 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 後期 | 全体にRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 654 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 後期 | 口唇部を肥厚させ、口縁端部に刻みを施す。口縁部以下はLRの斜縄文。外面煤付着。 | 破片 |
| | 655 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 後期 | 口唇部を肥厚させ、口縁端部に刻みを施す。口縁部以下はLRの斜縄文。 | 破片 |
| | 656 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 後期 | 粗製。全面にLR・RLの縄文を施す。 | 破片 |
| | 657 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 後期 | 粗製。全面にLR・RLの縄文を施す。口縁部無文帯。 | 破片 |
| | 658 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 後期 | 粗製。全面にLR・RLの縄文を施す。口縁部無文帯。 | 破片 |
| | 659 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 北白川下層IIa式 | 口縁部に「C」字形爪形文、胴部にRLの斜縄文を施す。外面煤付着。 | 破片 |
| | 660 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部は無文帯で、頸部から胴部にかけてRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 661 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 全体にRLの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 662 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢か | | | | 中期中葉以降 | 口唇部をやや肥厚させ、全体にLRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 663 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 10.7 | | | 中期中葉以降 | 施文なし。全体的に煤が付着している。 | 口 1/4 |
| | 664 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | 6.0 | | 施文なし。内外面煤付着。 | 底 1/8 |
| | 665 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 上山田・天神山式 | 全体にLRの斜縄文を施す。内外面煤付着。 | 破片 |
| | 666 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 気屋式 | 口縁部はLRの斜縄文、頸部は無文帯、胴部は口縁部と同様LRの斜縄文を施す。 | 破片 |
| | 667 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | 31.8 | | | 串田新式 | 口縁部と頸部に平行沈線文、その間に菱形沈線文を施す。外面煤付着。 | 口 1/3 |
| | 668 | SX09 | 縄文土器 | 石付浅鉢 | | | | 串田新式 | 施文なし。 | 体下半 1/3 |
| 43図 | 669 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | (14.0) | 中期前葉 | 全面、二枚貝による条痕調整。底部底辺に網代圧痕が残存する。外面煤付着。 | 底～体下半 1/3 |
| | 670 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | 8.1 | 後期前葉 | 底辺周辺までLRもしくはRLの縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 ほぼ完存 |
| | 671 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | 8.0 | 後期前葉 | 底辺周辺までLRもしくはRLの縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 完存 |
| | 672 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | 7.3 | 後期前葉 | 底辺周辺までLRもしくはRLの縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 完存 |
| | 673 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | 10.8 | 後期前葉 | 底辺周辺までLRもしくはRLの縄文を施す。 | 底 2/3 |
| | 674 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | 9.5 | 後期前葉 | 底辺周辺までLRもしくはRLの縄文を施し、底辺には網代圧痕が残存する。 | 底 完存 |
| | 675 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | 13.3 | 中期 | 胴部は施文なし。底部底辺に葉脈状圧痕が残存する。内面煤付着。 | 底 1/2 |
| | 676 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | 14.0 | 中期 | 底辺周辺までRLの斜縄文を施す。内外面煤付着。 | 底 1/3 |
| | 677 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | 10.3 | 新保式 | 底辺まで縄文地に半隆起線文もしくは、半隆起線文に刻みを施す。網代圧痕が残存する。 | 底 1/4 |
| | 678 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | 8.2 | 新保式 | 底辺まで縄文地に半隆起線文もしくは、半隆起線文に刻みを施す。 | 破片 |
| | 679 | SX09 | 縄文土器 | 鉢 | 46.2 | | | 新崎式 | 口唇部をやや肥厚させる。その他は施文なし。 | 口 1/6 |
| | 680 | SX09 | 縄文土器 | 底部 | | | 8.0 | 後期 | 胴部は施文なし、底部底辺に網代圧痕が残存する。 | 底 1/2 |
| | 681 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | | | | 串田新式 | 摩滅のため不明瞭だが、半隆起線文上に刻みを施す。 | 破片 |
| | 682 | SX09 | 縄文土器 | 深鉢 | (18.0) | | | 後期前葉 | 口縁部を大きく開曲させ、内面にせり出しを成形する。 | 口 1/5 |
| | 683 | SX09 | 縄文土器 | 鉢 | 22.6 | | | 後期前葉 | 施文なし。 | 口 1/3 |
| | 684 | SX09 | 縄文土器 | 鉢 | 34.0 | | | 後期前葉 | 地文なし。 | 破片 |
| | 685 | SX09 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 気屋式 | 渦状もしくは平行沈線文を施し、平行沈線文の末端には刺突を施す。 | 体上半 1/8 |
| | 686 | SX09 | 縄文土器 | 鉢 | | | | 前田式 | 鉢形土器の把手部。 | 破片 |
| | 687 | SX10 | 縄文土器 | 深鉢 | 24.6 | | | 前田式～気屋式 | 口縁端部を肥厚させ、口縁部から頸部にかけて平行沈線文、口縁部と頸部の平行沈線文を連結させる蛇行沈線文を施す。内外面煤付着。 | 口 1/4 |
| 44図 | 688 | X14Y33 | 木製品 | 長方状木製品 | 139.8 | 3.3 | 3.4 | | | |
| | 689 | X14Y32 | 木製品 | 板状木製品 | 19.9 | 12.3 | 1.7 | | | |

口：口縁部　底：底部　体：体部

| 図版 | No. | 遺構・出土区 | 種類 | 器種 | 口径（長さ） | 器高（幅） | 底径（厚さ） | 時期 | 備考 | 残存量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 44図 | 690 | X14Y14 | 木製品 | 弾弦状板状木製品 | 24.3 | 10.3 | 2.6 | | 農耕具もしくは起耕具として石川県八日市地方遺跡にて類例あり。 | |
| | 691 | X13Y14 | 木製品 | 棒状木製品 | 51.0 | 2.4 | 2.0 | | | |
| | 692 | X10Y16 | 木製品 | 板状木製品 | 25.8 | 2.3 | 1.3 | | | |
| | 693 | X13Y16 | 木製品 | ウキ状木製品 | 6.6 | 2.5 | 2.7 | | | |
| | 694 | X11Y13 | 木製品 | 建築部材？ | 11.0 | 2.7 | 2.3 | | | |
| | 695 | X13Y17 | 木製品 | 板状木製品 | 24.5 | 3.7 | 1.8 | | | |
| 45図 | 696 | X14Y18 | 木製品 | 加工状木製品 | 24.8 | 1.4 | 1.5 | | イヌガヤ。 | 完形 |
| | 697 | X13Y17 | 木製品 | 加工状木製品 | 12.5 | 1.1 | 1.1 | | イヌガヤ。 | |
| | 698 | X10+11Y2-3 | 木製品 | 方形状木製品 | 125.1 | 15.5 | 15.5 | | クヌギ。 | 完形 |
| 46図 | 699 | X14Y15 | 木製品 | 掘棒？ | 95.0 | 4.2 | 2.4 | | コナラ。 | ほぼ完形 |
| | 700 | X11Y12 | 木製品 | 掘棒？ | 89.5 | 8.7 | 5.3 | | | |
| | 701 | X14Y18 | 木製品 | 掘棒？ | 84.5 | 6.0 | 4.8 | | | |
| | 702 | X13Y17 | 木製品 | 掘棒？ | 68.2 | 4.8 | 3.6 | | | |
| | 703 | X13Y14 | 木製品 | 板状木製品 | 27.0 | 11.8 | 3.8 | | | |
| | 704 | X15Y18 | 木製品 | 建築部材？ | 39.0 | 6.2 | 3.0 | | | |
| | 705 | X13Y17 | 木製品 | 建築部材？ | 23.5 | 16.5 | 7.0 | | | |
| | 706 | X13Y18 | 木製品 | 棒状木製品 | 44.6 | 2.7 | 2.7 | | | |
| 47図 | 707 | X13Y15 | 木製品 | 棒状木製品 | 57.8 | 4.4 | 4.3 | | | |
| | 708 | X13Y15 | 木製品 | 棒状木製品 | 69.3 | 7.8 | 4.0 | | | |
| | 709 | X12Y11 | 木製品 | 棒状木製品 | 52.0 | 3.4 | 1.7 | | | |
| | 710 | X12Y18 | 木製品 | 棒状木製品 | 24.6 | 4.6 | 1.8 | | | |
| | 711 | X13Y18 | 木製品 | 棒状木製品 | 147.7 | 8.5 | 9.4 | | | |
| | 712 | SX09 | 木製品 | 棒状木製品 | 26.2 | 5.3 | 4.8 | | | |
| | 713 | SX08 | 縄文土器 | 深鉢 | 24.1 | | | 気屋式 | 施文なし。 | 破片 |
| | 714 | SX08 | 縄文土器 | 深鉢 | 25.8 | | | | 口縁部無文帯で、頸部に平行沈線文を3条、その下3連の刺突文を施す。胴部はLRの縦走縄文。 | 口 1/4 |
| | 715 | SX08 | 石器 | 石錘 | 8.7 | 5.2 | 1.3 | | 両打欠石錘。重量 85g | 完形 |
| 48図 | 716 | X12Y18 | 木製品 | 建築部材？ | 175.0 | 18.9 | 15.9 | | オニグルミ。 | |
| | 717 | X12Y17 | 木製品 | 建築部材？ | 70.9 | 12.3 | 12.3 | | トネリコ属。 | |

口：口縁部　底：底部　体：体部